

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 234

南 方 遺 跡

岡山法務総合庁舎新営に伴う発掘調査

2012

岡 山 県 教 育 委 員 会

巻頭図版 1



1 1区全景（東から）



2 2区全景（東から）

卷頭図版 2



1 「岡山伊勢宮絵図」における調査地位置（枠線内）

「岡山伊勢宮絵図」(宝永五年ごろ) <部分拡大および加筆>岡山大学付属図書館蔵



2 「備前岡山地理家宅一枚図」における調査地位置（枠線内）

「備前岡山地理家宅一枚図」(文久元年) <部分拡大および加筆>岡山大学付属図書館蔵

卷頭図版 3



1



7



10



18



17



21



42



41



38



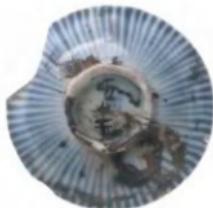
86



78



88



89



83



91



99

井戸 1・土壌 2・土壌 11 出土陶磁器

卷頭図版 4



95



105



142



173



169



208



165



194



195



M25部分

土壤 11・15・18・19・25・満 1 出土陶磁器・金属器

序

岡山市北区の南方遺跡は、岡山県三大河川の一つ旭川の下流平野に位置する県下有数の複合遺跡として知られています。なかでも、弥生時代前期から中期にかけて岡山県を代表する集落遺跡として有名です。これまでに数多くの調査が実施されていますが、岡山市教育委員会が平成5～7年度に実施した発掘調査では、遺跡の中を流れる旧河道から弥生時代中期を中心とする時期の多数の木器・木製品が見つかり、その質・量と保存状態の良さは全国的に注目されることとなりました。

このたび、岡山法務総合庁舎が新営されることになりましたが、建設予定地が周知の南方遺跡の範囲内に当たるため、岡山県教育委員会では関係機関と協議を行った結果、平成20年度に確認調査を実施し、平成22年度に本発掘調査を実施することとしました。

発掘調査では、弥生時代後期の上墳・古墳時代前期の井戸とともに江戸時代後半の武家屋敷に伴う遺構を検出しました。特に、石垣を伴う溝と「三谷様」とヘラ書きのある焜炉を出土した上墳の位置が、文久元（1861）年の岡山城下の絵図『備前岡山地理家宅一枚図』と照合すると、そこに描かれた水路および「三谷」家の屋敷地と一致することが判明しました。

この報告書が埋蔵文化財の保護・保存のため活用され、地域の歴史を解明する一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査に際しましては、埋蔵文化財専門委員の先生から有益な御指導・御助言を賜りました。また、岡山地方検察庁をはじめ関係各位、さらに地元の方々から御理解と多大なる御助力を賜りました。ここに記して厚くお礼を申し上げます。

平成24年2月

岡山県古代吉備文化財センター

所長 平井 泰男

例　　言

- 1 本書は、岡山法務総合庁舎新宮に伴い、岡山県教育委員会が岡山地方検察庁の依頼を受け、法務省から支出委任を受けた国土交通省（中国地方整備局岡山営繕事務所）と岡山県の委託契約により、岡山県古代吉備文化財センターが発掘調査を実施した、^{かたなみ}南方遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 南方遺跡は、岡山県岡山市北区南方1丁目8-42ほかに所在する。
- 3 確認調査は、平成20年4月24日～5月2日に和田剛が担当して実施した。調査面積は60m²である。本発掘調査は、平成22年10月1日～平成23年3月31日に柴田英樹・氏平昭則・小嶋善邦・三輪宣生（平成22年10月～12月）が担当して実施した。調査面積は2,161m²である。
- 4 発掘調査にあたっては、埋蔵文化財専門委員から御指導と御助言をいただいた。記して感謝の意を表す次第である。

埋蔵文化財専門委員　　稲田孝司（岡山大学名誉教授）
- 5 本吉の作成は、平成23年4月1日～9月30日に、氏平が担当して実施した。
- 6 本書の執筆は発掘担当者などが行い、文責はそれぞれ文末に示した。全体の編集は氏平が行った。
- 7 動物遺存体の同定については、富岡直人（岡山理科大学）氏に依頼し、有益な御教示を得た。記して厚くお礼を申し上げる。
- 8 樹種・種実同定は株式会社古環境研究所に、花粉・植物珪酸体分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社にそれぞれ委託し、報告文を掲載した。鉄滓等の分析は、株式会社九州テクノリサーチに委託し、大澤正己氏による報告文を掲載した。
- 9 遺物写真の撮影については、江尻泰幸の協力と援助を得た。
- 10 本書に関連する出土遺物および図面・写真等は、岡山県古代吉備文化財センター（岡山市北区西花尻1325-3）に保管している。

凡　　例

- 1 本報告書に用いた高度値は海拔高である。
- 2 本報告書に用いた方位・座標は、平面直角座標第V系（世界測地系）の座標北および数値である。
- 3 本報告書の遺構及び遺物実測図の縮尺率は、図示または明記している。基本的には以下の通りである。

遺構 井戸：1/30 土壙：1/80・1/60・1/30 杭列：1/100

遺物 上器・瓦：1/6・1/5・1/4 木器・木製品：1/8・1/4

石器・石製品・金属製品・土製品：1/3・1/2

- 4 本報告書の遺構配置図において、遺構名を省略する場合は、次に示す略号を用いた。

井戸：井 土壙：土 杭列：杭

- 5 遺物掲載番号のうち上器以外については、その材質にしたがって番号の頭に次の略号を付した。

石器・石製品：S 木器・木製品：W 金属製品：M 土製品：C

ガラス製品：G 貝製品：B

- 6 掘査した土器のうち中軸線の両側に白抜きのあるものは、小片のため径が不確実なものである。

- 7 土層断面図・遺物等に使用した土色は、「新版標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修）に準拠している。陶磁器の釉色等一部には「新版 色の手帖」（永田泰弘監修 小学館 1986）を使用した。

- 8 本報告書第2図に掲載した地図は、国土地理院発行1/25,000地形図の「岡山北部」・「岡山南部」を複製し、加筆したものである。

- 9 本報告書の時代・時期区分は、一般的な政治史区分に準拠し、室町時代以降は主に世紀を使用している。

目 次

巻頭図版

序

例 言

凡 例

日 次

第1章 遺跡の位置と環境.....	1
第2章 調査の経緯.....	3
第1節 発掘調査の経緯と経過.....	3
1 発掘調査の経緯.....	3
2 確認調査.....	4
3 本発掘調査の経過.....	4
第2節 報告書作成の経過.....	5
第3節 日誌抄.....	5
第4節 発掘調査および報告書作成の体制.....	5
第3章 発掘調査の成果.....	7
第1節 調査区の概要.....	7
第2節 江戸時代の遺構と遺物.....	8
1 概要.....	8
2 井戸.....	9
3 土壌.....	11
4 溝.....	30
5 杭列.....	37
6 包含層出土遺物.....	37
第3節 中世以前の遺構と遺物.....	39
1 概要.....	39
2 井戸.....	40
3 土壌.....	40
4 溝・たわみ.....	41
5 包含層出土遺物.....	42
第4章 総括.....	44
付載	
1 南方遺跡出土鍛冶関連遺物の分析.....	48
2 南方遺跡土壌の花粉・植物珪藻体分析.....	54
3 南方遺跡の種実・樹種同定結果.....	56
4 南方遺跡出土動物遺体属性表.....	58
遺構一覧表.....	59
遺物観察表.....	60
図版	
報告書抄録	

図 目 次

第1図 遺跡位置図 (1/1,500,000).....	1	(1/600・高さ1/100)	7
第2図 周辺遺跡分布図 (1/25,000).....	2	第7図 江戸時代遺構全体図 (1/300)	8
第3図 調査区位置図 (1/2,000).....	3	第8図 井戸1 (1/30)・出土遺物1 (1/4)	9
第4図 T 2 (1/150).....	4	第9図 井戸1出土遺物2 (1/4)	10
第5図 T 3 (1/150).....	4	第10図 井戸1出土遺物3 (1/4・1/3)	11
第6図 検出遺構全図と上層柱状図		第11図 井戸2 (1/30)	11

第12回	土壟1 (1/80)・出土遺物 (1/4・1/3)	12	第38回	土壟25 (1/80)・出土遺物 (1/6・1/4)	27
第13回	土壟2 (1/80)・出土遺物 1 (1/4)	12	第39回	土壟26 (1/60)・出土遺物 (1/4)	28
第14回	土壟2出土遺物 2 (1/4)	13	第40回	土壟27 (1/60)	28
第15回	土壟3・4 (1/60)・出土遺物 (1/4・1/3)	13	第41回	土壟28 (1/80)・出土遺物 (1/4)	29
第16回	土壟5 (1/60)・出土遺物 (1/4)	14	第42回	土壟29 (1/60)・出土遺物 (1/4)	29
第17回	土壟6 (1/60)・出土遺物 (1/4・1/3)	14	第43回	溝1断面図 (1/60)	30
第18回	土壟7 (1/80)	14	第44回	溝1 A・溝1 B① (1/100)	31
第19回	土壟7出土遺物 (1/6・1/4・1/3)	15	第45回	溝1 B②・③ (1/100)	32
第20回	土壟8 (1/60)	16	第46回	溝1C (1/100)	33
第21回	土壟9 (1/80)・出土遺物 (1/4)	16	第47回	溝1出土遺物 1 (1/4・1/3)	34
第22回	土壟10 (1/60)・出土遺物 (1/5・1/4)	16	第48回	溝1出土遺物 2 (1/3・1/2)	35
第23回	土壟11 (1/60)・出土遺物 1 (1/4)	17	第49回	溝1出土遺物 3 (1/4)	36
第24回	土壟11出土遺物 2 (1/4)	18	第50回	溝2 (1/30)	36
第25回	土壟11出土遺物 3 (1/4)	19	第51回	溝3 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/3)	36
第26回	土壟11出土遺物 4 (1/6・1/5・1/4・1/3)	20	第52回	溝4 (1/30)	36
第27回	土壟12 (1/80)・出土遺物 (1/4)	21	第53回	杭列1 (1/100)	37
第28回	土壟13 (1/80)・出土遺物 (1/4)	22	第54回	杭列2 (1/100)	37
第29回	土壟14 (1/60)	22	第55回	江戸時代以降包含層出土遺物 (1/4・1/3)	38
第30回	土壟15・16 (1/80)・出土遺物 (1/4・1/3)	23	第56回	中世以前遺構全体図 (1/300)	39
第31回	土壟17・18 (1/80)・出土遺物 (1/4・1/3)	23	第57回	井戸3 (1/30)・出土遺物 (1/8・1/4)	40
第32回	土壟19 (1/80)・出土遺物 (1/4・1/3)	24	第58回	土壟30 (1/30)・出土遺物 (1/4)	41
第33回	土壟20 (1/80)・出土遺物 (1/4・1/3)	25	第59回	土壟31 (1/30)	41
第34回	土壟21 (1/80)・出土遺物 (1/4・1/3)	26	第60回	溝5～8・たわみ1・2 (1/60・1/30)・出土遺物 (1/4)	42
第35回	土壟22 (1/80)・出土遺物 (1/4)	26	第61回	中世以前包含層出土遺物 (1/4・1/2)	43
第36回	土壟23 (1/60)・出土遺物 (1/4)	26	第62回	弥生・古墳時代の剥在区周辺 (1/3,000)	44
第37回	土壟24 (1/60)・出土遺物 (1/4)	27	第63回	岡山伊勢宮絵図 [1708 (宝永5)年ごろ]と遺構 配置図 (1/1,000)	45
			第64回	備前岡山地理家宅一枚図 [1861 (文久元)年]と 遺構配置図 (1/1,000)	46

写真目次

写真1	溝1 B①作業風景 (西から)	31	写真4	現地説明会の様子1 (平成23年2月19日)	43
写真2	1区作業風景 (北西から)	43	写真5	現地説明会の様子2 (平成23年2月19日)	43
写真3	2区作業風景 (南西から)	43			

図版目次

卷頭図版1	1 1区全景 (東から) 2 2区全景 (東から)	図版3	1 土壟25～28・溝3 (北から) 2 溝1北側 (北から)
卷頭図版2	1 岡山伊勢宮絵図 [における調査地位置 (枠線内)] 2 「備前岡山地理家宅一枚図」における調査地 位置 (枠線内)	図版4	溝1 (北から)
卷頭図版3	井戸1・土壟2・土壟11出土陶器	図版5	1 溝1南側 (北から) 2 溝1北側部分 (南東から)
卷頭図版4	土壟11・15・18・19・25・溝1出土陶器・金 属器	図版6	3 溝1北側断面 (北から) 4 杭列2 (西から) 5 井戸3 (北から)
図版1	1 井戸1半面 (北から)・断面 (南から) 2 土壟4・5・6・杭列1 (東から) 3 土壟7～12・溝3 (北から)	図版7	6 井戸1・土壟1・2・4・6・7・9・11出土 遺物
図版2	1 土壟19・20・22・23 (北から) 2 土壟19・22 (東から)	図版8	7 土壟11・15・18出土遺物
		図版9	8 土壟19・20・21・22・24・29・溝1出土遺物
		図版10	9 溝1・江戸時代以降包含層出土遺物 10 井戸3・包含層出土遺物

第1章 遺跡の位置と環境

南方遺跡は岡山平野北西部に位置する集落遺跡で、岡山市北区南方一帯に広がっている。岡山平野北西部は、西を標高が70mの京山、北を標高150m前後の半田山山塊、東を岡山県3大河川の一つ旭川で囲まれている。この中には、北東から南西に細長い微高地が多数形成されている。

旭川と西から注ぎ込む筆ヶ瀬川の堆積が進み、绳文時代後期には津島岡大遺跡の北東部に竪穴住居が認められていた⁽¹⁾が、晩期には津島遺跡まで生活圏が南進している。伊福定国前遺跡の珪藻分析では、弥生時代前期に河口干潟から後背湿地への変化が推定され⁽²⁾、平野は急速に拡大したことがわかる。弥生時代前期から中期では、微高地縁辺に水田、微高地上に集落と墓域が位置する状況が復元されている。津島遺跡では低位部で水田関連遺構が確認されている⁽³⁾。南方遺跡では、前期後葉から中期後葉にかけての土壙墓群が検出され、その1基からは細型銅劍の先端片が出土した⁽⁴⁾。昭和54年度の発掘調査では、中期中葉の堅穴住居を確認している⁽⁵⁾。弥生時代中期後葉から古墳時代前半にかけて、鹿田遺跡⁽⁶⁾・伊福定国前遺跡などで新規の集落が確認できる。南方遺跡では古墳時代初頭の竪穴住居を6棟確認している⁽⁷⁾。弥生時代後期から古墳時代前半には、京山・半田山山塊を中心に墳墓が造営され、旭川西岸地域の首長系列を追うことができる。中でも4世紀後半～5世紀に位置づけられる神宮寺山古墳は、平地にある全長150mの前方後円墳で旭川西岸最大の規模を誇る。古墳時代後半の集落は、北方下流遺跡で確認されているが、半田山丘陵南側・京山周辺で横穴式石室は皆無である。古代から中世は伊福定国前遺跡⁽⁷⁾、鹿田遺跡、大供本町遺跡⁽⁸⁾で集落が見られる。津島江道遺跡⁽⁹⁾では官衙的施設が想定され、鹿田遺跡は鹿田荘との関連が指摘されている。

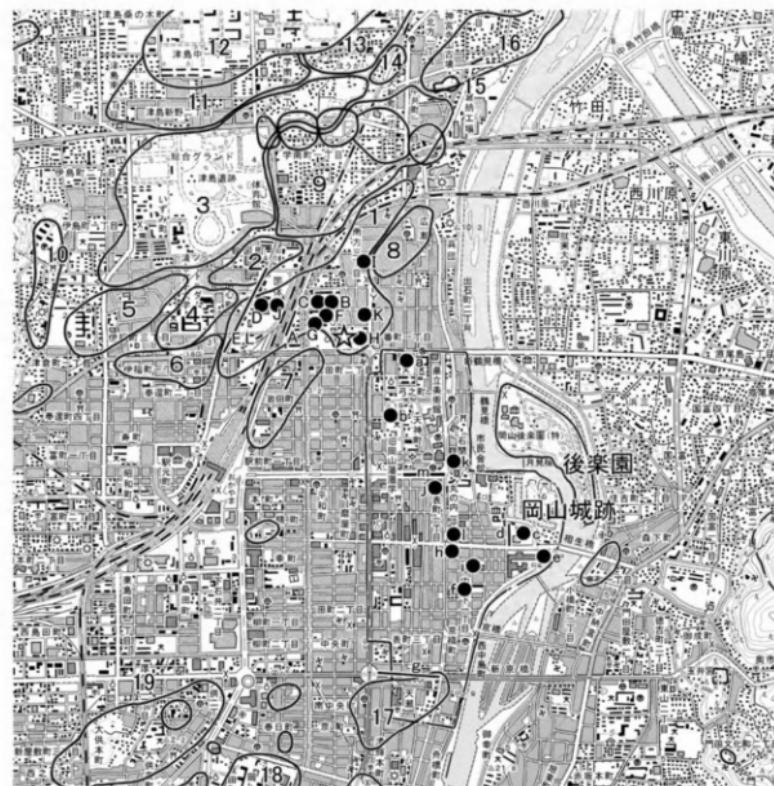
近世は、慶長2(1597)年の宇喜多秀家の岡山城築城以降備前国の中心部となり、その後城下町の拡張が行われた。南方遺跡の範囲は外堀と西川に挟まれ、南部は一部が侍屋敷、北側は南方村で田畠が広がる景観であった。明治8(1875)年に外堀が埋められてからは市街化が進んでいく。(氏平)

註

- (1) 「津島岡大遺跡16」-第17・22次調査-環境理工学部
棟新宮「岡山大学構内遺跡発掘調査報告」第21冊
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 2005
- (2) 「伊福定国前遺跡2」「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」188 岡山県教育委員会 2005
- (3) 「津島遺跡2」「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」151 岡山県教育委員会 2000
- (4) 第2回の文献A
- (5) 第2回の文献B
- (6) 「鹿田遺跡I」「岡山大学構内遺跡発掘調査報告」3 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 1988
- (7) 「伊福定国前遺跡」「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」224 岡山県教育委員会 2010
- (8) 「大供本町遺跡」「岡山市埋蔵文化財センター年報」8 岡山市教育委員会 2009
- (9) 「津島江道遺跡」「岡山県埋蔵文化財報告」18 1988



第1図 遺跡位置図 (1/1,500,000)



1 南方遺跡 2 松岡遺跡 3 津島遺跡 4 上伊福遺跡 5 上伊福・伊福田前通跡 6 上伊福(立花)遺跡 7 (生落・秀生)遺跡 8 佐瀬道跡 9 北方上沼・横田・中沼・地蔵・飛力内通跡 10 上伊福・尾針神社前通跡 11 津島新道跡 12 西岡大通跡 13 津島川道跡
14 故布地 15 神吉山古墳 16 北方古川道跡 17 大瀬遺跡 18 鶴山通跡 19 (故布地)

南方遺跡内の主な発掘調査地点 事業名 調査元 調査年度

A 昭和放送による市道整修工事「南方道路免耕地査定報告」、1969・70 B 国文院地方総研医療センター「黒報告」40, 1979 同石炭町研究会「南方(国文院)遺跡発掘調査報告」、1980 C 総合図鑑・ボランティア-NPO会館「黒報告」196, 2004 D 病院建設(南方瀬川町内区)「山概要」、1994・1995 E 国近53号キャブシステム「黒報告」110, 1994 F 子育て支援センター「山理文セ年報」9, 2008 G 犬柴島中学校「市理文セ年報」9, 2008 現地説明会資料、2009 H 広島高裁・岡山地方法院裁成令付併え「黒報告」200, 2004 I 福武駅前本社建設(南方茶山通跡)同現地説明会資料、1986~1989 J マンション建設(南方(四体開発)通跡)同現地説明会資料、1992 K 共同住宅建設(南方(岡山牛乳)通跡)「市概要」、1995 L 市線地中化(南方(中野)道路)「市概要」、1995

岡山城下の主な発掘調査地点 事業名 調査元 調査年度

a 旧弘西小(「外山輪」)「市理文セ年報」3・4, 2003・2004 b 中央中(「外山輪」)「市理文セ年報」4・5・7・8 「岡山城」之外山輪跡
c 同山落落学校跡「市理文セ年報」2, 2003・2004・2006・2007 県立図書館(「ノ丸」)「黒報告」175, 1999 d 山道丸の内16号線(「ノ丸」)「山理文セ年報」4, 2003 e 県庁舎増設(「ノ丸」)「黒報告」78, 1989 f 中電変電所(「ノ丸」)同建設事業文庫調査委員会調査報告、1994「市概要」、1996「国道2号共同説(外院)「黒報告」154, 1992 1996 1998 g 宇野日勤本(「ノ丸」)「山概要」、1997「拂拂基礎団(「ノ丸」)「山理文セ年報」8, 2007 h 茶寮ホール建設(「ノ丸輪」)「岡山城」之外山輪「市概要」、1989 k ホテル建設(「ノ丸輪」)「岡山城内丸」、1989 l 中國銀行本店建設(「ノ丸」)、1990 m 地下駐車場建設(中野・内原)同岡山市埋蔵文化財調査報告「19, 20, 1989, 1990

* 「黒報告」=岡山市埋蔵文化財免耕査定報告、「市概要」=岡山市埋蔵文化財調査の概要、「市理文セ年報」=岡山市埋蔵文化財センター年報の略

第2図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

第2章 調査の経緯

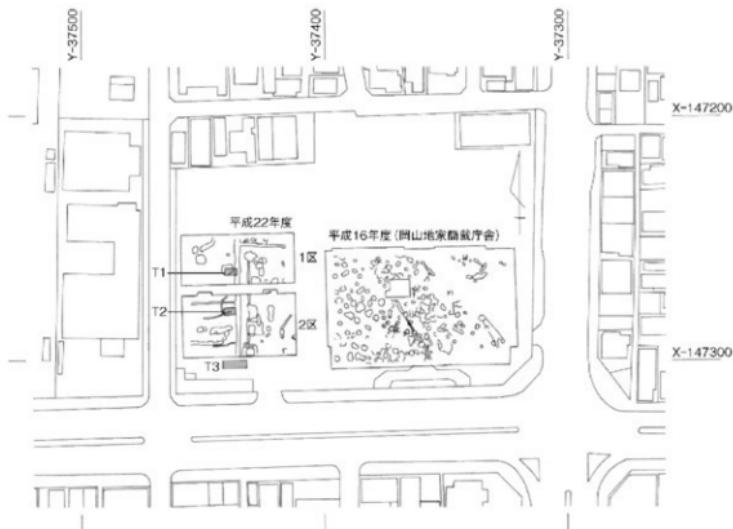
第1節 発掘調査の経緯と経過

1 発掘調査の経緯

平成19年6月、岡山地方検察庁から岡山県教育庁文化財課に対して、南方遺跡として周知されている岡山市北区南方1丁目8-42ほかにおいて、法務総合庁舎を建設したい旨の協議がなされた。文化財課では、東隣で平成16年に実施した発掘調査成果から、協議対象地にも弥生時代の微高地が想定されたため、遺構面の海拔高、遺構の密度等を把握するための確認調査を実施することとした。

平成20年4～5月に実施した確認調査の結果は次項に詳しいが、海拔1.4～1.5mと、想定に反してやや低い位置で、遺構密度は希薄であるが、弥生時代の微高地が続くことを確認した。

この確認調査成果に基づいて、文化財課は、文化財保護法第94条の規定による岡山地方検察庁からの埋蔵文化財発掘通知に対して、平成20年10月1日付で発掘調査の実施を勧告した。発掘調査については、法務省から支出委任を受けた国土交通省（中国地方整備局岡山營繕事務所）と岡山県の委託契約により、岡山県古代吉備文化財センターが平成22年度に実施した。
(光永真一)

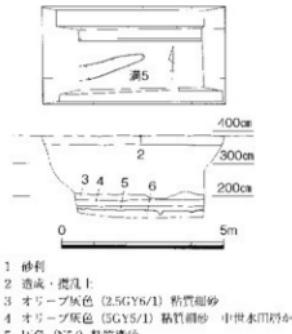


第3図 調査区位置図 (1/2,000)

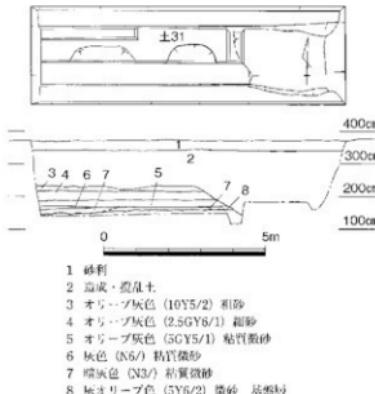
2 確認調査

平成20年4月24日から5月2日にかけて、遺跡の内容把握を目的として、T 1～T 3の3本のトレーニングを設定し、確認調査を実施した。調査の結果、全トレーニングで近現代の造成・搅乱土が地表下1.6m付近まで存在し、その下層に砂層、粘土層の水平堆積を確認した。粘土層の下半については、検出高や土層の特徴から、平成16年度発掘調査時の中世水田層と同じと考えた。この水田層の下層に灰色粘土層が存在する。さらにその下層、海拔1.4m～1.5mで黄褐色の微高地基盤層を確認した。T 1では現代搅乱が基盤層まで達していて遺構の有無を確認できなかったが、T 2では溝（本吉掘削溝5）を、T 3では袋状土壌（本書掲載土壤31）を基盤層上面において検出した。

各トレーニングの基盤層上面は、平成16年度調査区のそれより20cmほど低く、調査地内でもT 1からT 3へ向かって10cm程度下がる。しかし、T 2・T 3で遺構を確認したことから、調査区全体が微高地であると予想した。
(氏平)



第4図 T 2 (1/150)



第5図 T 3 (1/150)

3 本発掘調査の経過

発掘調査は、計画された建物の平面構造に従い南北2つの調査区にわけて実施した。北側の1区は951m²、南側の2区は1,210m²を測り、調査総面積は2,161m²である。排出土置き場が十分に確保できないため1区を先行して調査を行い、2区の排出土に備えた。ただし2区西端については遺構確認や重機進入のため、1区とあわせて調査を実施した。調査期間は、既存建物の解体撤去完了後の平成22年10月から翌年3月までの6か月である。調査員は10～12月に4名、1～3月に3名が担当した。調査開始間もなく、江戸時代の遺構が残存することが判明し、絵図との照合可能な寺町の一角が確認できた。一方で調査の進行に伴い、隣接地（現裁判所）と比べて弥生時代の遺構が少ないことも明らかとなつた。平成23年1月には埋蔵文化財専門委員 稲田孝司氏に現地指導をいただいた。同年2月に調査成果を公開するために現地説明会を開催した。現地での記録保存終了後に埋め戻しを行い、3月にすべての調査を完了した。
(柴田)

第2節 報告書作成の経過

平成23年4月から、発掘調査担当者1名が岡山県古代吉備文化財センターにおいて報告書作成作業を実施した。出土遺物の洗浄・注記は現場事務所で終了していたので、センターでは出土遺物の接合・復元及び遺物の抽出と実測を行った。遺物実測図の浄書、造構図面の整理・下図作成・浄書は調査員が行った。遺物の掲載については、土壤出土で、その中で最も新しい遺物を中心に掲載している。溝1の陶磁器については、古い時期の溝（溝1A・B）埋土上出と断定できた遺物を中心に掲載した。最も新しい溝（溝1C）埋土とその上層の造成土から陶磁器が多数出土しているが、そのほとんどは包含層出土遺物として扱っている。

(氏平)

第3節 日誌抄

平成20年度（確認調査）		12月10日（金） 2区調査開始
平成20年		平成23年
4月24日（金）	発掘資材搬入、調査開始	1月26日（水） 埋蔵文化財専門委員現地指導
5月2日（金）	調査終了	2月3日（木） 2区近世造構面全景写真撮影
	平成22年度（本発掘調査）	2月19日（土） 現地説明会開催
平成22年		3月4日（金） 1区調査終了
10月1日（金）	発掘調査事業開始	3月10日（木） 2区調査終了
10月6日（水）	発掘資材搬入、1区及び2区西	3月31日（水） 発掘調査事業終了
	調査開始	平成23年度（報告書作成）
12月7日（火）	1区造構全景写真撮影、2区西	4月1日（金） 報告書作成事業開始
	調査終了	9月30日（金） 報告書作成事業終了

第4節 発掘調査および報告書作成の体制

平成20年度		岡山県古代吉備文化財センター	
岡山県教育委員会		所長	藤川 洋二
教育長	門野八洲雄	次長（総務課長事務取扱）	小林 勝
岡山県教育庁		参事	岡田 博
教育次長	岡野 健一	<総務課>	
文化財課		総括副参事（総務班長）	若林 一憲
課長	三村 修	主任	福池 光修
参事	木山 潤郎	主任	中島 忍
参事	田村 啓介	<調査第一課>	
総括副参事（埋蔵文化財班長）	光永 真一	課長	中野 雅美
主任	小嶋 善邦	総括副参事（第一班長）	宇垣 匡雅
主任	平井 利尚	主任	和田 剛
		(確認調査担当)	

平成22年度

岡山県教育委員会

教育長

岡山県教育庁

教育次長

文化財課

課長

参事

総括副参事（埋蔵文化財班長）

主任

主事

岡山県古代吉備文化財センター

所長

次長（総務課長事務取扱）

参事

<総務課>

総括副参事（総務班長）

主任

主任

<調査第一課>

課長

総括主幹（第二班長）

主幹

主任

門野八洲雄

増本好孝

田村啓介

光永貞一

宇垣匡雅

米田克彦

一色武

児仁井克一

片山淳司

中野雅美

上田利弘

植木寿美子

越野忍

行守智和

大橋雅也

柴田英樹

(発掘調査担当)

氏平昭則

(発掘調査担当)

小嶋善邦

主事

(発掘調査担当)

三輪宜生

(発掘調査担当)

平成23年度

岡山県教育委員会

教育長

竹井千庫

岡山県教育庁

阿部淳二

教育次長

文化財課

課長

村木生久

参事

光永貞一

総括副参事（埋蔵文化財班長）

宇垣匡雅

主任

石田爲成

主任

一色武

岡山県古代吉備文化財センター

所長

平井泰男

次長（総務課長事務取扱）

片山淳司

参事

中野雅美

<総務課>

総括副参事（総務班長）

上田利弘

主任

植木寿美子

主任

行守智和

<調査第二課>

課長

弘田和司

総括主幹（第一班長）

渡邊恵里子

主任

氏平昭則

(報告書作成担当)

文化財保護法に基づく提出書類一覧

埋蔵文化財試掘・確認調査の報告

文書番号 L	届け出 年月日	届け出 年月日	種類および名称	所在地	面積 (m ²)	原因	確認地 の有無	報告者	担当者	期日
岡古附 第13号 H20.5.12	同上	集落調 査実施時	岡山市北区西方1 丁目8-42ほか	60	その他遺物 (「山法務組合」会)	有	岡山市大気・埋 蔵文化財センター 所長(兼山川主 任)	相田 崑	平井泰男	H20.4.24～ H20.5.2

埋蔵文化財発掘の通知（法第94条）

岡山県文部 科学省令	種類および名称	所在地	面積 (m ²)	目的	着工者	担当者	予定期日
教文1 第140号 H22.2.15	考古学 調査時	岡山市北区西方1 丁目8-42ほか	5340.91	その他遺物 (「山法務組合」会)	岡山市文部・山川 埋蔵文化財監査 課長(兼山川主 任)	岡田上代一 未定	発掘調査

埋蔵文化財発掘調査の報告（法第99条）

岡山県文部 科学省令 第14号 H22.2.15	種類および名称	所在地	面積 (m ²)	原因	監工者	担当者	期日
岡古附 第24号 H22.2.03	発掘時	岡山市北区西方1 丁目8-42ほか	2,050	その他遺物 (「山法務組合」会)	岡山市大気・埋 蔵文化財センター 所長(兼山川主 任)	西川信重 氏川信重 小崎吉郎 高橋哲	H22.10.1～ H23.3.31

埋蔵文化財発見通知（法第100条第2項）

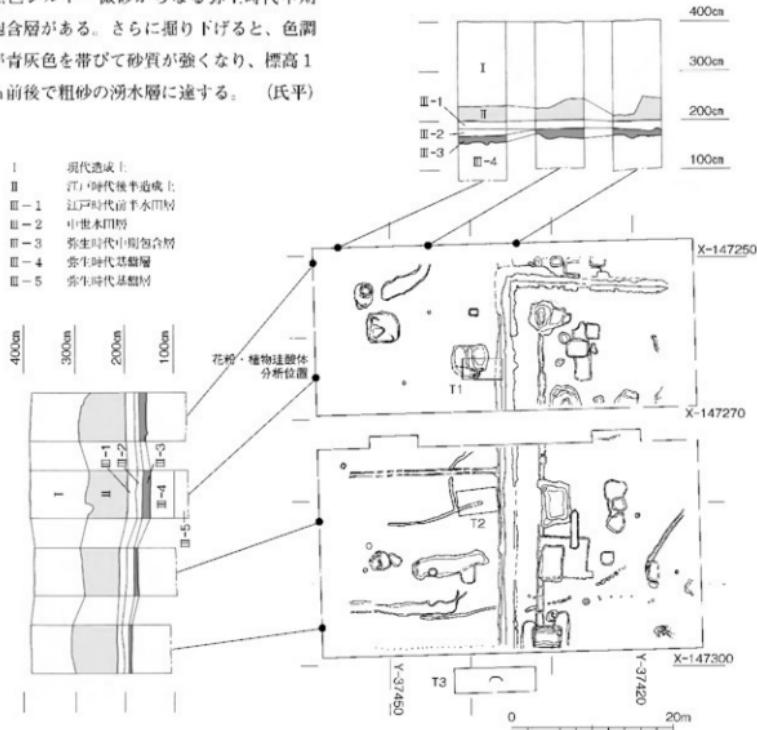
岡山県文部 科学省令 第14号 H22.2.15	物件名	出土地	出土年月日	発見者	土地所有者	現状空場
教文1 第203号 H20.5.2	洗浄土器・陶器等 清掃後 第1号	岡山市北区西方1 丁目8-42ほか 南方道路	H20.4.24～H20.5.4	岡山県教育行政 会員(「山法務組合」会)	岡山市大気・埋 蔵文化財センター 所長(兼山川主 任)	相田上代一 未定
教文1 第136号 H22.3.11	沿・銅鏡片・金銀器・石器 ・瓦器・土器等、ガラス瓶等 計175点	岡山市北区西方1 丁目8-42ほか 南方道路	H22.10.1～H23.3.11	岡山県教育行政 会員(「山法務組合」会)	東山下代田園 町会員(「山川主 任」)	岡山県古吉 備文化財セン ター

第3章 発掘調査の成果

第1節 調査区の概要

調査区は、建物建築部分に設定し、渡り廊下でつながる南北棟間約4mの帯状部分を挟む形である。確認調査T3付近は確認調査以降に設計が変更になり、調査対象外となった。

調査区の上層は、地表から深さ1~1.8mまで第I層の戦後と現代の造成土が存在する。その下に第II層の江戸時代後半の武家屋敷に伴う造成土が存在する。調査区西壁で厚さ0.9mと顕著だが、確認調査トレントより東はほとんど残っていない。その下標高1.7~2mに、第III-1、2層の灰色シルト~微砂層が存在する。中世~江戸時代前半の包含層で、水田層の可能性が高い。その下に第III-3層の黒色シルト~微砂からなる弥生時代中期包含層がある。さらに掘り下げると、色調が青灰色を帯びて砂質が強くなり、標高1m前後で粗砂の湧水層に達する。(氏平)

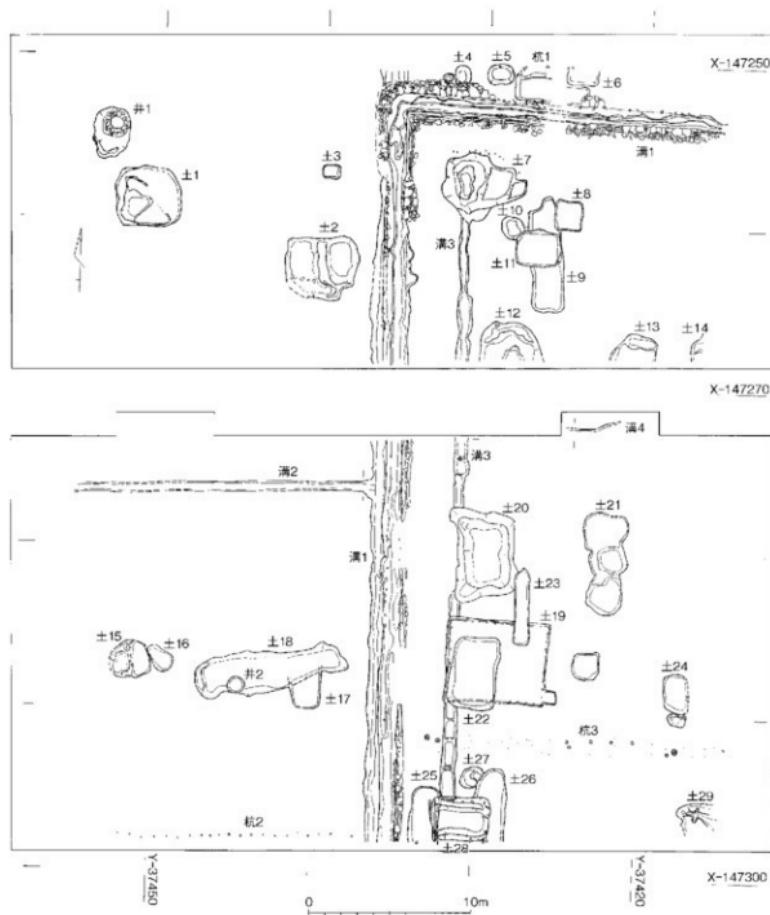


第6図 検出造構全体図と土層柱状図(1/600・高さ1/100)

第2節 江戸時代の遺構と遺物

1 概要

江戸時代の遺構は、井戸2基、土壙34基（内本文記載は29基）、溝3条、杭列3基である。溝1は改修により大きく3時期に区分できる。最も古い溝1Aは2区から1区へ直線に南北に延びるが、次



第7図 江戸時代遺構全体図 (1/300)

の石垣を伴う溝1Bからは1区北端で東に折れる。2区の溝2は溝1に直交して合流し、溝3は溝1の東側に並行する。杭列は1区北端に杭列1、2区南西端に杭列2、2区東側に杭列3といずれも東西方向である。溝4は溝3と同様東西方向の溝であろう。土壌は1区東の土壌4~6が溝1Bより古く、残りは溝1の東西に位置する。

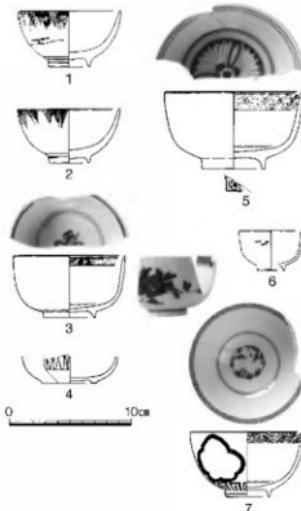
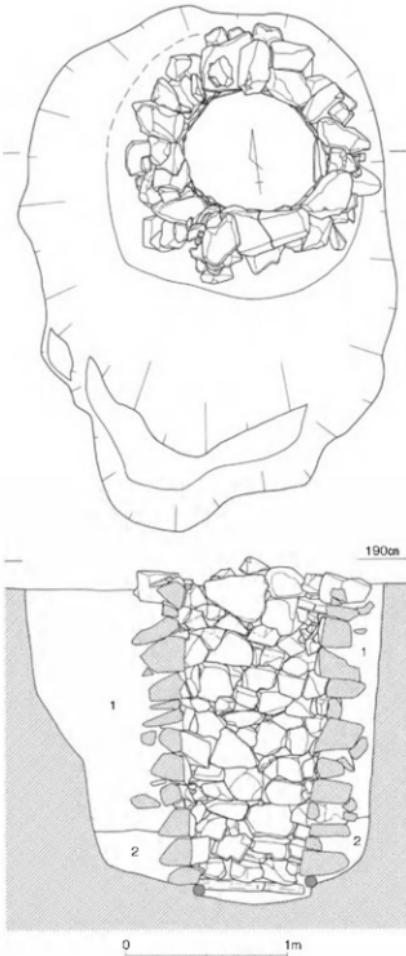
(氏平)

2 井戸

井戸1 (第7~10図、巻頭図版3、図版1・6)

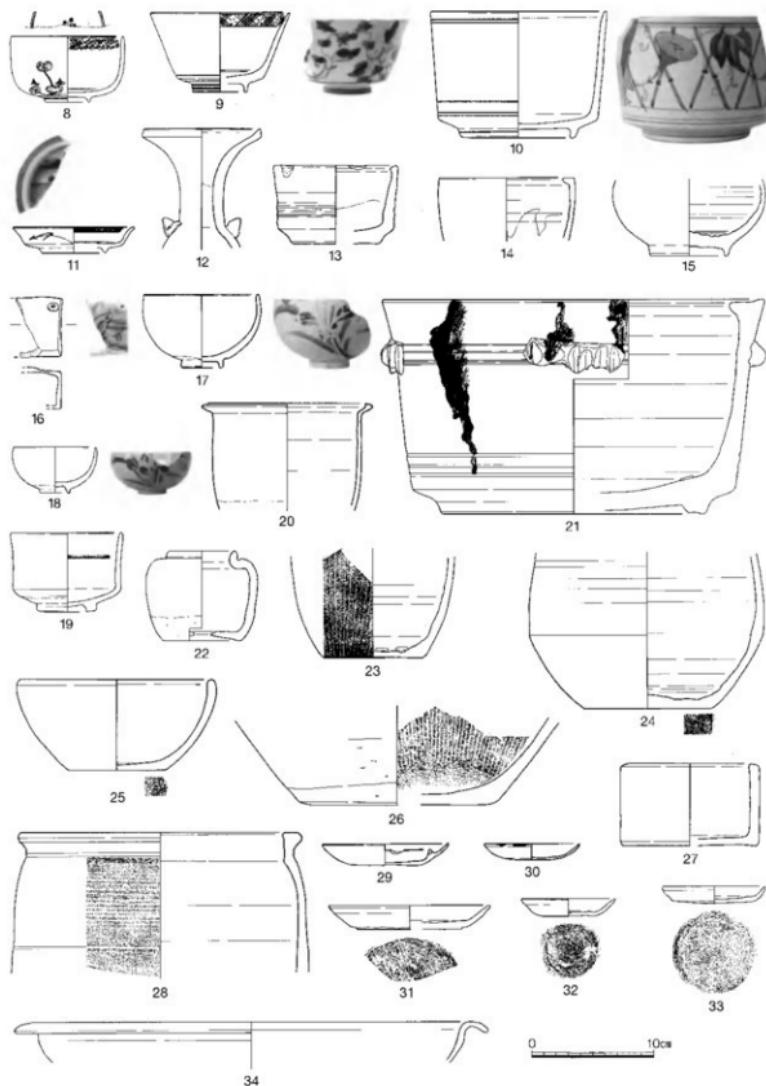
1区西北部に位置している石組みの井戸である。内法は長軸80cm、短軸72cmの円形を呈し、検出面からの深さは約210cmを測る。井戸底には主に2~3cm大の河原石が約20~30cmの厚さで敷き詰められていた。この敷石層から上層は、井戸廃棄時の埋め土であり、遺物の多くはこの埋め土中から出土している。

井戸掘削地点の土層堆積状況は、検出



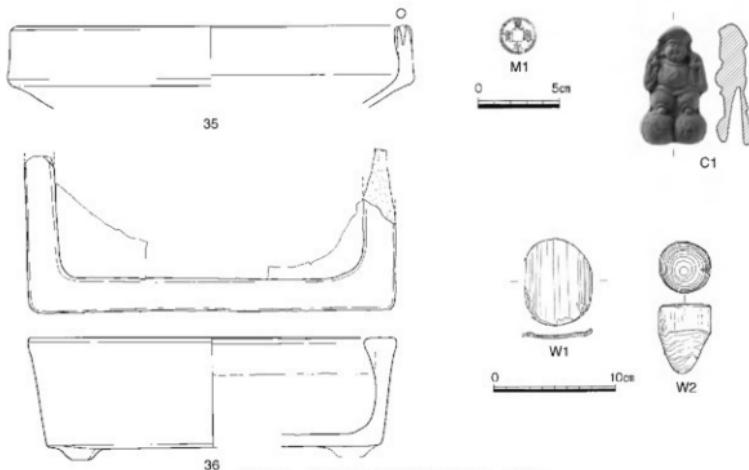
1 土褐色 (10YR4/2) 粗質砂砾
黄灰色 (2.5Y5/1) 粘質砂砾等のブロック土
2 2~3cm大の河原石と粗砂の層

第8図 井戸1 (1/30)・出土遺物1 (1/4)



第9図 井戸1出土遺物2 (1/4)

面から標高0.4m付近までが粘質土であり、それより下層が細～粗砂であった。この砂層中の標高0.1m付近から湧水が認められる。井戸掘り方は長軸321cm、短軸225cmの長楕円形を呈している。南側にテ



第10図 井戸1出土遺物3 (1/4・1/3)

ラス面があり、そこから標高約-0.1mまで急角度で掘削されている。石組みは井戸掘り方底面に径約10cm、長さ約50cmの丸太材を五角形に組み、その上に最下段の石を据えて作られている。なお、丸太材は石積みの自重で地山内に沈み込んでいた。石組みの裏込めは、最下段から2~3段目付近、つまり周囲が砂層である高さまでは2~3cmの大粒の河原石で行い、それより上層は井戸掘り方掘削時の堆土を使用しているようである。裏込め土からは遺物の出土がほぼ皆無であった。出土遺物から、井戸の廃棄時期は18世紀末~19世紀と考えられる。

(小嶋)

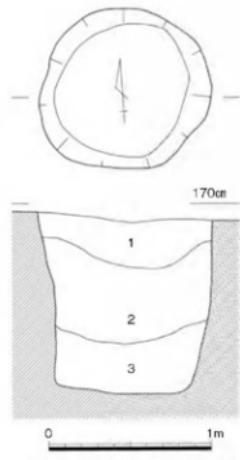
井戸2 (第7・11図)

2区西側で、上塙18と重複する。当初上塙18の一部と考えていたが、掘り進めていく段階で土塙18と埋土が異なり、より新しい遺構と認識した。埋土は第2・3層が基盤と似た上であつた。掘り方の底面は砂層に達し、掘削後は湧水があった。出土遺物は染付猪口、備前焼陶版など少量である。この井戸2は、土塙18の後、19世紀半ば以降に埋没したと考える。

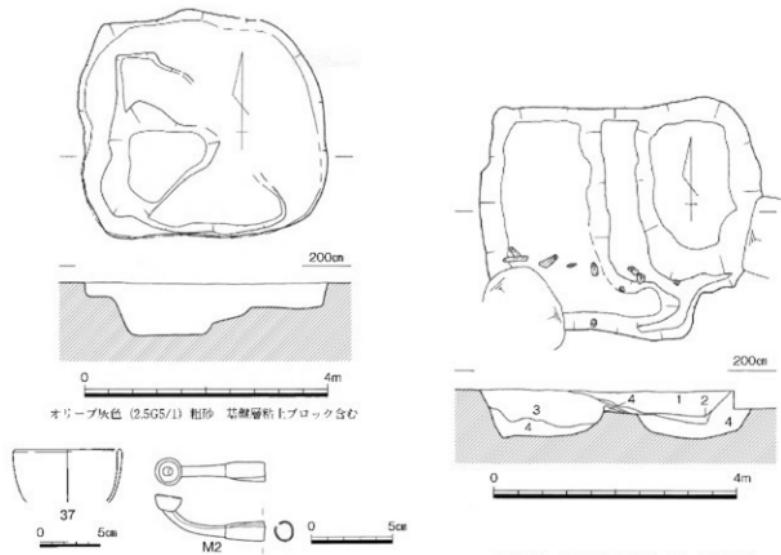
(氏平)

3 土塙**土塙1 (第7・12図、図版6)**

1区西端で検出した土塙で、井戸1の南東に近接する。遺構内の北東部分はコンクリートパイルによって損壊している。検出面での掘り方平面形は隅丸方形を呈し、一辺400cmを測る。北東部分の検出面下40cmに平坦面が形成され、南西部分には平面

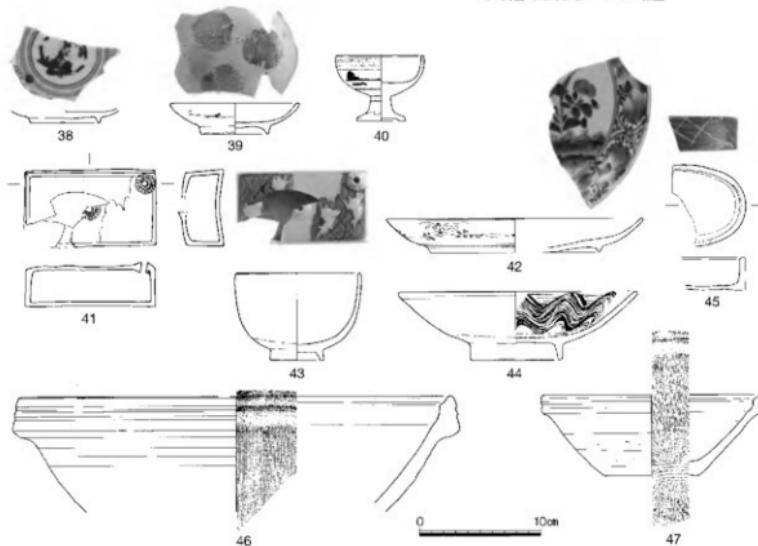


第11図 井戸2 (1/30)

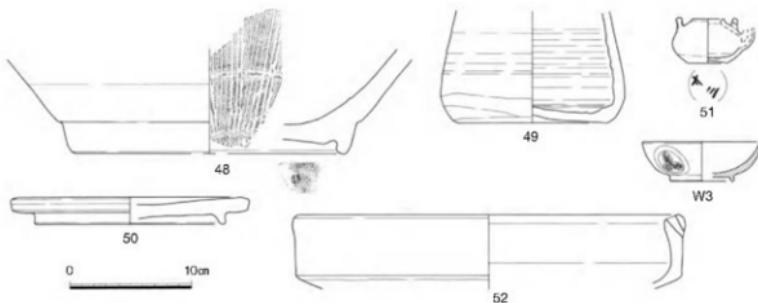


第12図 土壌1 (1/80)・出土遺物 (1/4・1/3)

- 1 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質細～粗砂 製成土含む
- 2 黒色 (7.5Y4/1) シルト～粘砂
- 3 灰色 (7.5Y5/1) 細～粗砂
- 4 黑色 (7.5Y5/1) シルト～粘土



第13図 土壌2 (1/80)・出土遺物1 (1/4)



第14図 土壌2出土遺物2 (1/4)

不整形を呈する深くなる部分があり、検出面からの深さは86cmを測る。遺構内の埋土は粗砂で、出土遺物は少量であった。37は陶器柾、M2は真鍮製の煙管である。遺構の時期は18世紀後半～19世紀前半と考える。

(柴田)

土壌2 (第7・13・14図、図版3、図版6)

1区中央で検出した土壌である。土壌1の東7mに位置し溝1の西に近接する。検出面での掘り方平面形は東西方向に長い長方形を呈し、長辺463cm、短辺383cmを測る。2基の土壌が並列するような形態であり、検出面下26cmの中央部分が土手状になる。東西の底面は平坦で検出面からの深さは77cmを測る。南東隅から西への延長線上には長さ150cmの杭列が施されている。

磁器では皿38・42、輪花皿39、从飯器40、水滴41、陶器では椀43、鉢44、皿45、擂鉢46～48、壺49、蓋50、土師器では円筒系の焙烙52を図示した。41は青海波の上を跳ねる兎の意匠が施され、底部内面には布目が残る。土瓶51は玩具で底部外面には墨書きが認められる。内面朱塗りの漆碗W3の外面には丸に三つ柏の家紋が銀泥で施される。遺構の時期は19世紀代と考える。

(柴田)

土壌3 (第7・15図)

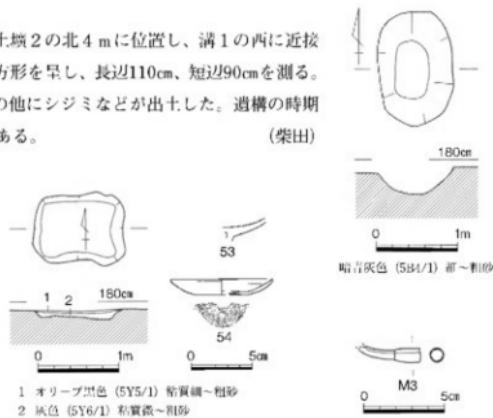
1区中央で検出した土壌である。土壌2の北4mに位置し、溝1の西に近接する。検出面での掘り方平面形は長方形を呈し、長辺110cm、短辺90cmを測る。埋土中からは陶器皿53、土師器皿54の他にシジミなどが出土した。遺構の時期は18世紀後半～19世紀代の可能性がある。

(柴田)

土壌4 (第7・15図、図版1・6)

1区東側で、溝1B構築時の造成上で埋められていた。埋土は基盤層よりかなり砂質が強い土の單層である。土壌5・6など周辺の土壌と一連で、時期もあまり変わらないと考える。出土遺物はM3の煙管雁首だけ、その形状は17世紀後半～18世紀初頭に位置づけられる。

(氏平)



第15図 土壌3・4 (1/60)・出土遺物 (1/4・1/3)

土壌5 (第7・第16図、図版1)

1区東側で、溝1B構築時の造成土で埋められていた。埋土は土壌4・6と類似する土であり、それらと一連で、時期もほぼ同じと考える。出土遺物はごく少量で、陶器碗55とほぼ完形の56上師器皿がある。55は全面施釉で量付に三か所の砂目があり、17世紀前半の唐津焼であろう。(氏平)

土壌6 (第7・第17図、図版1・6)

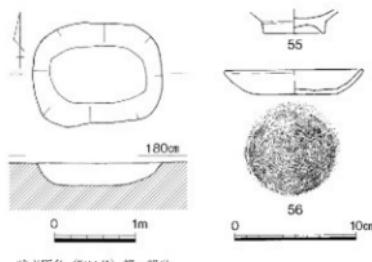
1区東側で、溝1より古い。埋土は土壌4・5と類似する。方形の掘り方で、横面も垂直に近い。北側は調査区外になる。土壌4・5など周辺の土壌と一連で、時期も同じと考える。出土遺物は少量で、染付・陶磁器片・丸瓦などがある。C2は土製鋳型で、溝1 C25の土製鋳型と組み合うが、内型部分の大きさは異なる。内型、つまり製品の形や大きさは異なるが鋳型の大きさは同じこととが想定できる。(氏平)

土壌7 (第7・第18・第19図、図版1・6)

1区中央で検出した土壌で、溝3を切っている。土壌3の東7mに位置し、溝1の東に近接する。検出面での掘り方平面形は不整梢円形を呈し、長辺520cm、短辺428cmを測る。

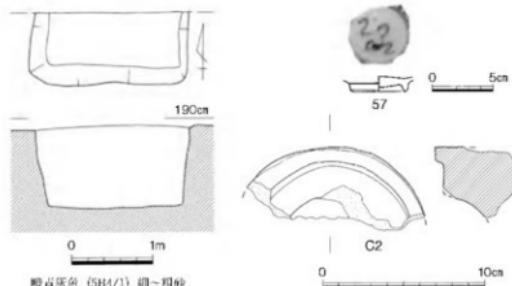
掘り方断面は西側で鉢状を呈し、検出面からの深さは72cmを測る。底面は東に向かって緩やかな傾斜を持ちながら階段状に浅くなり、上端の幅も東に向かって段階的に狭くなる。掘り方の北縁と西縁には、沿うようにL字形に杭列が施される。

磁器では皿58、猪159・60、楕61、陶器では楕62、皿63、餅入れ64、瓶65、備前焼では匣鉢66、花立67、甕68、搖鉢69、甕70、土師器では焰培71を図示した。60は体部から口縁部がまっすぐにのびる。62は刷毛目文様が認められる。65は灰釉がかかり、内面には同心円文の当



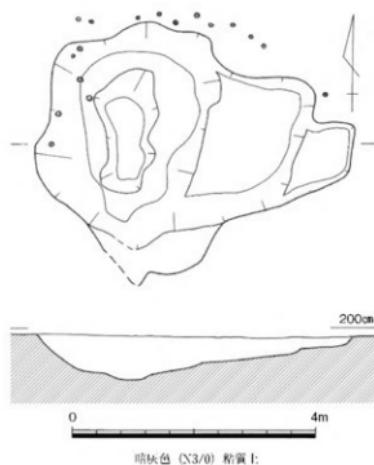
暗青灰色 (5B4/1) 粗～粗砂

第16図 土壌5 (1/60)・出土遺物 (1/4)

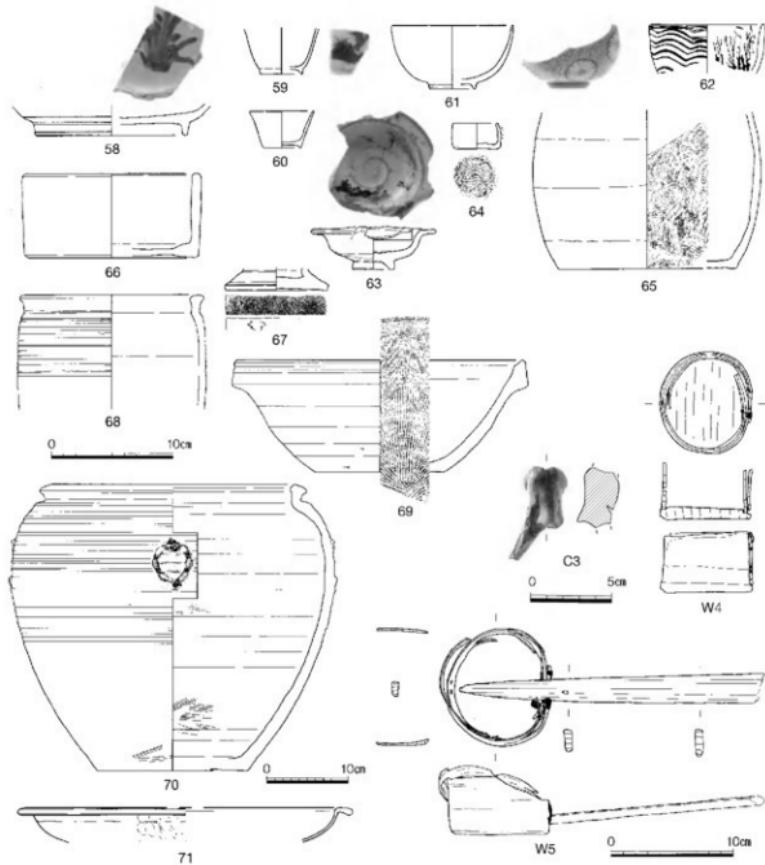


暗青灰色 (5B4/1) 粗～粗砂

第17図 土壌6 (1/60)・出土遺物 (1/4・1/3)



第18図 土壌7 (1/80)



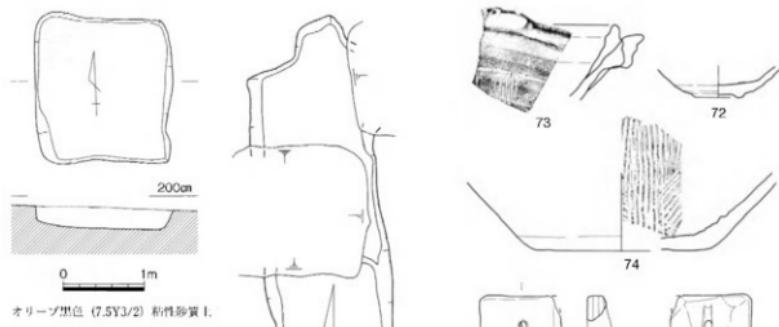
第19図 土壌7出土遺物 (1/6・1/4・1/3)

て貝痕跡が認められる。71は口縁部が外へ屈曲する瀬戸内系の焰焰である。C3は陶製人形で欠損部分が多いが猿とみられる。W4・5は杓子でW4は黒塗りである。

62・65のような時期がやや古い遺物も認められるが、その他の遺物や満3との切り合い関係などから遺構の時期は18世紀後半～19世紀代の可能性がある。
(柴田)

土壤8 (第7・20図)

1区東側で検出した土壤で、土壤9を切っている。土壤7の東2mに位置する。検出面での掘り方平面形は方形を呈し、一辺186cmを測る。検出面からの深さは浅く20cm程度である。出土遺物は鉄滓MNK-5(付載1参照)ほかで少量であった。遺構の時期は19世紀代の可能性がある。
(柴田)



第20図 土壌8 (1/60)

土壌9 (第7・21図、
図版1・6)

1区東側で検出した
た土壤で、土壤8・11
に切られる。掘り方平
面形は長方形を呈し、
長辺710cm、短辺192cm
を測る。底面はほぼ平
坦であるが、南側半分
を測る。底面はほぼ平
坦であるが、南側半分

がわずかにくぼむ。埋土は灰色を呈し、周囲
の土壤と異なる。出土遺物は少量であった。

陶器では皿72、罐前焼の鉢73・74、下駄
W6を図示した。遺構の時期は17世紀後半以
降の可能性がある。

(柴田)

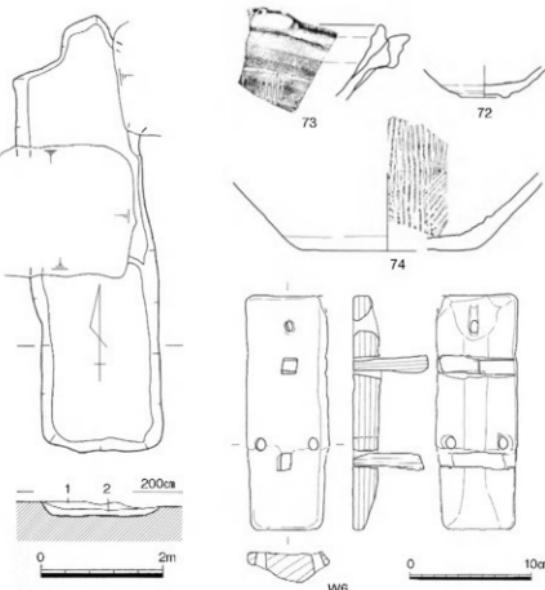
土壌10 (第7・22図、図版1)

1区東側で検出した土壤で、土壤11に切ら
れる。平面形は梢円形を呈し、長径140cmを
測る。検出面からの深さは34cmを測る。断面
形はV字形を呈する。

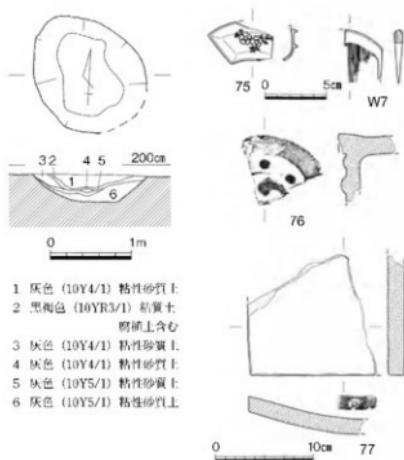
磁器皿75、軒丸瓦76、平瓦77、櫛W7を図
示した。77には花形の打刻がある。遺構の時
期は18世紀後半以降の可能性がある。(柴田)

土壌11 (第7・23~26図、卷頭図版3・4、
図版1・6・7)

1区東側で検出した、平面が方形の土壤で



第21図 土壌9 (1/80)・出土遺物 (1/4)



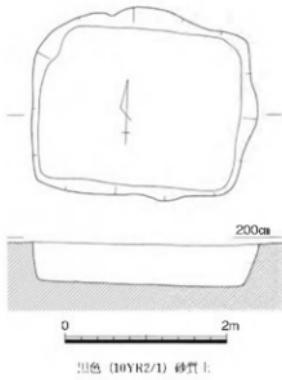
第22図 土壌10 (1/60)・出土遺物 (1/5・1/4)

ある。壁面は比較的まっすぐに掘り込まれ、底面もほぼ水平である。土壙9・10と切り合い関係があり、平面で検討した結果、土壙9・10より新しいことがわかった。埋土は検出面から最大50cmの深さで残り、細～粗砂と円錐と有機物が混ざった土であった。

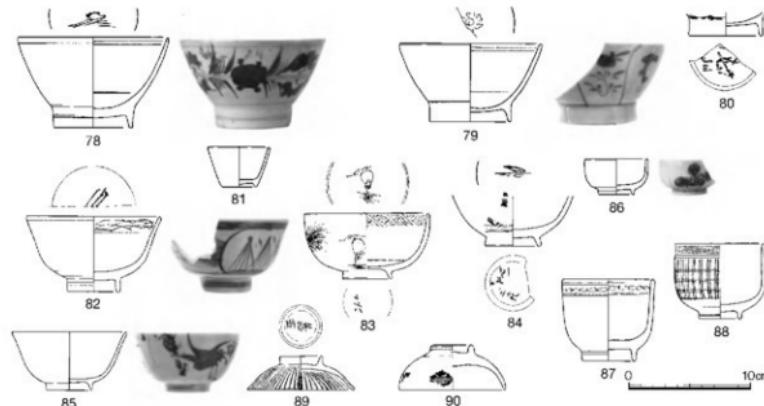
出土遺物は今回調査の土壙中最も多く、整理箱で9箱分になる。磁器は染付が多く、器形では広東碗78～80、端反碗82・85、深めの筒丸碗87・88、文様は簡略化された見込みの松竹梅93・96があり、19世紀前半～中頃の特徴と言える。さらに、80・83・84・88・89・91・93・95～97・99は焼継で補修されている。これらの中に焼継素材を用いて裏面に数字を書くものがあり、83は「二六」、84は「三九」、91は「一九二十」、95は「カ二七」と読める。93・99の裏面の文字は赤色である。98・100の皿は蛇目四形の高台で、100は素地がにぶい黄橙色である。青磁・白磁は数が少ない。青磁植木鉢105はおそらく兵庫県の二田青磁であろう。施釉陶器では、楕の他土瓶、鍋、灯明具などがあり、楕112は信楽産である。142は箱庭道具の庭園片で、3あるいは4脚になるものであろう。C 4は人形で陶質、透明釉が掛かる。焼締め陶器では、擂鉢132は備前焼、133は堺・明石系であろう。132は19世紀前半に位置づけられる。瓦質焜が141は一口になるもので、向かって右側1/4が残存していた。焚き口を上にした状態で、側面に「三谷様」、改行して「七(以下不明)」とヘラ書きされている。類似の焜炉は香川県郡家一里塚遺跡などに出上例があり、徳島県例を調べた日下正剛氏によるとⅢ A類に分類され、19世紀中頃以降に見られる⁽³⁾。

これら遺物から、この土壙は19世紀中頃以降に埋没した可能性が高い。

(氏平)

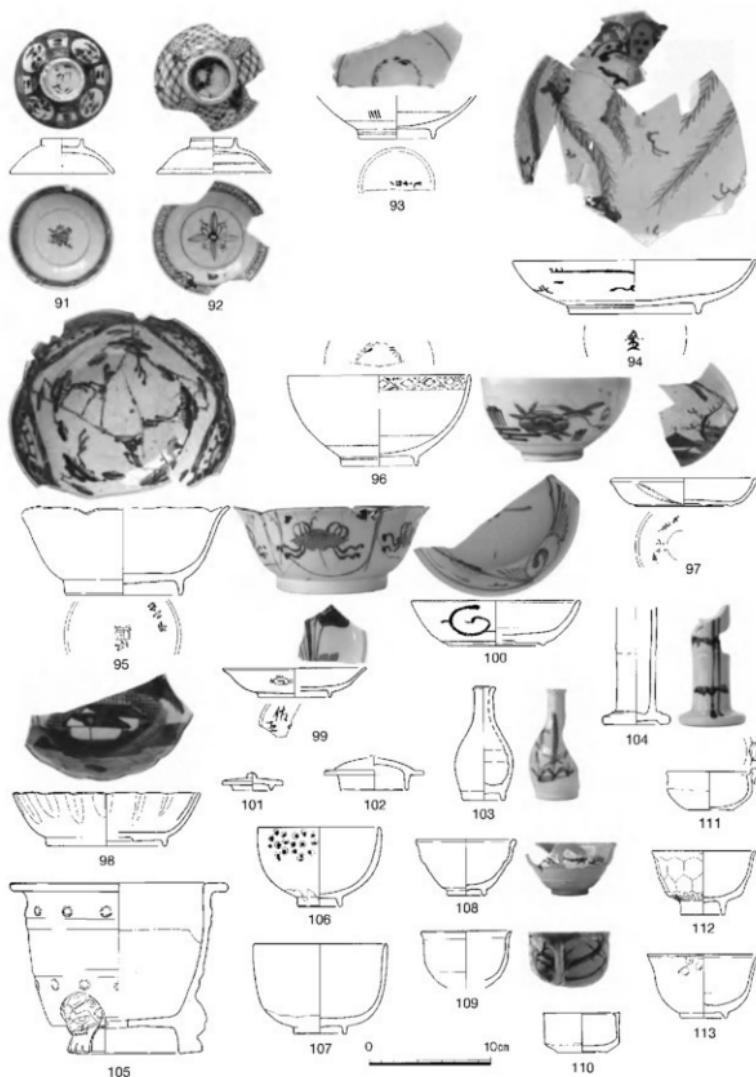


川色 (30YR2/1) 砂質土

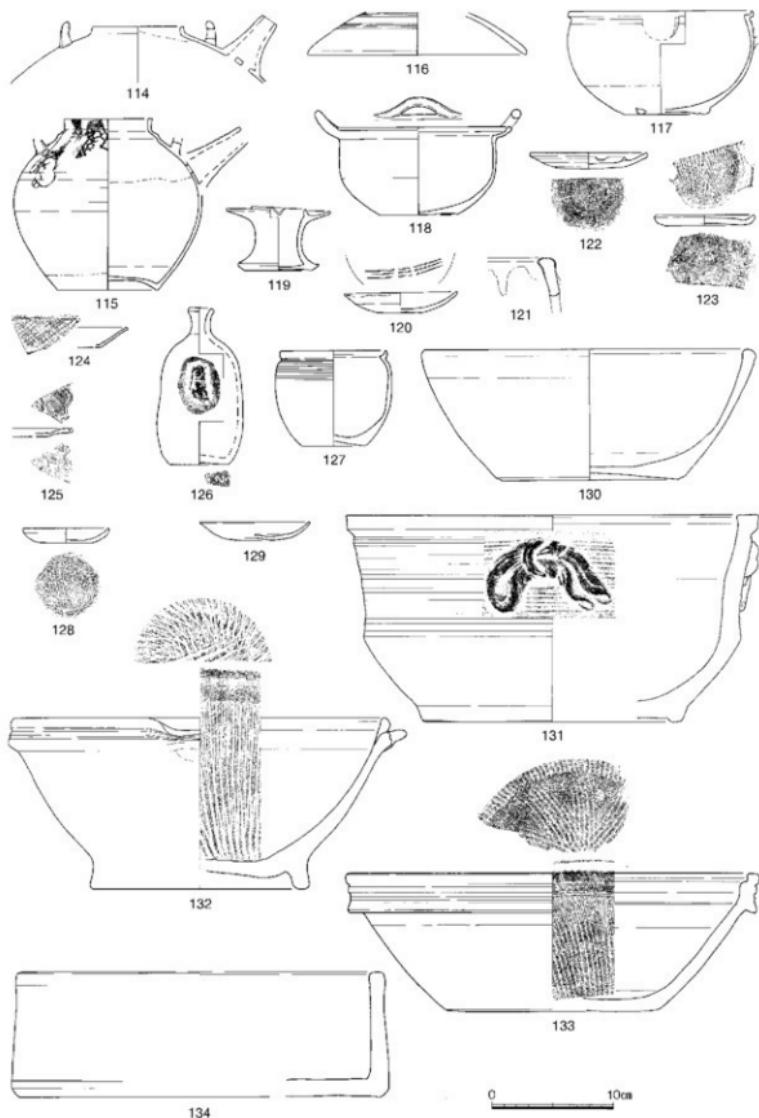


第23図 土壙11 (1/60)・出土遺物1 (1/4)

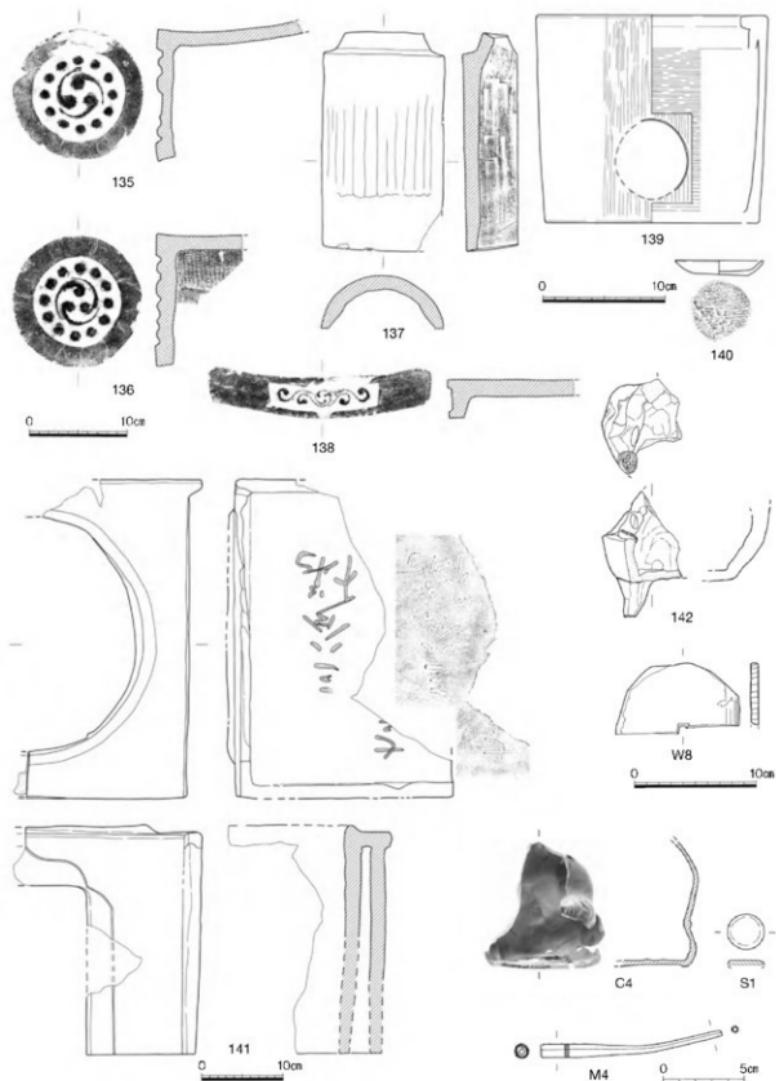
註 日下正剛「徳島城下町出土の上製火鉢・焜爐類」『論集 徳島の考古学』2002



第24図 土壌11出土遺物2 (1/4)



第25図 土壌11出土遺物3 (1/4)

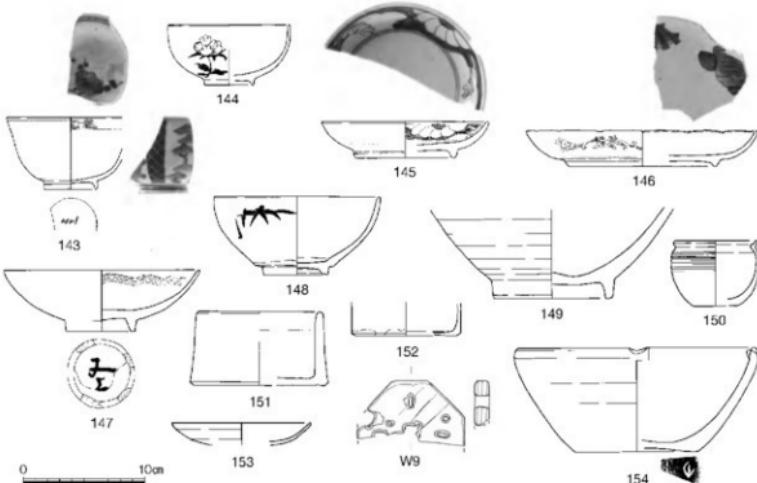
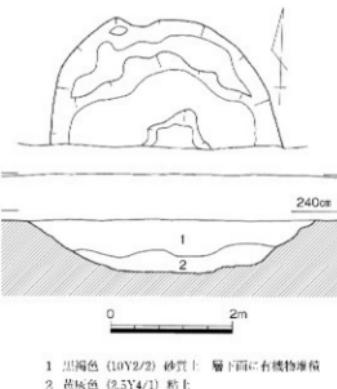


第26図 土壌11出土遺物4 (1/6・1/5・1/4・1/3)

土壌12（第7・27図、図版1）

1区南端で検出した土壌で、南側は1・2区境の土手内で調査できなかった。掘り方は断面がほぼ楕円形であるが、壁面・底面は凹凸で不整形である。上層のうち第1層は細分可能で、東側に有機物を多く含む部分があり、東から西へ順に埋まったように見える。第2層は均質な粘土である。出土遺物はあまり多くないが、染付の端反碗143は焼継の補修があり、裏面に「三三」と書かれている。147は底面に墨書きがあり、148は陶器楕で染付がある。備前焼は小壺150、鉢154、皿鉢151・152、皿153などである。土壌の埋没時期は19世紀前半以降だろう。

(氏平)

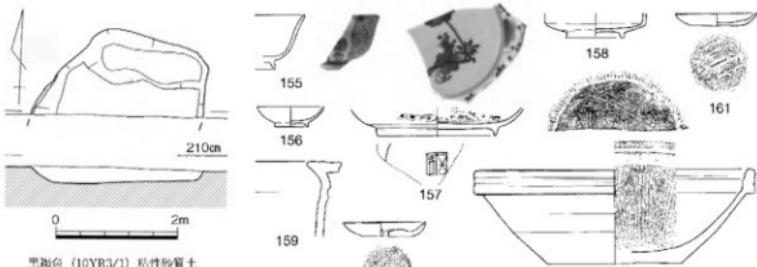


第27図 土壌12 (1/80)・出土遺物 (1/4)

土壌13（第7・第28図）

1区南端で検出した、平面も断面も不整形の土壌である。南側は調査区外のため調査できなかった。埋土は有機物を多く含む黒色の土である。上部が削平されているためか、出土遺物は少量であった。図示以外に染付、白磁碗、肥前陶器の刷毛日片、備前焼鉢・壺片、土師器などがあった。染付碗155は端反碗で、染付皿157は銘款などより18世紀後半に位置づけられる。また鉢162は内面胴部のシリメを見込みで止めている。明石・堺系の鉢である。遺構の埋没時期は、155などより19世紀前半以降であろう。

(氏平)



土壤14（第7・第29図）

1区南東端で検出した。調査時の側溝で東・南側を掘削したため一部失われるが、南北は約2.2mを測る。土層の第1層は検出面と類似する土で、第2・3層は有機物を多く含む黒色系の土で、第4層は基盤層と似た土であった。遺物は出土していない。
(氏平)

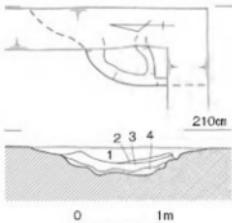
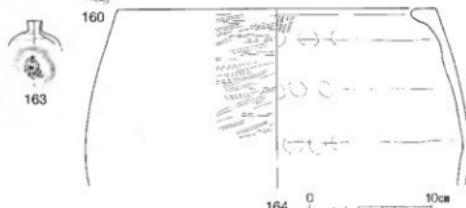
土壤15・16（第7・第30図、巻頭図版4、図版7）

2区西端で検出した、楕円形の土壌である。2つの土壌として別々にして扱ったが、元は一体の土壌であった可能性が高い。埋上はわおむね東から西へ堆積し、第1～3層が黒色系の有機物の多い土、第4・5層が基盤層に似る均質な砂質土であった。出土遺物は、土壤15からの出土遺物が多いものの全体として少量である。図示したのは土壤15出土遺物で、掲載遺物以外に白磁碗、陶器肥前刷毛目皿、備前焼擂鉢片、土師器灯明皿などがある。碗165は赤・金を用いる色絵である。馬の絵などを金で輪郭線を描いていている。染付碗166は土壤17出土のものと接合した。埋没時期は19世紀前半以降であろう。
(氏平)

土壤17・18（第7・31図、巻頭図版4、図版7）

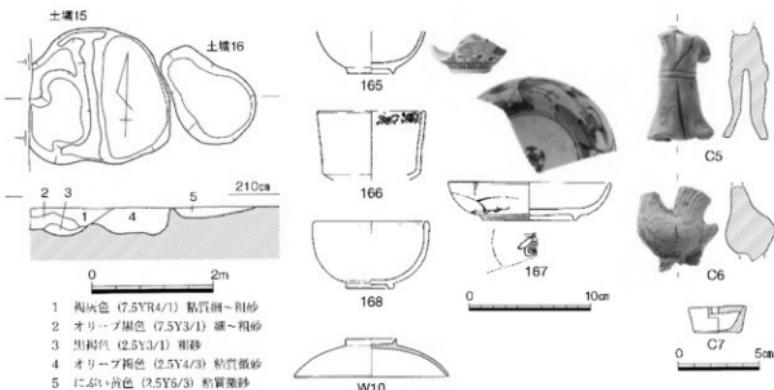
2区西側で検出した、楕円形の土壌である。切り合い関係があり、土壤18が土壤17より新しい。土壤18の埋上は西から東へ、土壤17は南から北へと堆積している。埋上は全体として有機物・穀を多く含む層である。また、土壤18の東岸には複数の杭を確認した。出土遺物は土壤17が1袋分、土壤18が整理箱中2箱分になり、染付碗、陶器の徳利・鍋・椀、備前焼の匣鉢・陶板・擂鉢・甕があった。備前焼甕170が土壤17出土で、残りは土壤18出土である。土製品では人形が多く、彩色したC8・C9、施釉のC11、焼締めC10、上製のC12などがある。C13は白磁で紅皿のミニチュアである。染付蓋169には焼締めがあり、それより遺構の埋没時期は19世紀前半以降と判断した。
(氏平)

第28図 土壌13 (1/80)・出土遺物 (1/4)

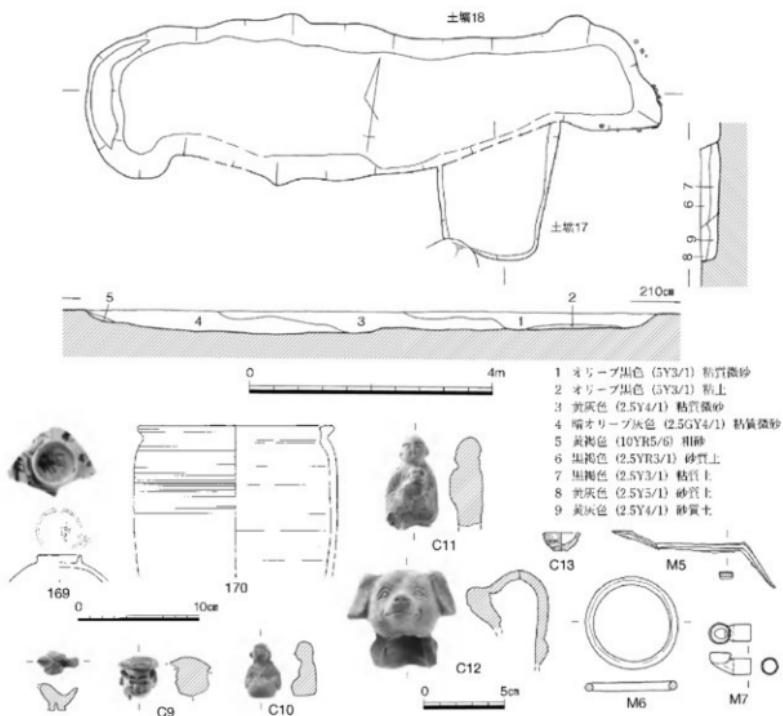


- 1 棕色 (10YR4/4) 砂質土
- 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 粗砂
- 3 オリーブ褐色 (7.5Y3/1) 精質土
- 4 オリーブ灰色 (10Y4/2) 精質土

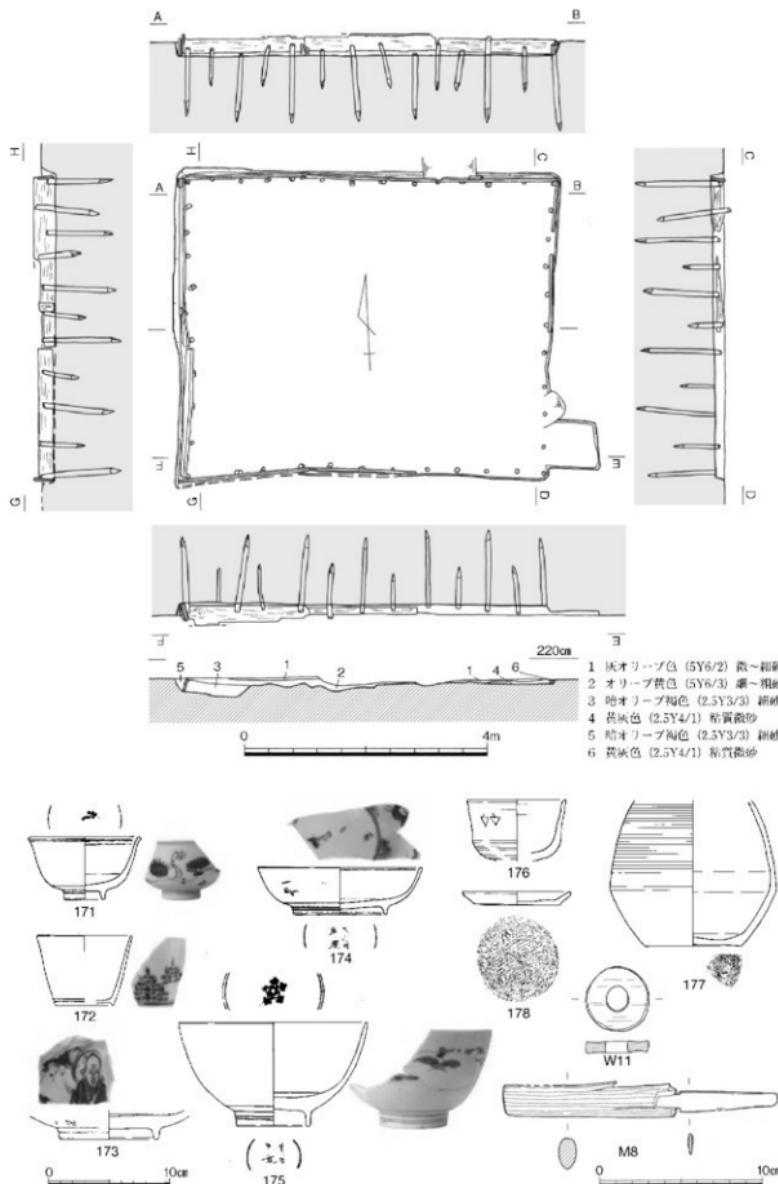
第29図 土壌14 (1/60)



第30図 土壌15・16 (1/80)・出土遺物 (1/4・1/3)



第31図 土壌17・18 (1/80)・出土遺物 (1/4・1/3)



第32図 土壌19 (1/80)・出土遺物 (1/4・1/3)

土壌19 (第7・32図、図版4、図版2・8)

2区の中央部に位置している。南東隅の板材は後世の削平により残存していないが、長さ約2~3m、幅30cm、厚さ約10cmの板材が丸太杭によって壁面に固定されている。調査前の客土除去時に残存している板材の上にも板材が存在していたことを確認していることから、壁面全体が板材により枠形に囲われていた上塙と思われる。ただし、底面に板材等が敷かれていた痕跡は確認できなかった。板材に釘や鋸等の痕跡が認められないため、杭によって四方の壁面に固定されていたようである。東辺南端に東側へ約80cm四方掘削されている箇所が見られるが、この上塙に伴うものか判然としない。上塙底面上には粗~細砂が堆積していることから、洪水により埋まつたため廃棄された可能性が考えられ、その時期は18世紀中頃以降である。
(小嶋)

土壌20 (第7・第33図、図版2)

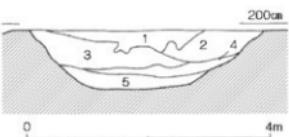
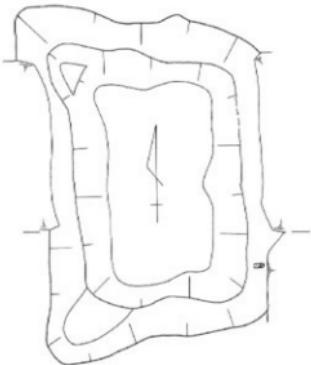
2区の中央に位置する、方形の土壌である。溝3より新しく、土壌23に切られている。検出面からの深さは約1mを測り、今回検出した上塙の中で最も深い上塙である。堀り方の北西と南西隅には段を設けている。また、掘り方南東側上方に杭を1本確認した。埋土は第1層に洪水に伴う可能性の高い粗砂層、第2~5層は砂混じりの粘質土層で有機物は含まない。第2~5層の区別が困難で、同時に堆積した可能性が高い。出土遺物は少ないが、染付、陶器碗・蓋、備前焼壺、播鉢、平瓦・丸瓦瓦当などがある。W12は曲物の底、M9は包丁である。遺構の埋没時期は、180などから18世紀後半~19世紀前半だろう。
(氏平)

土壌21 (第7・34図、図版8)

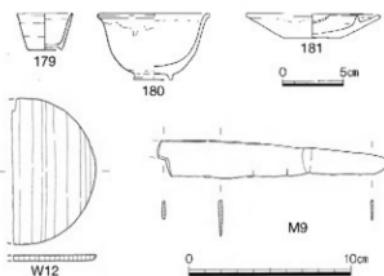
2区の東側に位置する、南北方向に楕円形が3つ重なる形状の上塙である。中央より北側は建築物基礎に伴う搅乱があった。埋土は灰色系砂層の1層である。出土遺物で図示したうち184とC14は北側搅乱中、他は南側から出土した。土壙の南側からは、図示以外に染付碗、肥前陶器刷毛目椀、青磁鉢などが出土している。遺構の埋没時期は18世紀後半~19世紀前半だろう。
(氏平)

土壌22 (第7・35図、図版2・8)

2区中央部に位置し、上面を土壙19によって削平を受けている。平面形は長さ444cm、幅296cmの長方形を呈する。当初、土壙19と一緒に遺構と考えていたものの、断面観察等により、上塙19以前のものであることが判明した。



- 1 黄褐色 (2.5Y5/4) 粗砂
- 2 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質微砂
- 3 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘質微砂
- 4 品種色 (2.5Y3/1) 粘質微砂
- 5 品種色 (2.5Y3/2) 粘質微砂



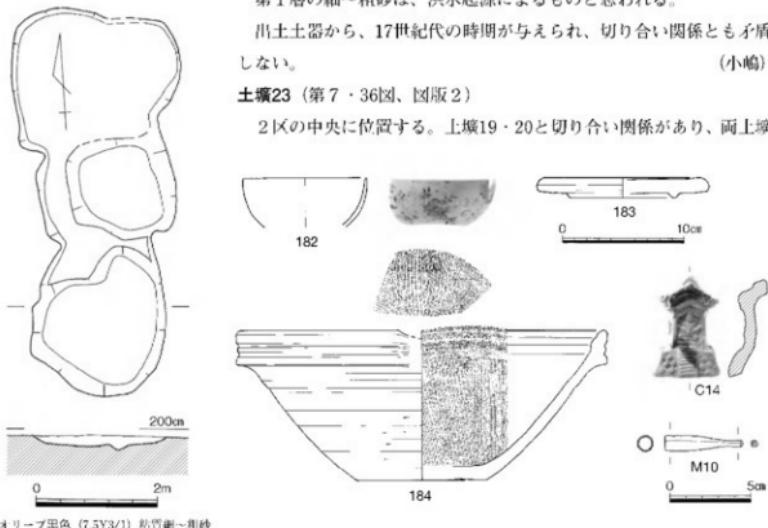
第33図 土壙20 (1/80)・出土遺物 (1/4・1/3)

第1層の細～粗砂は、洪水起源によるものと思われる。

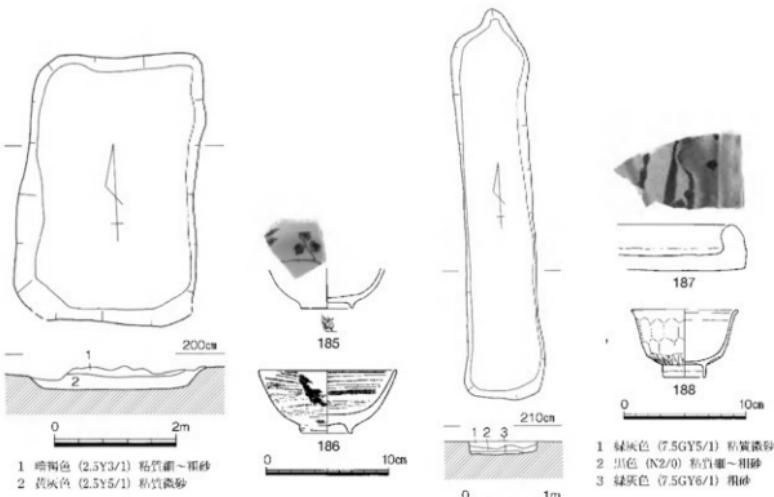
出土土器から、17世紀代の時期が与えられ、切り合い関係とも矛盾しない。
(小嶋)

土壤23 (第7・36図、図版2)

21Xの中央に位置する。土壤19・20と切り合い関係があり、両土壤



第34図 土壌21 (1/80) ・出土遺物 (1/4・1/3)



第35図 土壌22 (1/80) ・出土遺物 (1/4)

第36図 土壌23 (1/60) ・出土遺物 (1/4)

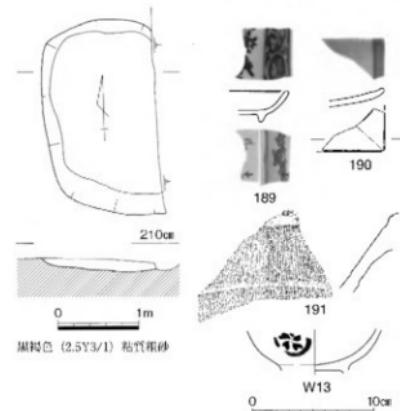
より新しい。東西の壁面はほぼ垂直に近い掘り方である。土塙19と切り合う部分では、土塙19の側板最下段は立ったままで、その側板の一部と見られる板材が折り重なって堆積していた。土層は第1・3縁灰色砂層に第2層の黒色砂層が挟まれていた。出土遺物は図示以外に染付広東碗・陶器碗・灯明皿などで、遺構の埋没時期は19世紀前半だろう。

(氏平)

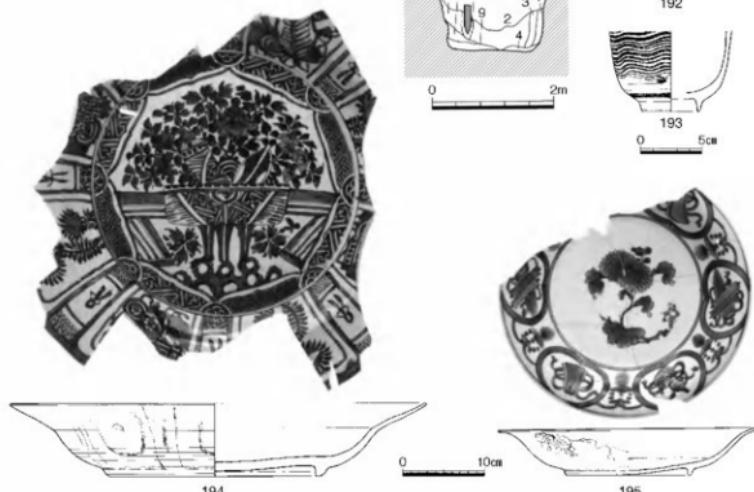
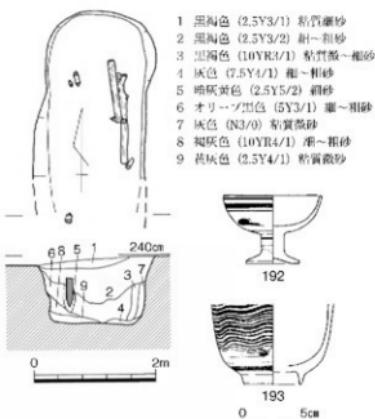
土壤24 (第7・37図、図版8)

2区の東側に位置する。東側は建築物基礎に伴う搅乱で切られる。上層は黒褐色を呈する砂層である。出土遺物は少量で、染付角皿185、陶器角皿186がある。W13は黒漆地に赤漆で桜紋を描いた椀である。図示以外で染付、陶器、備前婆片などがあり、遺構の埋没時期は19世紀前半か。

(氏平)



第37図 土壌24 (1/60)・出土遺物 (1/4)



第38図 土壌25 (1/80)・出土遺物 (1/6・1/4)

土壌25 (第7・38図、図版3)

2区南側中央部に位置しており、土壌28に東辺の上部が削平されている。南側が調査区外のため全体形は不明であるものの、幅90cmの長方形を呈すると考えられる。壁面を保護するための構築物と考えられる、丸太杭によって固定された径約15cm丸太材が東辺に、杭列が西辺に確認された。西辺では壁面を保護するには検出された杭の本数が少ないが、廃棄時に抜き取られたためであろう。上塙は一度埋没したものの再掘削されているようである。

遺物は伊万里焼の大盤194などが出土しており、18世紀後半以降の時期が与えられる。
(小嶋)

土壌26 (第7・39図、図版3)

2区南側中央部に位置しており、後述する土壌28により西辺南側を削平されている。また、南側は調査区外のため、遺構の全体形は不明である。上塙11などと同様に、埋土中には木片を含む有機物が多量に含まれていた。出土遺物から、18世紀後半以降に廃絶したと考えられる。
(小嶋)

土壌27 (第7・40図、図版3)

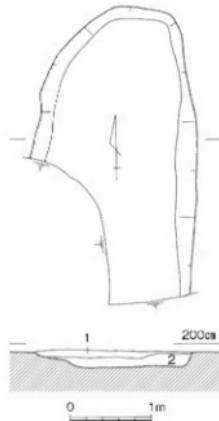
土壌26によって東側が削平されている。平面形は長軸143cm、短軸125cmのやや楕円形を呈しており、上塙底面にはテラス面が認められる。切り合ひ関係等から、上塙25から上塙28の中では古い時期のものであり、廃絶時期は18世紀後半以前である。
(小嶋)

土壌28 (第7・41図、図版3)

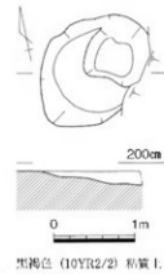
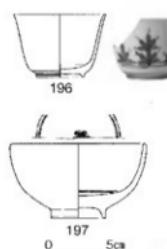
2区南側中央部に位置しており、周辺の土塙の切り合ひ関係においては一番新しい。長辺358cm、短辺260cmの長方形を呈している。西辺には約250cm×25cm×10cmの板材が壁面に据えられており、その板材を固定するため径約10cmの丸太杭が打ち込まれていた。上塙の北・南・東辺にも西辺と同様に丸太杭が検出され、また第5層が板材の裏込め土(東側の第5層が斜めの堆積状況を呈しているが、

これは板材が抜き取られた後に若干の崩落したためと考えられる)と考えられることから、この土塙は先述した土塙19と同じく四方を板材によって囲われた枠形を呈していたと考えられる。土塙底面には、洪水によるものと思われる細～粗砂を確認した。

遺構の時期は、出土遺物や周囲との切り合ひ関係から18世紀後半以降である。
(小嶋)



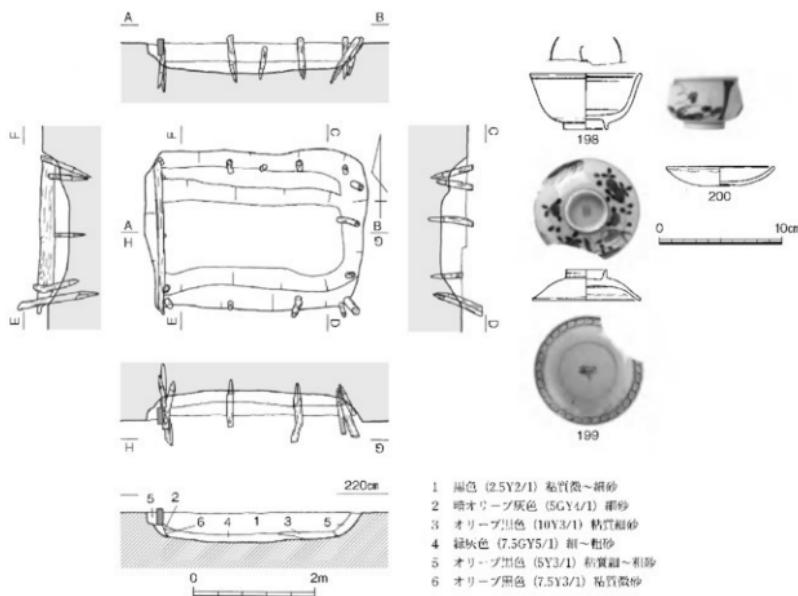
1 黒褐色 (10YR3/2) 粘質土、有機物含む
2 緑灰色 (7.5GY6/1) 粘質粗砂、炭化物含む



黒褐色 (10YR2/2) 粘質土

第39図 土壌26 (1/60)・出土遺物 (1/4)

第40図 土壌27 (1/60)

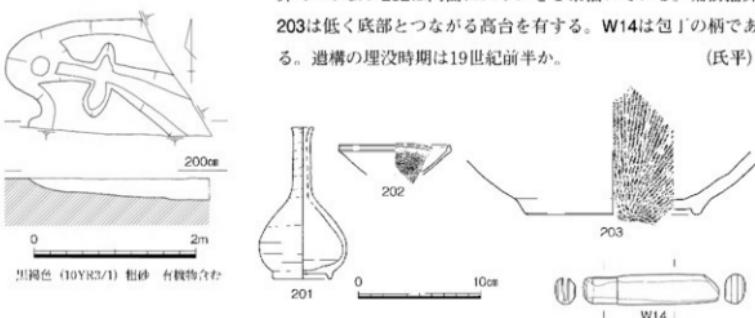


第41図 土壌28 (1/80)・出土遺物 (1/4)

土壌29 (第7・42図、図版8)

2区南東端に位置する、不整形の土壌である。東側は現代擾乱で切られるが、南壁の断面観察から東西の長さは3m以上に及ぶようである。埋土は黒褐色の有機物を多く含む砂層であった。遺物は少量で、図示以外には染付、陶器椀、備前焼壺、丸瓦瓦当などである。白磁瓶201はほぼ完形、備前播鉢ミニチュア202は内面にスリメを1条描いている。備前播鉢203は低く底部とつながる高台を有する。W14は包丁の柄である。遺構の埋没時期は19世紀前半か。

(氏平)

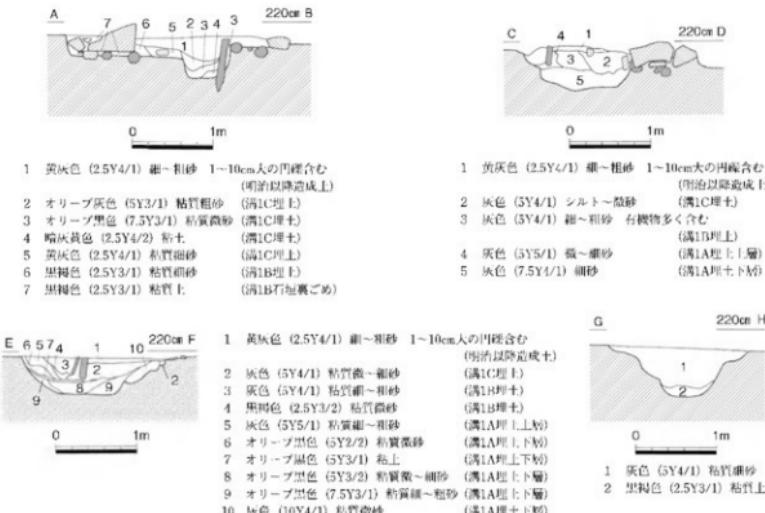


第42図 土壌29 (1/60)・出土遺物 (1/4)

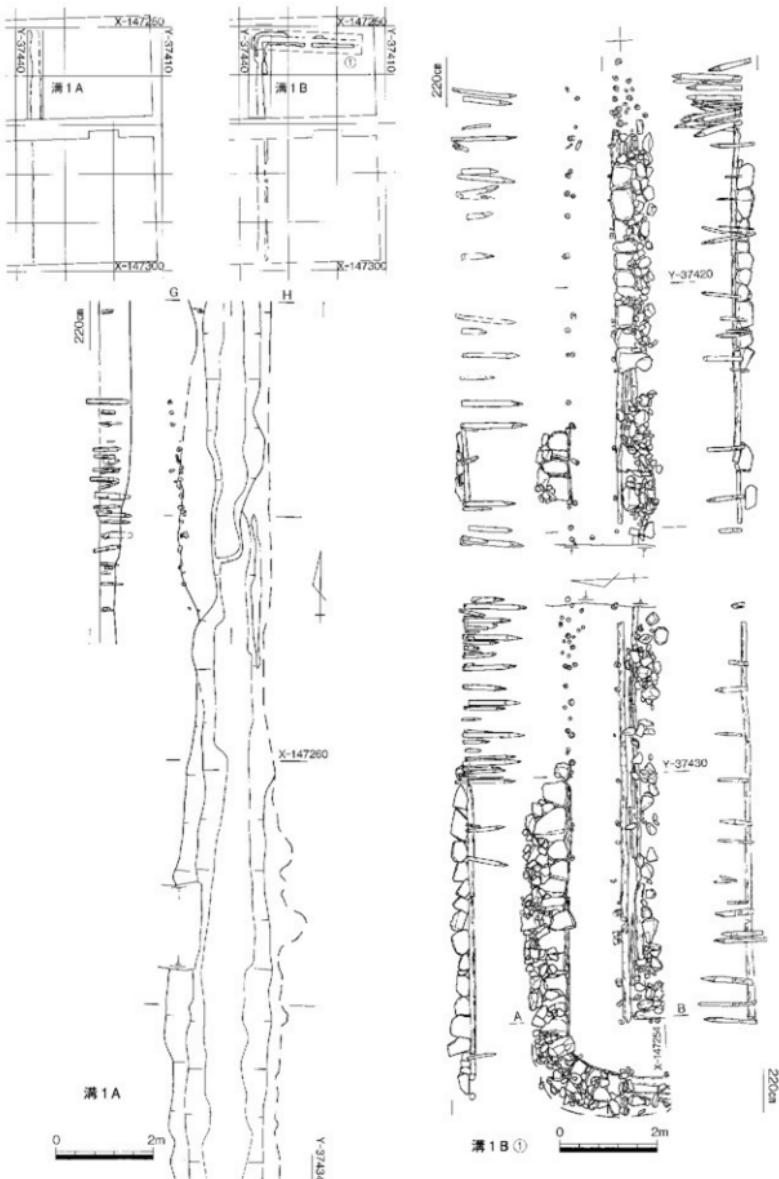
4 溝

溝1 (第7・43~49岡、岡版3~5・8・9)

3時期の流路(A~C)が確認され、最終的には明治時に河原石で埋め立てられた溝である。後世の削平等により溝底面付近のみ残存していた。当初は調査区中央部を北から南へと流走していた(溝A)が、侍屋敷地の区画整理に伴って流路変更(溝B)がなされ、さらに渋澤工事後に流路確保のための工事(溝C)が行われている。溝Aは、東肩が溝B・Cによる削平のため判然としない箇所が認められるが、約2mの幅を測る。素掘りの溝であるが、北端部の西肩に丸太杭が密に打ち込まれていた。溝Bは調査区北端部を東から西へと流走し、調査区中央でほぼ溝Aの流路を踏襲するように南へ向きを変えている。石積みの側壁を持った溝であるが、2区の西側壁や1区南北方向溝の南半部には当初から石積みが構築されていない。また、東西方向溝の北肩Y=-37428付近、南肩Y=-37416付近、南北方向溝の西肩X=-147260付近、東肩X=-147292付近では石積みを築く代わり丸太杭を密に打ち込んでいる。特に南肩Y=-37416付近の杭は、ほかの箇所よりも径が太く密に打ち込まれていた。石積みは、後世の削平により根石もしくは胴木と胴木前面に打ち込まれた丸太杭のみが残存していた。胴木は肩曲部西側および北側のみ2本敷かれ、その他は3本である。溝Cは流路確保のため、2区中央部で検出されたような、杭を打ち込み板材を固定させた側壁が構築されていたと思われる。北および西側壁で検出されている石積み前面の杭は廃棄時に板材が抜き取られた後の姿であろう。しかし、南および東側壁には杭およびその痕跡がほとんど認められず、石積みの側壁がそのまま利用されていたと思われる。この溝Cで使用している杭の中にはホゾやホゾ穴がある炭化した角材も認められ、焼失した家屋の木材を再利用したものであろう。



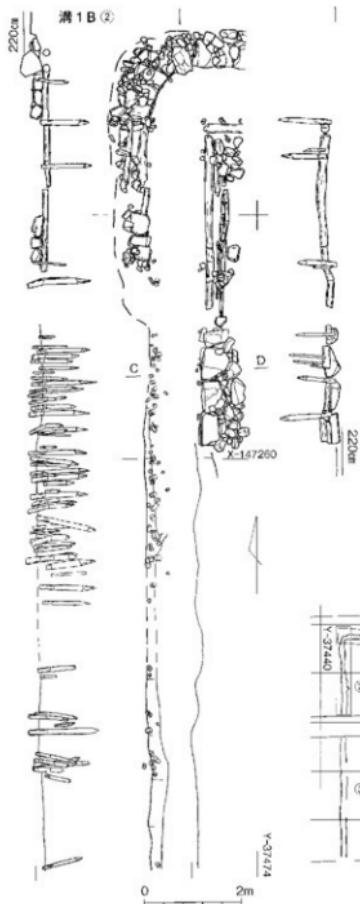
第43図 溝1断面図 (1/60)



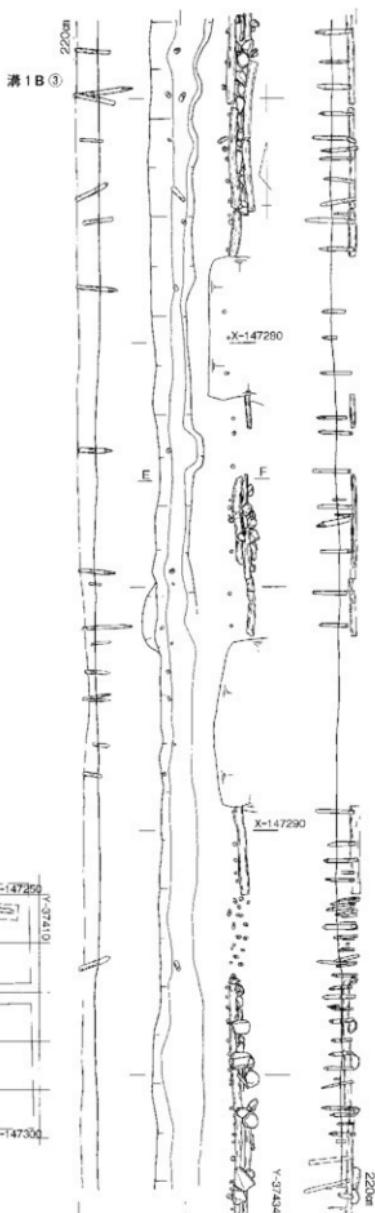
第44図 溝 1A・溝 1B① (1/100)

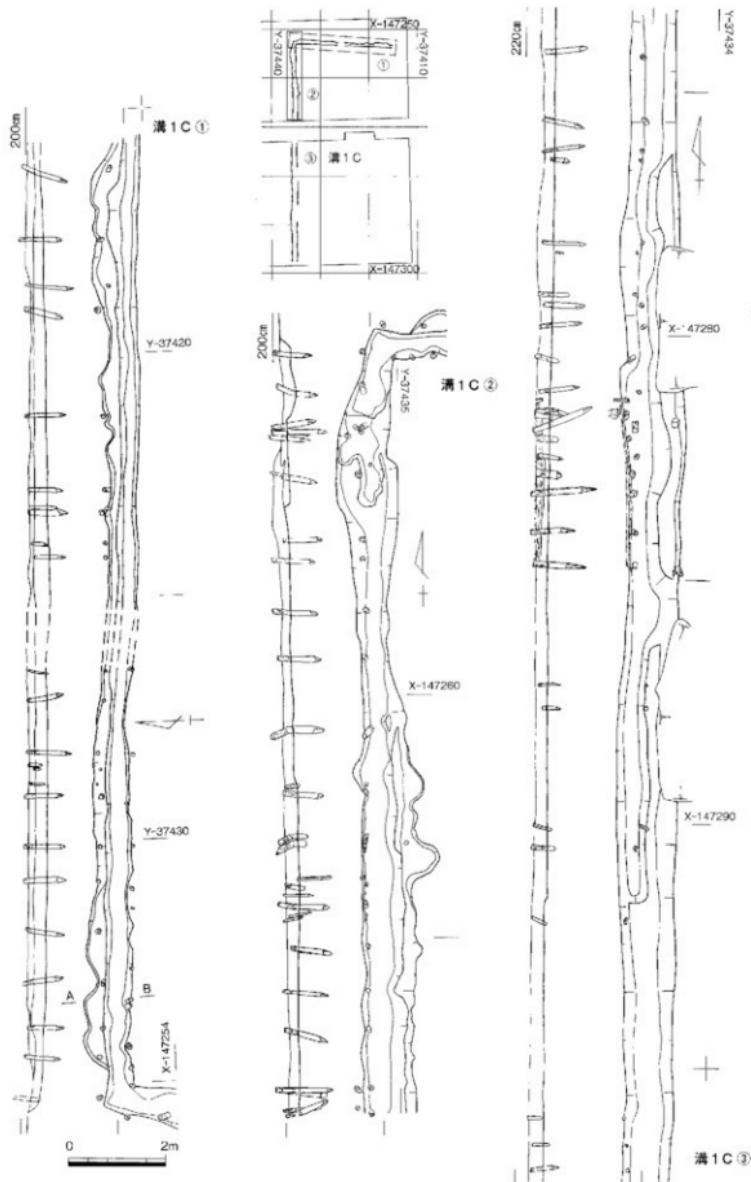


写真1 溝1B①作業風景（西から）

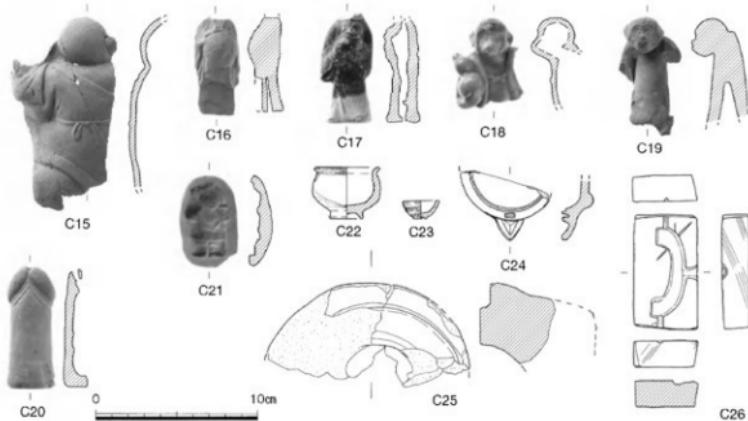
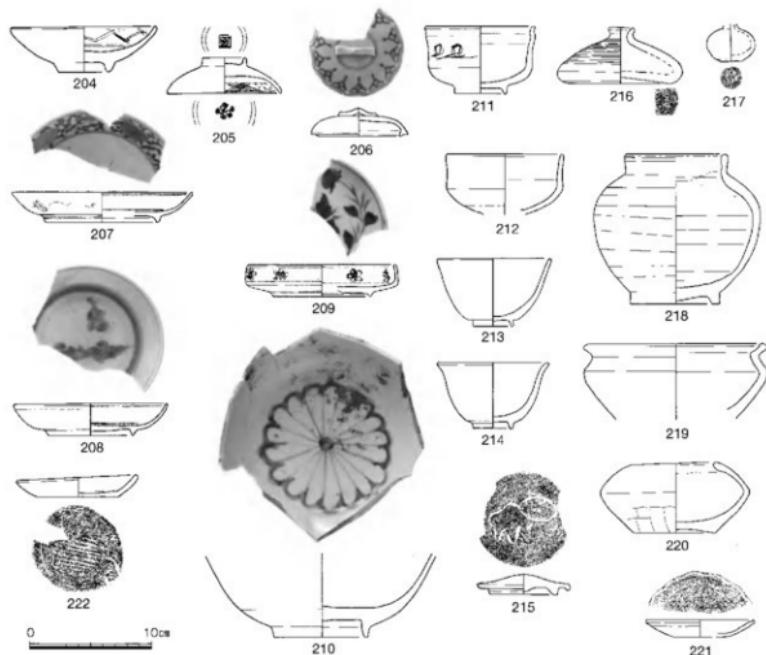


第45図 溝1B②・③ (1/100)

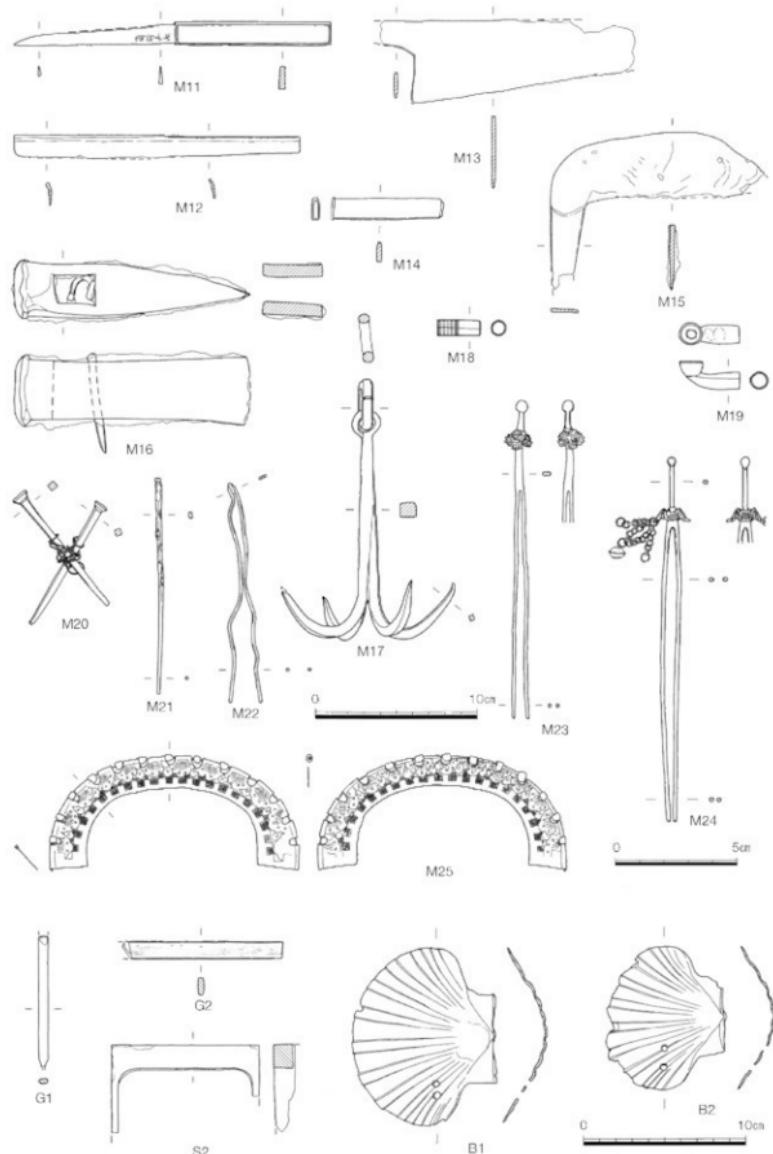




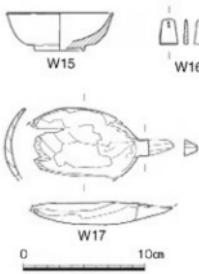
第46図 溝1C (1/100)



第47図 溝1出土遺物1 (1/4・1/3)



第48図 溝1出土遺物2 (1/3・1/2)



第49図 溝1出土遺物3 (1/4)

遺物は整理箱で35箱以上出土している。そのほとんどは陶磁器であるが、獸骨や食物残滓（魚骨・貝など）も多數確認された。

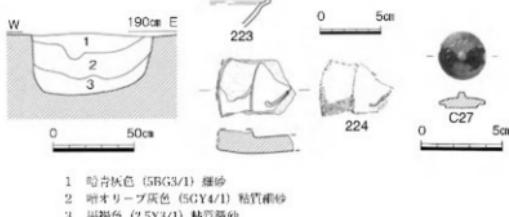
(小崎)

溝2（第7・50図）

2区側を東西に流れる溝である。底面の海拔高は東と西で差がなく、流路方向は不明である。溝1との切り合い関係から、溝1Bより古く1Aと同時に存在したことがわかった。埋土は第2・3層が洪水砂と見られる砂層で、第5層は有機物を含み縞状に堆積している。平面では、削平のため第7層部分しか残っていないかった。出土遺物はごく少量で、磁器・陶器・土師器がある。遺物からは埋没時期の判断は難しいが、溝1との切り合い関係から18世紀前半の可能性が高い。

- (氏平)
- 1 黒色 (2.5Y2/1) 粘質微砂
2 黄褐色 (2.5Y4/1) 粘質微砂～粗砂
3 灰白色 (5Y8/1) 細～粗砂
4 噴灰黄色 (2.5Y4/2) 粘質微砂
5 黑褐色 (2.5Y3/1) 粘質微砂
6 噴灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質微砂
7 灰色 (7.5Y4/1) 粘質微砂

第50図 溝2 (1/30)



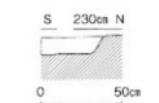
- 1 喜音灰褐色 (5BG3/1) 粗砂
2 噴オリーブ灰色 (5GY4/1) 粘質細砂
3 出褐色 (2.5Y3/1) 粘質微砂

第51図 溝3 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/3)

溝3（第7・51図）

1・2区東側を南から北に流れる溝である。2区側は、特に土壌19より南で平面が方形の掘り方が連續した形で、溝内に1～2m単位の凹凸が繰り返す形状を呈する。埋土は3層に分かれ、第1層は有機物を含んで縞状に見える層、第2・3層はブロック状の粘質土を含んだ層である。出土遺物は少量で、III223は小片ではあるが唐津焼の溝縁皿で、丸瓦瓦当224は揚羽蝶文様の可能性がある。この溝の1区側から、包含層扱いであるが青磁242、白磁243が出土している。他に染付と土師器片が出土しており、埋没時期は17世紀後半～18世紀前半の可能性が高い。

(氏平)



黒褐色 (10YR3/2) 細～粗砂

第52図 溝4 (1/30)

溝4 (第7・52図)

2区北東側にある東西方向の溝。底面海拔高は2mと溝2・3と比べ高い。南側は調査時側溝で切断してしまったため、溝幅は不明である。調査区北壁の観察では、平面図より東側へも埋土が続くが、建物基礎の擾乱が激しいため掘り方は不明である。出土遺物は磁器・備前焼・陶器・瓦片が少量あった。埋没時期は18世紀後半以降と見ている。

(氏平)

5 杭列

杭列1 (第7・53図)

1区北東端に位置し、東西方向である。杭は1列で、2本が1組になる部分と1本だけの部分を繰り返しているようである。杭間の距離は1.2~1.4m、杭の直径は10~12cm、深さは65cmより深い。検出状況から土壤5・6よりは新しいと考える。

(氏平)

杭列2 (第7・54図)

2区南端に位置する、東西方向の杭列である。杭間の距離は0.6~0.8mで、1本ずつで1列を成している。杭は丸太杭で、その直径は4~9cm、深さは最大72cmである。杭は22本確認したが、西側へはまだ延びる可能性が高い。遺物は伴わず、時期も不明である。

(氏平)

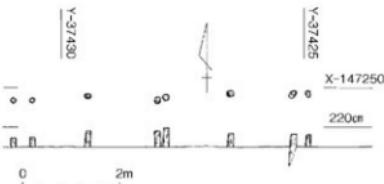
杭列3 (第7図)

2区南東側に位置する、東西方向の杭列である。変色した杭痕跡とピット状の抜き取り穴を検出し、杭列と認識した。検出状況から、列は2列だった可能性が高い。杭列の範囲は東西18.4mである。溝3の埋土を切っている部分があるので溝3よりは新しいと考えるが、遺物を伴っていないので時期は不明である。

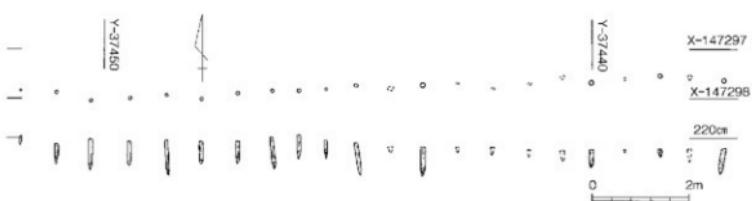
(氏平)

6 包含層出土遺物 (第55図、図版9・10)

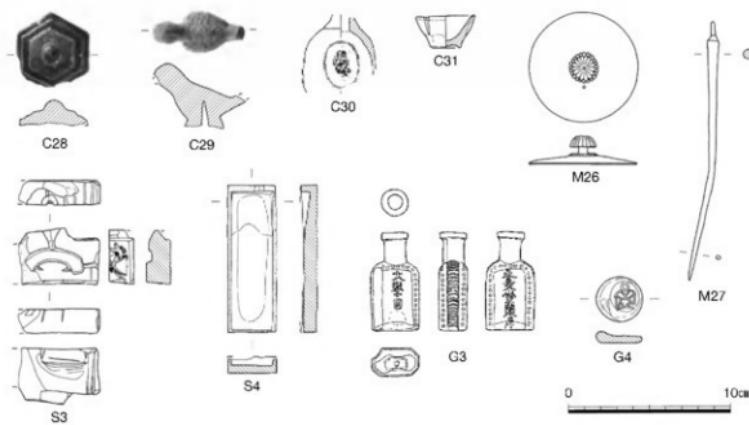
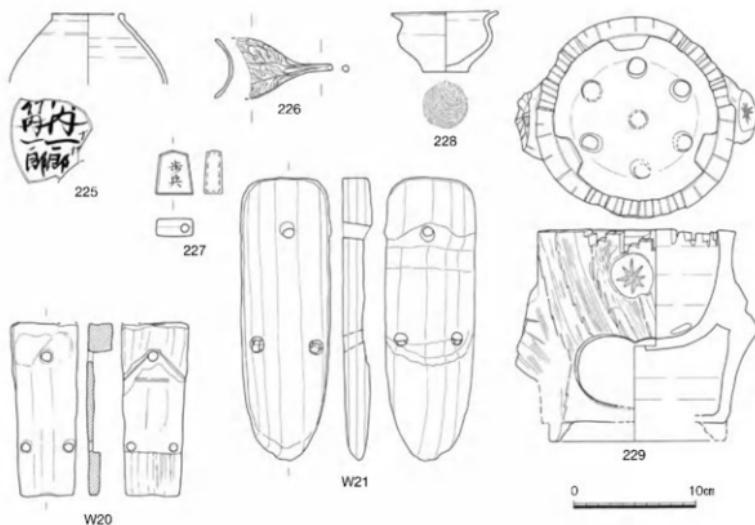
図示した遺物の内、明らかに造成上出土と認識した遺物は水滴227、鋳型S3、日葉ビンG3、おはじきG4である。G3は参天堂製薬房(現在の参天製薬株式会社)が発売した大学目薬の瓶で、明治末年から大正初めまで使用されていたようである。江戸時代以降の包含層で最も量の多かったのは、溝1上層に



第53図 杭列1 (1/100)



第54図 杭列2 (1/100)



第55図 江戸時代以降包含層出土遺物 (1/4・1/3)

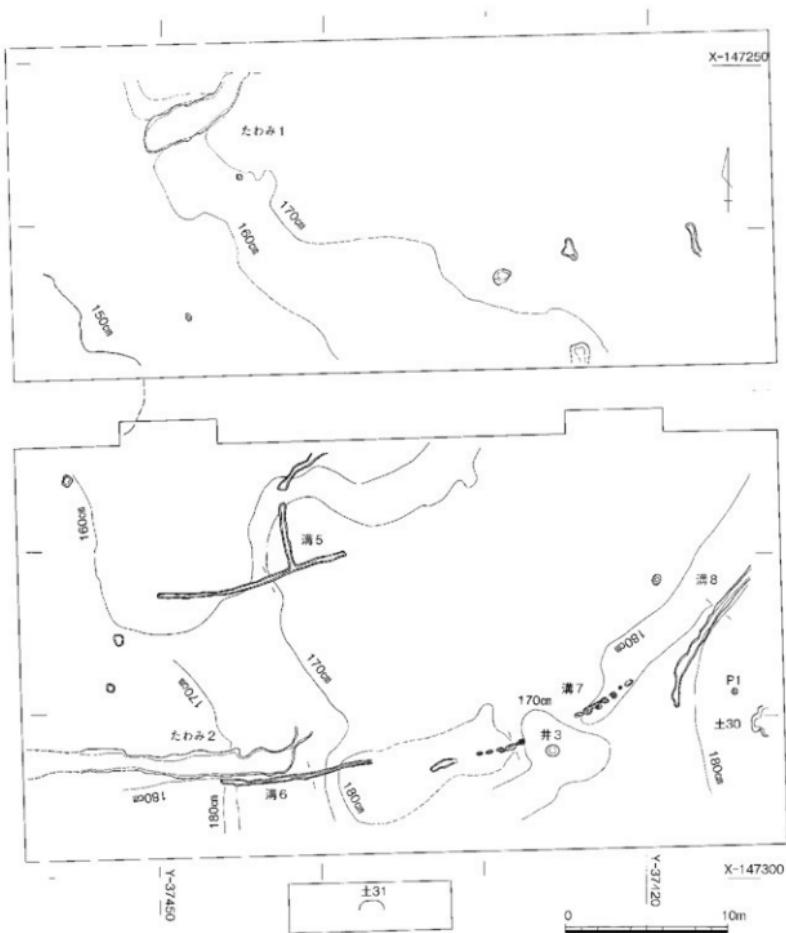
堆積した礫層と混在したものである。225・226・229・C28・C30・C31・S4・M26・M27がそれに当たる。明治後半に土地区画が変更されると共に大量の遺物が埋設されている。陶器壺225は破片となった後「竹内一郎」さんの名前書きの練習として使用されている。瓦質焜爐229は全体が切株形をしており、口縁部分に複雑な段差を設けるなど意匠を凝らしている。

(氏平)

第3節 中世以前の遺構と遺物

1 概要

中世以前の本調査区は、古代以降は水田層となる。溝5・6はこれら水田層の下層にあり、古墳時



第56図 中世以前遺構全体図 (1/300)

代の可能性がある。弥生時代中期以前の基盤層上で地形測量を行うと、1・2区境西端が最も低く、2区南端・東端へ高くなる。弥生時代～古墳時代の遺構は、おおむね海拔1.8m辺りに位置する。1区東端は攪乱のため不明だが、1区南東側と2区西側で図示した遺構は全てたわみで、1区全体と2区の海拔1.8mまでは遺構が希薄な低位部である。弥生時代中期では、溝7・8を等高線に沿った形で検出した。弥生時代後期の遺構として上塙30・31があり、その形状は平成16年度調査の裁判所で多く出土した土壙に類似する。古墳時代前半では、井戸3とP1を確認した。

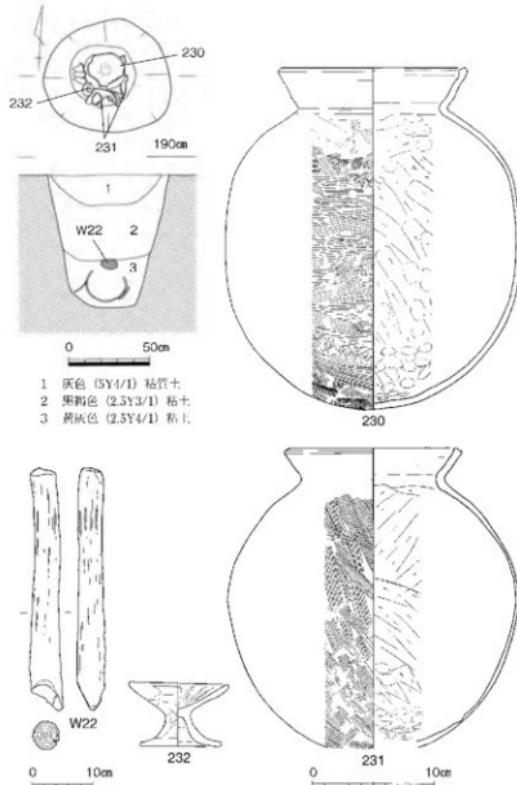
(氏平)

2 井戸

井戸3 (第56・57図、図版4・

10)

2区の南東側に位置する。埋土は周囲と大きく違う色調の土であったため、検出は容易であった。掘り方方は楕円形で、断面はU字形である。掘り方底部は湧水層に達しているが、調査時には木はあまり湧かなかった。遺物のほとんどは3層から出土した。遺物の位置は、3層の最も上にW22、その下で井戸の中央に230、230の南側に231の破片と232が位置する。230は口縁から胴部を3/4欠損し、231も1/2ほどしか残っていない。これらとは別に、もう1個体分の甕胴部片が存在する。W22は自然木の先端をV字状に切断した加工木で、樹種はヤブツバキとの同定を得た。230・231の胴部外面には煤が付着するが、器壁は剥離が少なく調整も明瞭である。なお、231



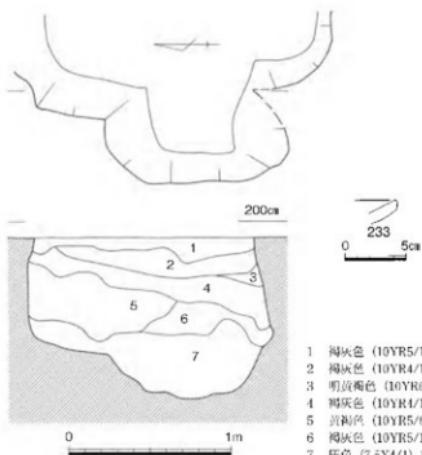
第57図 井戸3 (1/30)・出土遺物 (1/8・1/4)

の底部内面には粒状の炭化物が付着している。出土した土器より、この井戸は古墳時代前期に埋没したと言えよう。

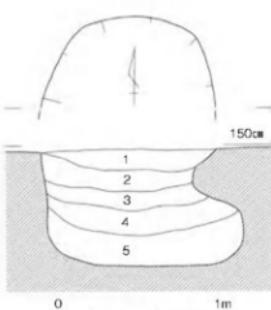
(氏平)

3 上塙

土塙30 (第56・58図)



第58図 土壌30 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第59図 土壌31 (1/30)

2区東壁で検出した遺構である。平面は東西2つの楕円形が接合したような形状で不整形であり、底面も凹凸がある。土層断面では北から堆積したように見える。遺構の掘り方は海拔205cmから確認でき、底部は粗砂湧水層を若干掘りこんで停止している。遺物は少なく、土器片が4片で同化できたのは233のみである。233では時期判断が難しいが、裁判所調査と同じ弥生時代後期末葉としておきたい。

(氏平)

土壌31 (第56・59図)

確認調査T3で検出した遺構である。平面は楕円形で、断面は袋状を呈する。埋上は第1層は均質であるが、それ以外はブロック状の土が混ざった状態である。遺構の掘り方上面は海拔150cmで、底部は粗砂湧水層に達している。遺物は出土していないが、弥生時代後期末葉としておきたい。

(氏平)

4 溝・たわみ

溝5 (第56・60図)

2区北側で検出したT字形の溝である。東西方向の溝に取り付く南北方向の溝は、途中で途切れ湾曲している。掘り方の断面形は箱形で、検出面での幅は32cm、深さは8cmを測る。埋上から弥生上器の小片が出土しているが、層位等から遺構の時期は古墳時代の可能性がある。

(柴田)

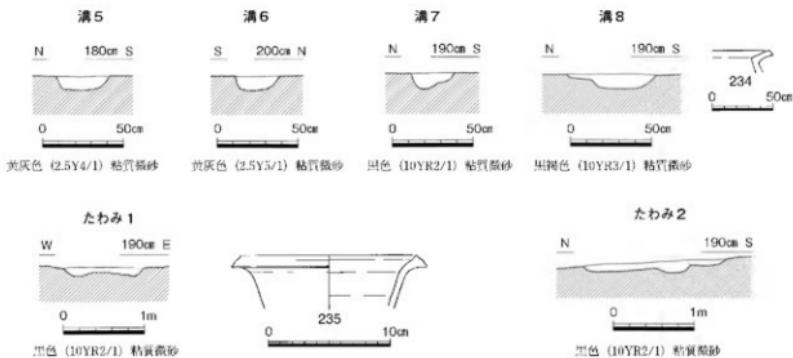
溝6 (第56・60図)

2区南側で検出した東西方向にのびる溝である。掘り方の断面形は箱形で、検出面での幅は27cm、深さは8cmを測る。溝5と関連する可能性が考えられる。埋上からの出土遺物は認められないが、層位等から遺構の時期は古墳時代の可能性がある。

(柴田)

溝7 (第56・60図)

2区南東側で検出した東西方向にのびる溝である。楕円形の小穴が連なるが、柱や杭の痕跡は認め



第60図 溝5～8・たわみ1・2 (1/60・1/30)・出土遺物 (1/4)

られないことから溝の底面と考えた。掘り方の断面形はU字形で、検出面での幅は26cm、深さは9cmを測る。埋土は黒色土で出土遺物は認められない。遺構の時期は弥生時代と考える。
(柴田)

溝8 (第56・60図)

2区東端で検出した南北方向にのびる溝である。周囲に谷状の微地形が認められ、その底部と考えられる。掘り方の断面形は皿形で、検出面での幅は56cm、深さは9cmを測る。埋土は黒褐色土で甕234や石器が出上した。遺構の時期は弥生時代中期と考える。
(柴田)

たわみ1 (第56・60図)

1区北西端で検出したたわみである。周囲に谷状の微地形が認められ、その底部と考えられる。掘り方の断面形は皿形で、検出面での幅は100cm、深さは11cmを測る。埋土は黒色土で、器壁が磨耗した壺235が出上した。遺構の時期は弥生時代中期と考える。
(柴田)

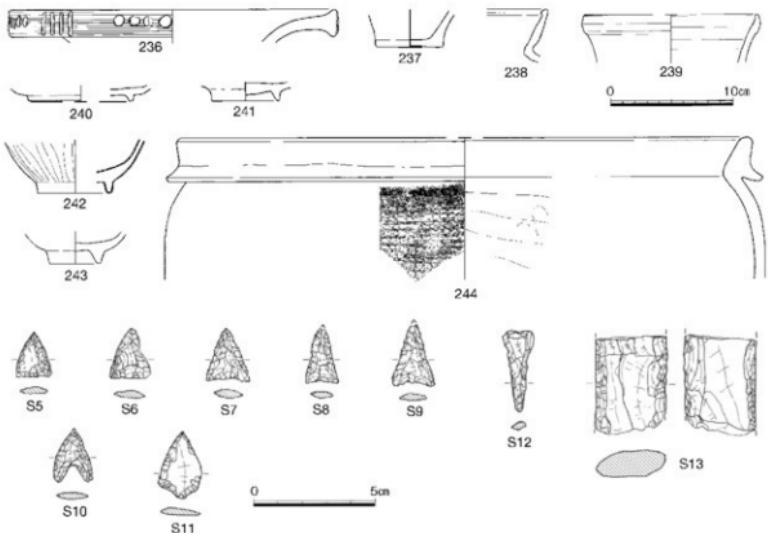
たわみ2 (第56・60図)

2区南西側で検出した東西方向にのびるたわみである。掘り方の断面形は皿形で、検出面での幅は177cm、深さは15cmを測る。埋土は黒色土で、出土遺物は認められない。遺構の時期は弥生時代中期と考える。
(柴田)

5 包含層出土遺物 (第61図、図版10)

中世以前の包含層としては、弥生時代の黒褐色包含層と古代～江戸時代の灰色水田層に大きく分かれる。ただ、いずれの遺物も摩耗している小さく破片で、集落に近接している印象は薄い。黒褐色包含層出土遺物は弥生時代中期後葉の壺236・甕237があり、いずれも2区南東側で出土した。古墳時代前期の遺物は少ないが、2区のP1から甕238が出上した。古墳時代後期の壺239、古代の杯身240、中世の吉備系土師器碗241は2区の西側灰色水田層から、中世の龜山焼甕244は1区西側灰色水田層から出土した。龍泉窯系青磁碗242と白磁243は1区の溝3から出土したものである。

石器は石錐・石錐・石劍がある。石錐は基部がほぼ直線のS5・S6、やや凹基のS7～S9、凹基のS10、凸基のS11がある。石劍S13は側縁に磨滅痕があり、2次的に転用されたことが考えられる。
(氏平)



第61図 中世以前包含層出土遺物 (1/4・1/2)



写真2 1区作業風景（北西から）



写真3 2区作業風景（南西から）



写真4 現地説明会の様子1 (平成23年2月19日)



写真5 現地説明会の様子2 (平成23年2月19日)

第4章 総括

弥生～古墳時代

調査地点の弥生時代中期では、黒褐色包含層が全体に存在し、これを除去すると基盤層が姿を現す。この基盤層上海拔180cm付近には溝7・8が存在する。これらは微高地の境界になる可能性がある。地形測量により、基盤層上面は1・2区境の西端が最も低いことが判明したので、溝7・8の南側に微高地が存在する可能性も考えられる。また、1区南西端の西壁の土壌について花粉・植物珪酸体分析を依頼した結果、中世～江戸時代前半水田層のⅢ-1・2層で栽培植物のイネ属の植物珪酸体を多量に検出したのに対し、黒褐色包含層(Ⅲ-3層)以下の層では栽培植物イネ属の植物珪酸体が未検出、という結果が出た(付載2参照)。黒褐色包含層を水田層とする根拠は薄いと言えるだろう。花粉分析では、黒褐色包含層はマツ樺花粉が増加することから、周辺では伐開が進み、またイネ科やカヤツリグサ科の草本は少ないため、調査区は草地というより開けた地点であったと考えられている。

弥生時代後期末葉では、2区東端に土壌30、南端に土壌31が存在する。これらの袋状土壌の用途は、東隣の岡山地家簡裁判所(以下裁判所と略)建設に伴う発掘調査^④で、粘土採掘坑というより「木製品に関わる何らかの造構」ではないかとしている。今回の調査でも、袋状土壌の性格を言及できる



第62図 弥生～古墳時代の調査区周辺 (1/3,000)

だけの根拠は示せなかった。ただ、袋状土壙の分布範囲が裁判所から土壙30より西へは広がらないことと、また土壙31より北へも広がらないことは明確になった。

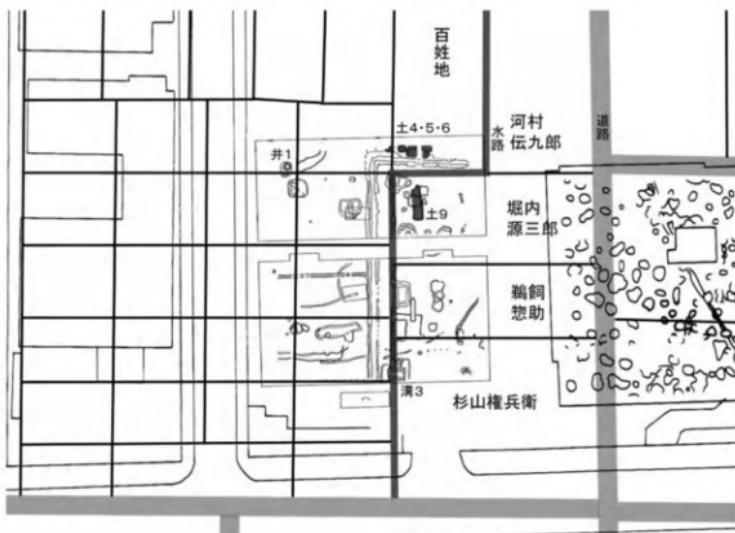
最近の調査によって南方遺跡の東側微高地の南東端が明らかになりつつある。岡山市教育委員会が平成20（2008）年に実施した子育て支援センター建設地の発掘調査^⑤では、弥生時代中期小葉以前に掘削された溝S D362が北西から南東方向に流れ、これを微高地と低地の境としている。その南側、後楽館中高校体育館建設に伴う発掘調査^⑥では、弥生時代前期の北東—南西方向の溝が新たに確認され、前期集落の南端と意義づけられた。S D362は幅約3m、前期の溝は幅約2.5mに達する規模で、集落にとって重要な役割の溝であることは明らかだ。いずれも今回の調査地より北側である。

今回の調査地点は、弥生時代前期から中期は低位部で、水田城とするにも根拠の薄い状態である。弥生時代後期から古墳時代前期においても集落の縁辺であると言えよう。

江戸時代

今回の調査地は旧七番町にあたる。侍屋敷となったのは慶長年間（1596～1615）からで、池田光政の治世から番町に侍屋敷が置かれたと推測されている^⑦。『備前岡山城下図』（『慶安城下絵図』、慶安年間：1648～1652）では馬・鉄砲屋敷であったが、寛文8（1668）年に藩学校の造営に伴い、その用地内の侍17人を六・七番町に転居させている^⑧。その前の六・七番町は従士・足軽組屋敷だった^⑨。宝永5（1708）年頃の岡山城下絵図『岡山伊勢宮絵図』はさらに40年後の様子を描いている。その後の文久元（1861）年の絵図『備前岡山地理家宅一枚図』まではおよそ150年の隔たりがある。

今回検出の遺構のうち、最も古い遺構は溝3と土壙4～6・9であろう。土壙4～6は溝1Bより古く、溝3は1区上壙7・20・22・28より古いことが切り合い関係からわかっている。これら遺構の理

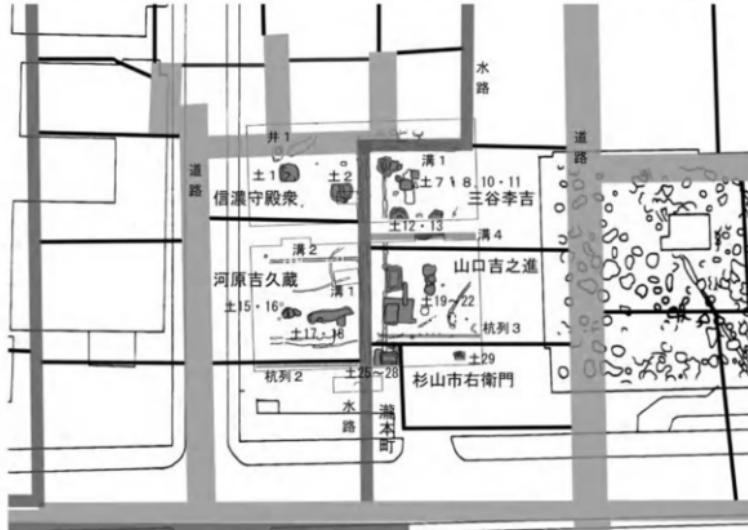


第63図 『岡山伊勢宮絵図』 [1708 (宝永5) 年ごろ] と遺構配置図 (1/1,000)
繪図は岡山大学付属図書館蔵、それを元にトレース・加筆

没時期は、出土遺物が少ないため17世紀後半～18世紀前半の幅を見ておきたい。溝3は宝永5（1708）年頃の「岡山伊勢宮絵図」の水路との照合が可能である（第63図）。さらに調査区の平面を清掃して観察したところ、土塙7の東側に土色の変色した部分が東西方向に帯状に続いていることがわかった。仮にこれを溝の痕跡とすると、溝3が方向を変えて東西方向に流れていたことになり、絵図との合致度合いはさらに高くなる。

つぎに、溝1の最も古い時期を挙げる（溝1A）。溝1Aは2区溝2と同時期で、207～209などから18世紀前半以降の可能性が高い。溝1Aは1B・1Cに切られるため、2区では西肩付近しか残存していないかった。1区の北端部分では、1B・1Cが東へ屈曲しているのに対し、まっすぐ延びている。溝1Bは205などより18世紀後半以降に埋没した可能性が高い。石垣を伴う部分がほとんどだが、2区西肩に石垣を伴わない部分がある。1区南北方向の西肩は杭を密に打ち込むのに対し、2区の西肩は杭がまばらである。2区の東肩の杭を子細に観察すると、杭の深さが50cm程度の杭が多く、2区西肩に杭が少ないのは後世の削平のためであると言えよう。溝1Cは19世紀前半以降明治時代後半までである。再び素掘り溝となるが、1Bの溝さらえの結果であるとも言える。出土遺物はほとんどが溝埋め立て時の遺物であろう。

土塙出土遺物は18世紀前半～後半の遺物が多いが、注意すべきは染付等による補修の痕跡が多く見られることである。焼継は18世紀末に始まり19世紀には広範囲に見られることから¹⁰、遺物そのものの時期にかかわらず19世紀以降の指標になる。また、染付蓋¹⁶⁹のような瀬戸・美濃系染付が少ない傾向にある。焼継により安価に磁器が補修でき、購入が見送られていたことが想像できる。



第64図 「備前岡山地理家宅一枚図」 [1861 (文久元) 年] と遺構配置図 (1/1,000)
絵図は岡山大学付属図書館蔵、それを元にトレース・加筆

満1B・1Cは文久元（1861）年の『備前岡山地理家宅一枚図』の水路と照合可能である（第63図）。その場合、土壇4～6・9以外の土壇が絵図の屋敷地のどこに当たるかを見していくと、三谷家に土壇7・8・10～13、山口家に土壇19～22、河原家に土壇15～18、杉山家に土壇29、信濃守殿衆に土壇1・2、瀧本町分に土壇25～28が位置することになる。土壇の性格だが、土壇19と28は方形の掘り方の内側に板を積み、杭で固定している状況が確認でき、穴蔵でないかと考えた。穴蔵は地下に掘った穴の壁面を板などで固定し蔵とするもので、天井は板材で蓋をして、火災に備えた避難場所であった。上蔵に対し安価に構築でき、江戸では18世紀以降町屋・武家屋敷に係わらず屋敷に備わるようになつた^⑯。他に土壇6には杭が伴い、土壇20も方形の掘り方を持っており、元来穴蔵だった可能性がある。

満・杭列では、満4は三谷・山口家の境付近、杭列3が山口・杉山家の境付近、杭列2は河原家南端の境付近に位置する。杭列1については、絵図と対応するかどうか断言できない。満4と杭列2・3は厳密に絵図と一致しないが、その位置からおそらく屋敷の区画に関係する遺構と見ていいだろう。

近世遺構から出土した獸・魚骨について、岡山理科大学の富岡直人氏に同定を依頼した（結果一覧は付載4）。魚類ではスズキ、マダイ、クロダイ、マゴチ、スッポンが出土し、食物残滓ということだった。獸類はニホンジカ、ニワトリ、イノシシ類が食用、イヌ・イエネコは愛玩用であろう。イヌの内満1出土の1頭は体骨のほとんどが一括出土し、埋葬された可能性が高い。その他は周囲に生息していたのではないだろうか。また、ニホンジカ骨に残された痕跡から、それらがイヌの餌あるいは遊び道具になっているという指摘があった。

さらに、近世遺構から出土した種子の同定を行った（結果一覧は付載3）。樹木では、ウメ、モモ種子が多数出土し、食用として定着していた。サクラ、キイチゴ、サンショウ、ヤマグワは食用で、マツ、ハンノキ属は周囲の植樹である。草本では、ウリ類、ヒエ、オオムギ、エゴマ、シソ属、ナス、カボチャは栽培植物で、利用後の残滓であろう。ナデシコ科、ヒユ属、タデ属、オヒシバ、カタバミ属、イラクサ科等はやや乾燥した人為地で生育し、スゲ属、カヤツリグサ科、ホタルイ属は水生植物で湿地に生育していた。草本は水田域に近い屋敷地という地理条件を反映しているようである。

近世遺構などから出土した漆のうち5点を分析した結果、鍛治漆と原料の包丁鉄であった（詳細は付載1）。鑄型C2・C25・C26・S10も出土し、周辺で鍛冶が行われたことが想定できる。文献では南方村鉄物師屋敷について『撮要録』^⑰の文政6（1866）年の記事があり、その位置は調査区の北方であった。鑄型C2が土壇6出土で、その埋没時期は17世紀後半から18世紀と想定したので、この記事と直接関係はないと考えるが、調査区付近が『備前岡山城下図』より慶安年間（1648～1652）は弓・鉄砲屋敷であったことから、その関係で付近に鉄物師が存在した可能性はあるだろう。（氏平）

註

- (1) 「南方遺跡 広島高森・岡山地家施設併存して併えに伴う発掘調査」[岡山県埋蔵文化財発掘調査報告] 200
岡山県教育委員会 2006
- (2) 「南方遺跡（子育て支援センター建設）」「南方遺跡（後楽館中高校体育館建設）」[岡山市埋蔵文化財センター年報]
9 2008（平成20）年度 岡山市教育委員会 2010
- (3) 岡山市地名研究会「岡山市の地名」 1989
- (4) 谷口澄夫「岡山城と城下町」[岡山縣史] 第6卷近世 I 1984
- (5) 民佐古真也「焼跡」[図説江戸考古学研究事典] 2001
- (6) 古泉弘「地下室」[図説江戸考古学研究事典] 2001
- (7) 「撮要録」後編 工商之部 文政8（1825）～明治3（1870）年

付載1 南方遺跡出土鍛冶関連遺物の分析

(株)九州テクノリサーチ・TACセンター 大澤正己

概要:江戸時代後半に属する武家屋敷跡から出土した含鉄楕形鍛治滓4点と鉄塊遺物1点の分析調査を行った。南方遺跡の鍛冶は、鍊鉄（包丁鉄）と共に古鉄（廃鉄器）を鍛冶原料とした鉄器製作の鍛鍊鍛治が想定される。

調査結果

MNK-1 含鉄楕形滓（2区東南端包含層出土）: 430 g 弱で上面が深く溶む特徴を有する。Photo.1の①～⑤に顕微鏡組織と断面硬度測定結果を示す。鉱物相は白色粒状結晶ウスタイト（FeO）と淡灰色柱状結晶ファヤライト（2FeO·SiO₃）を晶出する。両鉱物相の断面硬度値は前者が452Hvからウスタイト、後者は558Hvからファヤライトが同定される。滓中にはフェライト・パーライト地の亜共析域（<0.77% C）の金属鉄粒を遺存する。断面硬度値は0.10%以下の炭素量で106Hvが得られた。炭素量と硬度値間に整合性がとれた。化学組成をTable2に示す。全鉄分（Total Fe）は48.91%と高めで脈石成分（TiO₂, V, ZrO₂）低めで鍛鍊鍛治滓の特徴を呈する。酸化マンガン（MnO）0.24%や銅（Cu）<0.01%など低値から砂鉄系素材の要素を備える。

MNK-2 楕形鍛治滓（2区南端包含層出土）: 1100 g の大型品で2面の破面をもち、鍛造剥片を付着する。Photo.1⑦～⑪に顕微鏡組織と硬さ測定結果を示す。鉱物相はウスタイト+ファヤライト。硬度値は前者が430Hv、後者が554Hvと文献硬度値より若干低めだったが^(注1)誤差範囲内に収まる。鉄粒は2箇所の提示で、一つは⑨⑩のパーライト地に初析セメントタイト析出の過共析域(>0.77% C)、残る別箇所はパーライト地に片状黒鉛（flake graphite）析出のねずみ鉄であった。硬度値は前者初析セメントタイト側にややバラツキをもち243Hv～298Hv、後者の片状黒鉛近傍では319Hv～336Hvを呈した。Table2に化学組成を示す。成分傾向は前述MNK-1と大差なく、鍛鍊鍛治滓に分類される。但しこちらの処理鉄は高炭素素材を扱った韧性（硬く粘りをもつ）に富む刃物類に係った鉄器製作が想定される。

MNK-3 含鉄楕形滓（2区溝1出土）: 平面が不整形で218gの楕形滓である。滓の鉱物相は、Photo.2②に示すウスタイト+ファヤライト、含鉄は③④にみられるフェライト組織（硬度値は109Hv、110Hv）の小鉄片の残存ながら廃鉄器投入が推定できる。また別視野⑤では過共析域(231Hv～260Hv)の鉄粒存在の確認がとれた。卸し鉄（おろしがね）製作時の排滓の可能性を提示しておく。Table2に化学組成を示す。全鉄分は最も多くて52.87%を含み、造滓成分は逆に最も低く15.86%に留め、脈石成分Mn、Cuらも低減傾向が著しい。卸し鉄説を補強する。

MNK-4 含鉄楕形滓（土壤26出土）: 上面に黒色ガラスを付着した不定形状塊で606 g を測る。一見炉壁溶融物を連想させた。顕微鏡試料は3箇所でa表層ガラス部分（上部小片）、b表層内側含鉄部分（上部中片）、c中核部を対象とする。aはPhoto.2⑥⑦に示す如く木炭片噛込みの低温晶出鉱物のファヤライト単相^(注2)、bも浮はaと同じのファヤライト、鉄部は過共析域(265Hv～270Hv)である。cの鉱物相になると從来鍛治滓のウスタイト+ファヤライト、鉄粒はパーライト地(210Hv～212Hv)に塊状黒鉛（軟質：143Hv）を留めた高炭素材の組織であった。化学組成は全鉄分が若干低下の39.27%で、高炭素(5.30% C)、高磷(1.13% P₂O₅)が注目されて、脈石成分らには特異点は認められない。

MNK-5 鉄塊系遺物（土壤8出土）：長さ40×幅48×厚さ2.3mm重畠55g弱の平面不整円形で偏平な鉄塊系遺物である。メタル厚みは約10mm程度が推定されて遺存度が良好な金属鉄組織をPhoto.3の①～⑤に示す。②は鉄中非金属介在物にウスタイト(FeO)を内臓する。鉄はフェライト単相に斜線の結晶すべり線の塑性変形により形成された変形双晶(Deformation twin)が認められる。大鍛冶場で鍛（づくり）の炭素を酸化除去（「さげ」「本場」工程）した鍊鉄の包丁鉄破片の要素が窺える^(註3)。フェライト硬度値は正常部③で140 Hv、双晶部④は148 Hvと大差ない値となった。双晶部は硬化傾向著しい筈であり、時効劣化が現われている。Photo.4の上段5-①は鉄中介在物の捲込みスラグのウスタイト、下段5-②は折返し曲げ鍛接線上に晶出したウスタイトのEPMA調査結果である。分析点1と4からウスタイトの存在が証明された。

Table.2に化学組成を示す。Fe: 99.9%、不純物: 0.1%の高純度鉄である。現代の工業用純鉄成分に匹敵するもしくはそれ以上の延・展性を有し、よく鍛錬の効く特性をもつ。言葉をえれば粘性と加工性の優れた材質が保証される。Table.2には参考までに19世紀末の鳥取県都合山鉱出土包丁鉄の化学成分を記載した。これに比べて少しの遜色もない。

因に包丁鉄は依国一博士の記録によれば様々な大きさがあり、一例として長さ60cm、幅11cm、厚さ1cmが示されている^(註4)。差し当たり南方遺跡出土の鉄塊系遺物はこの様なサイズが原形として考えられよう。

註

- (1) 日刊工業新聞社『焼結鉱組成写真および識別法』1968
ウスタイトは450～500 Hv、マグネタイトは500～600 Hv、ファヤライトは600～700 Hvの範囲が提示されている。
- (2) ファヤライトの低温安定に関する実験論文と筆者（大澤）はホーロー焼成実験の体験から割り出した推定温度である。
 - (2) - 1 Wones,D.R.and Gilbert,M.C (1969) The fayalite-magnetite-quarts assemblage between 600° and 800°C American Journal of Science.Schairer Vol.267-A,p.480-488
水熱反応実験で600°のファヤライト生成を示す。
 - (2) - 2 O'Neill, H.S.C. (1987) Quartz-Fayalite-iron and quartz-fayalite-magnetite equilibria and the free energy of formation of fayalite (Fe_2SiO_4) and magnetite (Fe_3O_4). American Mineralogist.Vol.72,p.67-75.
電気化学反応で1000K (700°C) 前後のファヤライト生成を確認。
 - (2) - 3 Roedder,E (1952) A reconnaissance of liquidus relations in the system $K_2O \cdot 2SiO_2 \cdot FeO \cdot SiO_2$. Amer.Jour.Science.Bowen Volume. P435-456
金屬鉄と平衡する条件で、800°Cまでファヤライト生成が「推定」されている。（カリの存在でファヤライトの生成温度が低下する）
- (3) 角田徳幸・大澤正己「都合山鉱出土鉄関連遺物の金属学的調査」「都合山鉱の研究」2010(符号TUG-6鍛鉄(包丁鉄)の金属組織からも変形双晶が検出された。)
- (4) 依国一「古来の砂鉄製法一たら吹き製鉄法」丸善株式会社 1933

Table 1 供試材の履歴と調査項目

序号	測量部	箇所名	箇所位置	測量No.	測量名稱	測量年代	人大きさ (mm)	重量 (g)	測定値			測定値			備考
									頭長	頭幅	頭高	頭幅	頭高	頭深	
MNK-1	25% 未開発個體	頭部	87	頭部	174±47	102.1±8.9	4×60.1	429.4	-	M (3)	○	○	○	○	○
MNK-2	25% 開発個體	頭部	66	頭部	171±47	168.9±14.9	3×56.5	1098.2	-	L (●)	○	○	○	○	○
MNK-3	未妊娠	頭部	101	頭部	171±47	82.9±9.0	2×29	284.2	-	L (●)	○	○	○	○	○
MNK-4	上部26	頭部	92	頭部	171±47	122.2±17.3	2×86	606.3	-	M (3)	○	○	○	○	○
MNK-5	1.48	頭部	123	頭部	170±47	49.2±8.2	2×23	54.8	-	TL (2)	○	○	○	○	○

Table 2 供試材の組成

Table 3 生土遺物の調査結果のまとめ

序号	培养条件	生长时间	培养条件	细胞生长情况						化成度(%)	Cw	
				Td/L	F _e	F _e O	R _{基团} /R _{支链}	Td/L	V	MeO	C ₂	
MNK-1	2区+诱导培养液	24h	T _d 恒温下	Td:W ₁ :V ₁ :诱导培养液:t ₁ :C ₁	48.91	18.06	2.90	0.20	<0.01	0.24	26.10	≤0.01
MNK-2	2区+诱导培养液	24h	T _d 恒温下	Td:W ₂ :V ₂ :诱导培养液:t ₂ :C ₂	43.33	16.27	4.52	0.20	0.01	0.34	34.12	≤0.01
MNK-3	2区培养液	24h	T _d 恒温下	Td:W ₃ :V ₃ :诱导培养液:t ₃ :C ₃	32.87	15.02	2.43	0.10	<0.01	0.29	11.86	≤0.01
MNK-4	上层培养液	24h	T _d 恒温下	Td:(1:10)W ₄ :V ₄ :诱导培养液:t ₄ :C ₄	39.27	11.96	3.28	0.18	<0.01	0.40	26.40	≤0.01
MNK-5	上层培养液	24h	T _d 恒温下	Td:(1:10)W ₅ :V ₅ :诱导培养液:t ₅ :C ₅	0.02	0.02	0.04	0.05	S _c	C ₂	0.004	<0.01

vanillin (4-O-*acetyl*-2-O-*benzoyl* phenylpropanoate) は、2-phenylpropionic acid と vanillin の *O*-acylation 反応によって得られる。vanillin は、天然の香料として古くから用いられており、アーモンド風味をもつ。また、vanillin は、アーモンド油の主成分である。

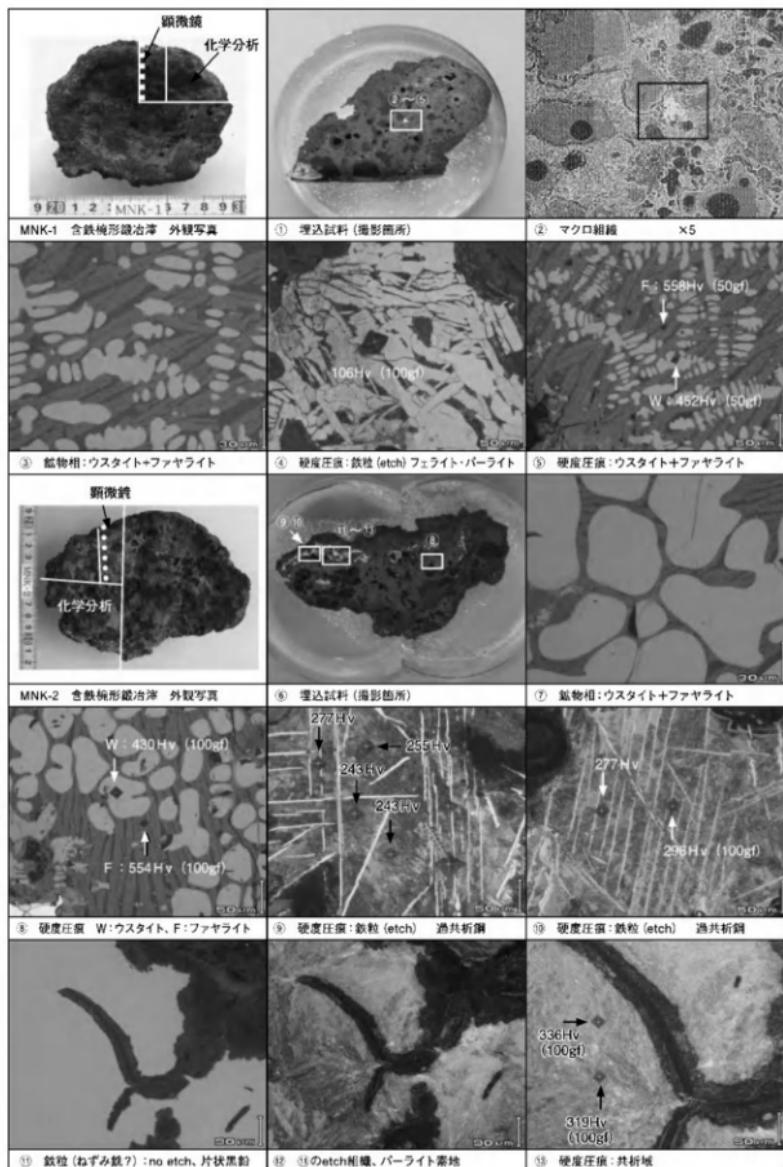


Photo. 1 含鉄樹形鍛治滓 (MN K-1, 2) の顕微鏡組織

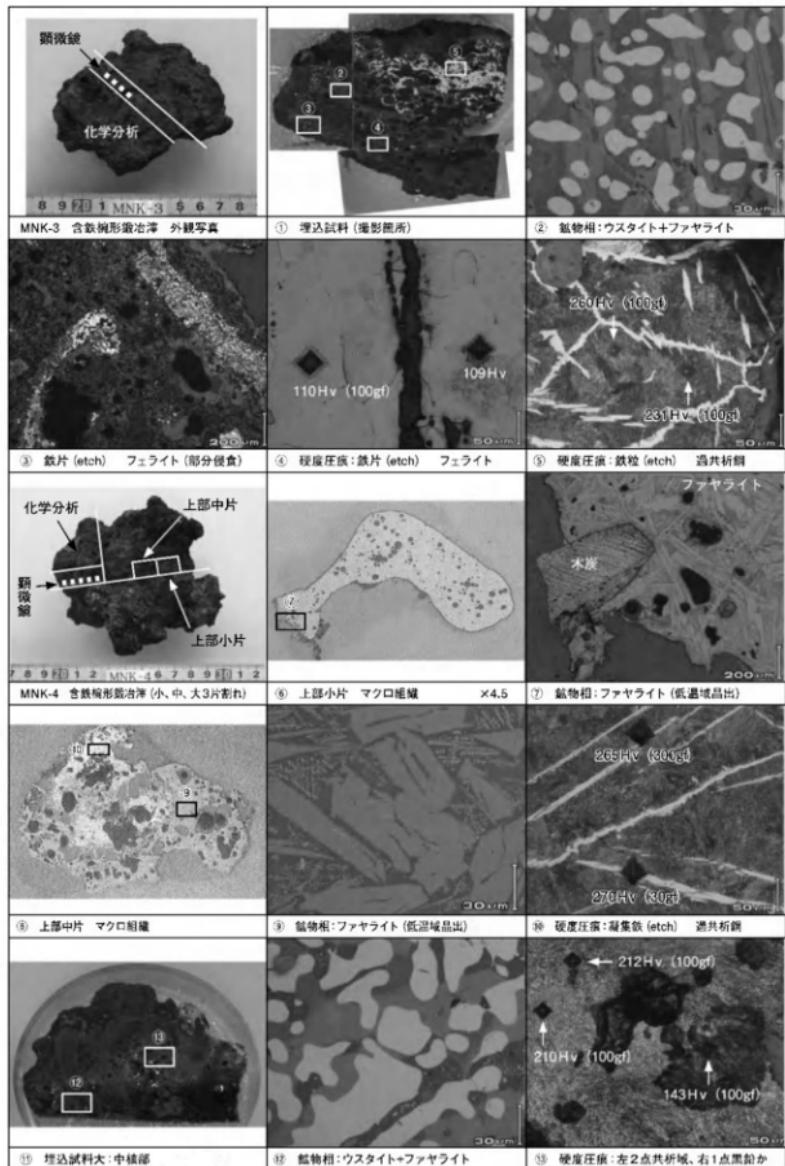


Photo. 2 含鉄樹形鍛冶滓 (MNK-3, 4) の顕微鏡組織

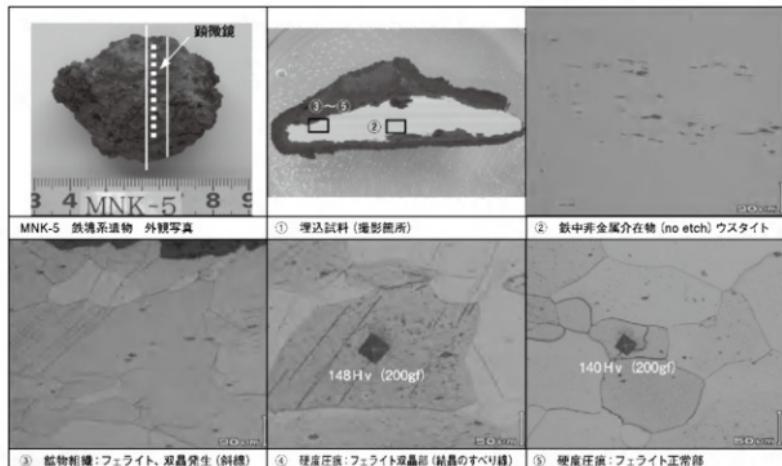


Photo. 3 鉄塊系遺物 (MNK-5) の顕微鏡組織

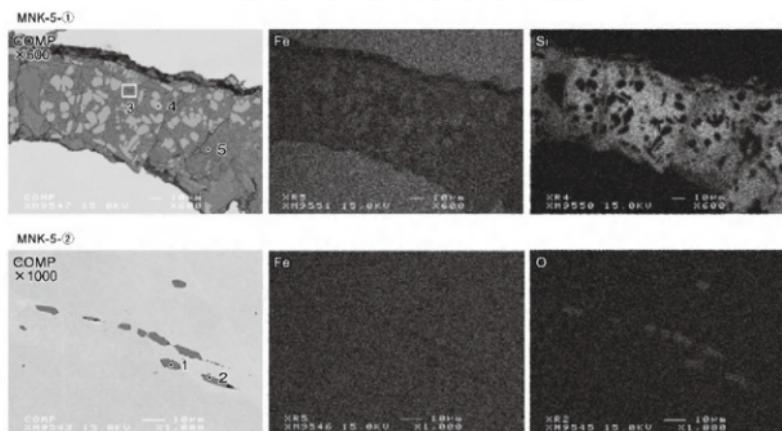


Photo. 4 鉄塊系遺物 (MNK-5)
鉄中非金属介在物のEPMA調査

Element	1	2	3	4	5
Na ₂ O	0.019	—	1.011	0.025	0.089
MgO	—	—	0.073	—	0.017
Al ₂ O ₃	—	—	10.475	0.775	6.465
SiO ₂	0.086	0.081	35.543	0.334	17.732
P ₂ O ₅	—	0.028	0.675	0.016	0.092
S	0.010	0.006	0.155	0.010	0.032
K ₂ O	—	—	3.765	0.012	0.044
CaO	—	—	3.806	0.003	0.664
TiO ₂	—	—	0.231	0.747	—
Cr ₂ O ₃	—	—	—	—	—
MnO	0.030	0.013	0.126	0.010	—
FeO	81.124	82.257	36.152	80.908	50.284
As ₂ O ₃	—	0.022	0.167	—	0.004
V ₂ O ₅	—	—	0.013	0.109	—
Total	81.269	82.407	92.072	82.849	75.423

付載2 南方遺跡土壤の花粉・植物珪酸体分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

今回の分析調査では、弥生時代中期～中世の調査区ないしその周辺の古環境に関する情報を得ることを目的として、花粉・植物珪酸体分析を実施した。本報告では紙面の都合で調査成果の概要について報告する。詳細報告は岡山県古代古墳文化財センターに保管されているので参照されたい。

1 分析結果

(1) 花粉分析

花粉化石群集の層位分布図を図1に示す。弥生時代中期以前ではⅢ-5層(各層の位置は第6回参照)で木本花粉とシダ類胞子が多産する。木本花粉では針葉樹のモミ属、マツ属、常緑広葉樹のアカガシ属、落葉広葉樹のコナラ属が多産し、針葉樹のツガ属、コウヤマキ属、落葉広葉樹のクマシデ属、アサダ属、ニレ属、ケヤキ属等を伴う。Ⅲ-4層では花粉化石がほとんど産出しない。

弥生時代中期のⅢ-3層は花粉化石の保存状態が悪く、偏った組成になっている可能性が高い(風化に耐性のある針葉樹花粉が過大評価されている)。木本花粉では針葉樹のマツ属が増加し、常緑・落葉広葉樹が減少している。草本花粉は多少増加する。

中世のⅢ-2層及び最上位のⅢ-1層では草本花粉が増加する。中でもイネ科の増加が顕著であり、種類構成も多様になり、水生植物のオモダカ属、デンジソウ属、ミズワラビ属、サンショウモ、Ⅲ-1層で栽培種のソバ属が検出される。木本花粉では二次林の代表的な樹種であるマツ属が優占する。

(3) 植物珪酸体分析

分析結果を表1、図2に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。

弥生時代中期およびそれ以前のⅢ-5層～Ⅲ-3層では植物珪酸体含量が少なく、タケ類などがあ

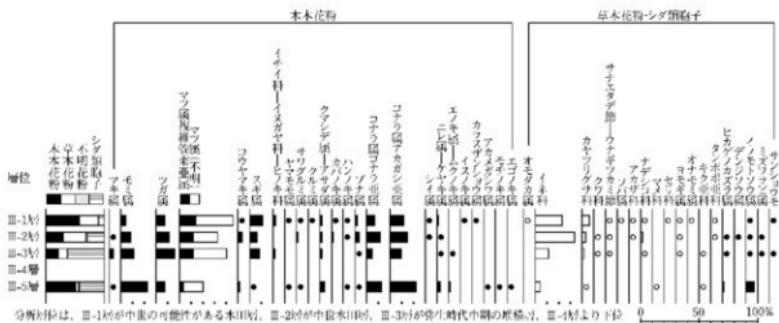


図1 1区西壁の花粉化石群集の層位分布

表1 1区西壁の植物珪酸体分析結果

種類(分類群)	層位				
	Ⅲ-1層	Ⅲ-2層	Ⅲ-3層	Ⅲ-4層	Ⅲ-5層
イネ科葉部短細胞珪酸体					
イネ属	400	700	-	-	-
タケ亜科	800	800	-	<100	-
ヨシ属	100	200	-	-	-
ウシクサ族ススキ属	400	400	-	-	-
イチゴツナギ亜科	300	100	-	-	-
不明	2,300	2,300	500	-	-
イネ科葉身短細胞珪酸体					
イネ属	1,100	1,500	-	-	-
タケ亜科	1,000	800	<100	<100	-
ヨシ属	300	100	-	-	-
ウシクサ族	100	<100	-	-	-
不明	2,900	1,800	<100	<100	<100
合計	4,200	4,600	500	<100	-
イネ科葉身短細胞珪酸体	4,400	4,200	100	100	<100
総計	8,700	8,800	600	200	<100

数値は各層面密度(個/g)を示し、100倍で丸めた値として示す。合計は各分類群の丸めた値を合計した後で丸めた値である。<100は100個/g未満を示す。

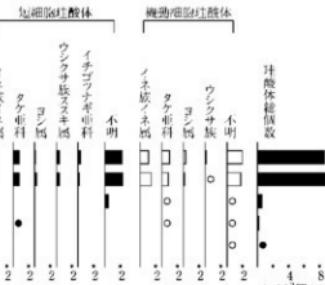


図2 1区西壁の植物珪酸体含量の層位的変化

すかに認められるに過ぎない。

中世のⅢ-2層とⅢ-1層では、植物珪酸体含量が増加し、栽培植物であるイネ属が特徴的に産出するようになる。イネ属の含量密度は、Ⅲ-2層の短細胞珪酸体が約700個/g、機動細胞珪酸体が約1,500個/g、Ⅲ-1層の短細胞珪酸体が約400個/g、機動細胞珪酸体が約1,100個/gである。また百分率で計算した、イネ属産出率は、Ⅲ-2層の短細胞珪酸体が約15%、機動細胞珪酸体が約36%、Ⅲ-1層の短細胞珪酸体が約10%、機動細胞珪酸体が約25%である。イネ属以外ではタケ亜科、ヨシ属、ススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが認められる。

2 考察

弥生時代中期以前のⅢ-5層・Ⅲ-4層形成期は、後背山地などを中心に常緑広葉樹のアカガシ亜属などからなる暖温帶林が成立していたとみられる。また、落葉広葉樹のコナラ亜属、クマシデ属・アサダ属、ニレ属・ケヤキ属、エノキ属・ムクノキ属などは河畔林の構成要素でもあり、当時もそのような場所を中心に生育していたものと思われる。一方、調査区は、草本花粉や植物珪酸体含量が少ないことから（分解消失した可能性もある）、草地植生の発達しない、開けた場所であった可能性がある。

弥生時代中期のⅢ-3層形成期も、周辺植生は依然として暖温帶性の植生であったが、二次林の代表的な樹種であるマツ属が目立つ植生に変化したとみられる。この変化の原因の一つとして、人為的な植生擾乱が考えられる。一方、調査区はイネ科やカヤツリグサ科などの草本類が生育していたものの、これらが繁茂する草地ではなく、開けた場所であった可能性が高い。

中世のⅢ-2層・Ⅲ-1層形成期には、調査区の景観が一変する。イネ科花粉が多産し、栽培植物のイネ属山來の植物珪酸体が比較的多く産出することから、イネ科の卓越する草地植生、あるいは水田などの耕作地に変化したことが推定される。Ⅲ-2層・Ⅲ-1層では発掘調査により水田遺構が検出されていることと同調的な変化であり、ここでの植生変化が人間活動に起因する変化であることがうかがえる。周辺の森林植生に対しても、二次林の代表的な樹種であるマツ属花粉の増加などから、人為的な擾乱が及んでいたことが推定される。

付載3 南方遺跡の種実・樹種同定結果

株式会社古環境研究所

表1 南方遺跡における種実同定結果

試料番号	遺構名	分類群		部位	個数	備考
		学名	和名			
1	土壤13	<i>Prunus persica</i> Batsch	モモ	核(平形)	1	
2	土壤12	<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr	オニグルミ	核	1	
3	土壤12	<i>Prunus persica</i> Batsch	モモ	核(平形)	1	
4	土壤11	<i>Prunus mume</i> S. et Z.	ウメ	核	1	
		<i>Prunus persica</i> Batsch	モモ	核 (平形) 種子	2 1	
5	土壤11	<i>Cucurbita moschata</i> Duch.	カボチャ	種子	1	
6	土壤11	<i>Prunus mume</i> S. et Z.	ウメ	核	1	
7	土壤1	<i>Prunus persica</i> Batsch	モモ	核	1	
8	土壤3	<i>Torreya nucifera</i> S. et Z.	カヤ	種子	1	
		<i>Prunus persica</i> Batsch	モモ	核	1	
9	溝1	<i>Prunus mume</i> S. et Z.	ウメ	核	1	
		<i>Prunus persica</i> Batsch	モモ	核	1	
11	溝1B	<i>Cucumis melo</i> L.	ウリ類	種子	1	
12	溝1A	<i>Pinus sylvestris</i> Diplosylon	マツ属裸粒落葉針葉樹	球果	1	
13	溝1A	<i>Prunus mume</i> S. et Z.	ウメ	核	1	
		<i>Prunus persica</i> Batsch	モモ	核	2	
14	溝1B	<i>Cucurbita moschata</i> Duch.	カボチャ	果梗	1	
15	溝1B	<i>Alnus</i>	ハンノキ属	果実	1	
		<i>Morus australis</i> Poir.	ヤマグリ	種子	4	
		<i>Prunus mume</i> S. et Z.	ウメ	核 (破片)	2 1	
		<i>Prunus sect. Pseudocerasus</i>	サクラ属サクラ類	核	2	
		<i>Rubus</i>	キイチゴ属	核	1	
		<i>Zanthoxylum piperitum</i> DC.	サンショウ	種子	1	
		<i>Liesche indica</i> Gaertn.	オヒシバ	種子	2	
		<i>Echinocloa</i> Ohwi et Yabuno	ヒエ	種子	1	
		<i>Hordeum vulgare</i> L.	オオムギ	果実(炭化)	1	
		<i>Scirpus</i>	ホタルイ属	果実	1	
16	溝1上包含層	<i>Carex</i>	スグ草	果実	7	
		<i>Cyperaceae</i>	カヤソリクサ科	果実	2	
		<i>Polygonum</i>	タデ属	果実	8	
		<i>Urticaceae</i>	イラクサ科	種子	1	
		<i>Amaranthus</i>	ヒユ属	種子	25	
		<i>Caryophyllaceae</i>	ナデシコ科	種子	33	
		<i>Oxalis</i>	カタバミ属	種子	2	
		<i>Perilla frutescens</i> var. <i>japonica</i> Hara	エゴマ	果実	1	
		<i>Perilla</i>	シソ属	果実(破片)	1	
		<i>Solanum melongena</i> L.	ナス	種子	1	
17	溝1B	<i>Cucumis melo</i> L.	ウリ類	種子	2	
		<i>Cucurbita moschata</i> Duch.	カボチャ	種子	1	
18	土壤15	<i>Cucurbitaceae</i>	ウリ科	種子(破片)	5	
		<i>Cucurbitaceae</i>	ウリ科	種子(破片)	5	
19	土壤15	<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr	オニグルミ	核(破片)	1	
20	溝1B	<i>Pinus sylvestris</i> Diplosylon	マツ属裸粒落葉針葉樹	球果	1	
21	溝1B	<i>Prunus mume</i> S. et Z.	ウメ	核 (破片)	42 3	同一個体片有
22	溝1B	<i>Quercus acutissima</i> Carr	クヌギ	堅果	1	
23	溝3	<i>Prunus persica</i> Batsch	モモ	種子	1	
24	溝3	<i>Cucumis melo</i> L.	ウリ類	種子	5	
25	土壤28	<i>Cucurbita moschata</i> Duch.	カボチャ	種子(破片)	1 2	

表2 南方遺跡大型種実計測値

・カヤ

試料	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)
8	21.85	11.40	—

・オニグルミ

試料	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)
2	29.29	29.68	20.65

・クヌギ

試料	長さ(mm)	幅(mm)
23	25.54	18.02

・モモ

試料	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)
3	23.97	16.30	12.74
	24.70	16.67	—
	25.39	18.63	13.79
4	21.67	16.30	8.35
	28.18	18.92	—
7	26.61	20.81	18.34
8	20.62	16.39	13.47
9	27.99	18.89	14.11
13	25.86	16.59	13.26
	29.54	19.20	14.36
24	26.44	17.41	13.79

・センダン

試料	長さ(mm)	幅(mm)
16	14.80	7.98

・ウリ類

試料	長さ(mm)	幅(mm)
11	7.32	3.63
16	7.54	3.35
	7.92	3.97
	7.68	3.77
	6.61	3.12
	6.94	3.25
25	7.24	3.74
	7.93	3.47
	7.72	3.76
	7.58	3.62

・カボチャ

試料	長さ(mm)	幅(mm)
4	13.86	7.59
15	14.08	8.50
	11.45	6.98
	12.45	6.35
16	11.03	7.20
	11.57	7.50
	10.52	6.98
25	11.70	7.38
	10.01	6.82

・ウメ

試料	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)
4	15.14	11.33	9.29
5	18.10	14.42	11.31
6	16.44	12.18	10.11
9	17.13	13.26	9.76
13	14.50	9.80	8.31
15	16.10	12.39	10.29
	19.39	13.67	—
	27.62	22.05	15.33
	26.44	22.33	15.75
	21.15	18.05	14.60
	23.75	20.90	14.35
	25.66	21.02	14.03
	23.79	20.68	14.78
	24.90	20.57	14.94
	25.89	21.17	15.08
	24.66	20.93	15.45
	17.00	14.25	11.60
	21.85	19.22	15.09
	25.04	21.44	15.22
	22.25	19.75	15.02
	21.75	18.70	12.59
	21.08	18.40	12.75
	18.47	16.55	12.26
	18.01	15.50	12.07
	17.91	14.29	11.14
	18.23	15.12	11.24
	17.22	14.56	10.98
	15.58	12.63	8.82
22	18.02	14.75	11.53
	17.60	14.65	11.71
	16.08	14.22	12.09
	16.31	14.78	11.93
	16.28	14.11	11.69
	16.07	13.19	10.61
	16.29	14.18	11.58
	14.48	12.33	10.41
	16.75	13.21	11.35
	16.11	13.55	10.66
	14.53	12.57	10.30
	13.86	11.90	10.05
	21.80	18.55	15.96
	15.39	12.03	10.77
	16.34	13.87	11.57
	14.96	12.40	10.34
	15.57	13.37	11.34
	17.09	13.16	9.12
	16.77	14.17	11.34
	17.15	13.73	11.16
	16.31	—	10.58
	23.48	20.70	—

表3 南方遺跡における樹種同定結果

試料番号	通称名	サンプル番号	時期	備考	結果(学名/和名)
1	満1	杭③	江戸	方形 町はぞ穴	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ
2	満1	桐木⑤	江戸	丸太材	<i>Pinus densiflora</i> Sieb. et Zucc. アカマツ
3	満1B	杭③	江戸	先端部	<i>Pinus densiflora</i> Sieb. et Zucc. アカマツ
4	上塙28	杭①	江戸	先端部	<i>Pinus densiflora</i> Sieb. et Zucc. アカマツ
5	土塙19	杭④	江戸	先端部	<i>Pinus densiflora</i> Sieb. et Zucc. アカマツ
6	土塙19	板材①	江戸	幅はんのままか	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
7	上塙19	板材②	江戸	3片に削れる	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
8	片川3	W22	古墳前庭	端部加工木材	<i>Camellia japonica</i> Linn. ヤブツバキ

付載4 南方遺跡出土動物遺体属性表

魚上綱一覧

遺物 番号	枝番 号	出土地 区名	遺物名	大分類	小分類	部位名	J.R M	部分	成長度	號指
11	1	1区	土器10	硬骨魚類	マコチ	軟骨	M L	椎体	-	?
38	1	2区	土器18	硬骨魚類	タイ科	上腹部	L R	ルル形	-	なし?
23	1	1区	土器19	硬骨魚類	マコチ	頭骨	R L	ルル形 滴矢孔	-	?
23	2	1区	土器20	硬骨魚類	マコチ	頭骨	L R	ルル形	-	なし
23	3	1区	土器21	硬骨魚類	マコチ	頭骨	L R	ルル形	-	?
23	4	1区	土器22	硬骨魚類	マコチ	頭骨	L R	ルル形	-	cm 切断
9	1	1区	土器23	硬骨魚類	マコチ	板樋	M L	椎体 水部-尾部	-	?
9	2	1区	土器24	硬骨魚類	スズキ科	頭部	L R	椎体	-	?
9	3	1区	土器25	硬骨魚類	クロダイ	前上顎骨	R L	ルル形	-	なし
9	4	1区	土器26	硬骨魚類	クロダイ	右顎骨	R L	ルル形	-	?
9	5	1区	土器27	硬骨魚類	クロダイ	左顎骨	R L	ルル形	-	?
10	1	1区	土器28	硬骨魚類	マダイ	頭骨	L R	右側久掛	-	?
10	2	1区	土器29	硬骨魚類	スズキ	半椎骨	L R	ルル形-一部欠損	-	cm 4.39
10	3	1区	土器30	硬骨魚類	マイチ	板樋	M L	椎体	-	cm (Aaタイプ)
10	4	1区	土器31	硬骨魚類	タラ科	板樋	M L	椎体 + 血管跡	-	?
10	5	1区	土器32	硬骨魚類	マコチ	頭骨	M L	椎体	-	cm (Daa血管跡)
28	1	2区	土器33	硬骨魚類	マコチ	頭骨	M L	椎体	-	?
28	2	2区	土器34	硬骨魚類	タイ科	前上顎骨	R L	ルル形 (mlc)	-	なし?
28	3	2区	土器35	硬骨魚類	タイ科	前上顎骨	R L	ルル形 (mlc)	-	(cm (Aaタイプ))

鳥綱・爬虫綱・哺乳綱一覧

遺物 番号	枝番 号	出土地 区名	遺物名	大分類	小分類	部位名	J.R M	部分	成長度	號指
2	1	1区	土器12	鳥類	ニホンジカ	中足骨	L R	ルル形	Pd : f	イス類(既ist + dia)
3	1	1区	土器13	鳥類	ニホンジカ	中足骨	L R	ルル形	f	cm (Daaタイプ) 鞘
5	1	1区	土器14	鳥類	ニホンジカ	人脚骨	R L	dist + dia	d : f	スズメ類(既ist + dia)
5	2	1区	土器15	鳥類	ニホンジカ	人脚骨	R L	dist + dia	f	スズメ類(既ist + dia)
35	1	2区	土器16	鳥類	スズボン	上腹中板	R L	ルル形	?	?
40	1	2区	土器17	鳥類	ニホンジカ	脚骨	R L	dist	?	sp? (dia)
43	1	2区	土器18	鳥類	イエネコ	上部骨	L R	ルル形	dp. 2, 3, 4, 0	ut
18	1	1区	土器19	鳥類	シカ科	中足骨	L R	dist + dia	d : uf	なし?
19	1	1区	土器20	鳥類	スズボン	脚骨中板	R L	ルル形	?	?
20	1	1区	土器21	鳥類	マガマクラス	中足骨	R L	ルル形	?	cm 切断
21	1	1区	土器22	鳥類	カラス類	右足骨	R L	ルル形	?	?
22	1	1区	土器23	鳥類	ニホンジカ	中足骨	R L	ルル形 + prox	p : f	sp? (dia)
35	1	2区	土器24	鳥類	ニワトリ	尾羽骨	R L	ルル形	?	既ist (Daaタイプ)
35	1	2区	土器25	鳥類	ニホンジカ	脚骨	R L	ルル形	?	既ist (脚外側)
35	1	2区	土器26	鳥類	ニホンジカ	脚骨	R L	板樋 + 骨端	antennae : dist	?
44	1	2区	土器27	鳥類	ニホンジカ	脚骨	R L	ルル形	?	cm (Daaタイプ)
15	1	1区	土器28	鳥類	イヌ	髌骨	R L	ルル形	?	なし
16	1	1区	土器29	鳥類	ニホンジカ	胫骨	R L	dist	?	sp (dist + dia)
29	1	2区	土器30	鳥類	ニホンジカ	胫骨	R L	ルル形	?	Daa (dia, dia後)
30	1	2区	土器31	鳥類	イヌ	下部骨	R L	ルル形 + prox	?	?
37	1	2区	土器32	鳥類	ニホンジカ	踵骨	R L	ルル形	?	?
37	2	2区	土器33	鳥類	ニホンジカ	踵骨	R L	ルル形	?	?
37	3	2区	土器34	鳥類	ニホンジカ	踵骨	R L	ルル形	?	?
37	4	2区	土器35	鳥類	ニホンジカ	踵骨	R L	ルル形	?	?
41	1	1区	土器36	鳥類	カラカル	右脚骨	R L	ルル形	?	?
13	1	1区	土器37	鳥類	イヌシ類	人筋骨	L R	ルル形	p : dist (既prox)	内側頭 (prox)
14	1	1区	土器38	鳥類	イヌ	右脚骨	R L	ルル形 + dist	?	?
14	2	1区	土器39	鳥類	イヌ	元椎	M L	ルル形	?	なし
14	3	1区	土器40	鳥類	イヌ	下部骨	R L	ルル形 + dist	?	?
14	4	1区	土器41	鳥類	イヌ	上部骨	R L	ルル形	?	?
14	5	1区	土器42	鳥類	イヌ	上部骨	R L	ルル形	?	?
14	6	1区	土器43	鳥類	イヌ	人筋骨	R L	ルル形	?	dist : cm ? ?
14	7	1区	土器44	鳥類	イヌ	筋骨	R L	ルル形	?	?
14	8	1区	土器45	鳥類	イヌ	筋骨	R L	ルル形	?	?
14	9	1区	土器46	鳥類	イヌ	筋骨	R L	ルル形	?	?
14	10	1区	土器47	鳥類	イヌ	筋骨	R L	ルル形	?	?
14	11	1区	土器48	鳥類	イヌ	筋骨	R L	ルル形	?	?
14	12	1区	土器49	鳥類	イヌ	筋骨	R L	ルル形	?	?
14	13	1区	土器50	鳥類	イヌ	筋骨	M L	ルル形	?	?
14	14	1区	土器51	鳥類	イヌ	頭頂	M L	ルル形 + dist	?	?
14	15	1区	土器52	鳥類	イヌ	頭頂	M L	ルル形	?	?
14	16	1区	土器53	鳥類	イヌ	頭頂	M L	ルル形 + dist	?	?
14	17	1区	土器54	鳥類	イヌ	頭頂	M L	ルル形	?	?
14	18	1区	土器55	鳥類	イヌ	頭頂	M L	ルル形	?	?
14	19	1区	土器56	鳥類	イヌ	頭頂	M L	ルル形	?	?
14	20	1区	土器57	鳥類	イヌ	頭頂	M L	ルル形	?	?
14	21	1区	土器58	鳥類	イヌ	頭頂	M L	ルル形	?	?
14	22	1区	土器59	鳥類	イヌ	頭頂	M L	ルル形	?	?
14	23	1区	土器60	鳥類	イヌ	頭頂	M L	ルル形 + dia	?	?
14	24	1区	土器61	鳥類	イヌ	頭頂	M L	ルル形 + dist + dia	?	proximaldiaで2分される
14	25	1区	土器62	鳥類	イヌ	頭頂	M L	ルル形 + dist + dia	?	diaで2分される
14	26	1区	土器63	鳥類	イヌ	頭頂	M L	ルル形	?	?
14	27	1区	土器64	鳥類	イヌ	頭頂	M L	ルル形	?	?
14	28	1区	土器65	鳥類	イヌ	頭頂	M L	ルル形 + dia	?	?
14	30	1区	土器66	鳥類	イヌ	頭頂	M L	ルル形	?	?
36	1	1区	土器67	鳥類	ドバト	頭頂骨	M L	後頭骨、頭頂骨	?	?
25	1	2区	土器68	鳥類	イヌシ類	頭骨	L R	dist + dia	d : f	ヌマ畠み既? (prox)
27	1	2区	土器69	鳥類	ニホンジカ	頭骨	L R	dist + dia	d : f	ヌマ畠み既 (prox)
7	1	1区	土器70	鳥類	イエネコ	人筋骨	L R	ルル形	dist + dia	なし
26	1	2区	土器71	鳥類	ニホンジカ	人筋骨	R L	ルル形 + dia	d : f ?	ヌマ畠み既
41	1	2区	土器72	鳥類	イヌ	下部骨	R L	板樋骨	dia : cm ?	?

※ 富岡直人、立石和也（岡山理科大学）の同定による

遺構一覧表

井戸

掘出 遺構名 区名	調査 遺構名	旧遺 構名	掘り方 (cm)			井側 (cm)			底面海拔 高 (cm)	出土遺物	時期
			長さ	幅	深さ	長さ	幅	深さ			
井戸1	1区	12	321	225	213	80	72	213	-21	陶磁器・土師器・瓦質上器・占錢・木器	18世紀末～19世紀
井戸2	2区	47	105	98	107				56	陶磁器・土師器	19世紀半ば以降
井戸3	2区	40	79	70	82				97	土師器・木器	古墳前期

土塙

掘出 遺構名 区名	調査 遺構名	旧遺 構名	平面形			規模 (cm)			断面形	底面海拔 高 (cm)	出土遺物	時期
			長さ	幅	深さ	長さ	幅	深さ				
土塙1	1区	13	圓丸方形	400	370	86	逆凸形	88	陶器・煙管形首	18世紀後半～19世紀前半		
土塙2	1区	18	長方形	463	383	77	逆凹型	88	陶磁器・土師器・木製椀	19世紀代		
土塙3	1区	19	長方形	110	90	10	逆台形	158	陶器皿・土師器皿	18世紀後半～19世紀代		
土塙4	1区	50	楕円形	70	45	16	椀形	158	煙管形首	18世紀前半		
土塙5	1区	51	楕円形	80	61	13	皿形	162	陶器皿・土師器皿	18世紀前半		
土塙6	1区	53	方形	215	(90)	100	長方形	80	銀漆碗・土製鉢型	18世紀前半		
土塙7	1区	6	不整楕円形	520	428	72	逆凸形	116	陶磁器・土師器・木器・陶製人形	18世紀後半～19世紀代		
土塙8	1区	5	方形	186	170	20	長方形	160		19世紀代		
土塙9	1区	9	不整方形	710	192	22	皿形	162	陶器皿・埴輪・木婆下臥	17世紀後半以降		
土塙10	1区	10	楕円形	140	139	34	椀形	153	埴輪皿・瓦・木製椀	18世紀後半以降		
土塙11	1区	4	方形	277	234	51	長方形	140	陶器皿・土師器・瓦質土器・木器・陶製人形・金属器・瓦片	19世紀中頃以降		
土塙12	1区	3	不整圓形	390	(212)	84	椀形	142	陶磁器・土師器・木器	19世紀前半以降		
土塙13	1区	2	不整形	284	(142)	26	皿形	163	陶器皿	19世紀前半以降		
土塙14	1区	7	不整形	(101)	(49)	34	不整形	66	—			
土塙15	2区	43	楕円形	230	220	44	逆凹型	146	陶磁器・土師器・木器・人形	19世紀前半以降		
土塙16	2区	44	楕円形	148	134	18	皿形	174		19世紀前半以降		
土塙17	2区	46	圓丸方形	202	188	30	皿形	162	前頭鏡	19世紀前半以降		
土塙18	2区	45	不整楕円形	932	278	38	皿形	152	陶磁器・金屬器・人形	19世紀前半以降		
土塙19	2区	31	方形	690	518	50	不整形	140	陶磁器・土師器・木器・金屬器	18世紀中頃以降		
土塙20	2区	36	圓丸方形	584	400	96	逆台形	94	陶磁器・木器・金屬器	18世紀後半～19世紀前半		
土塙21	2区	34	不整形	632	276	24	皿形	166	陶磁器・土製品・煙管吸口	18世紀後半～19世紀前半		
土塙22	2区	37	長方形	444	296	40	逆台形	140	陶磁器	17世紀代		
土塙23	2区	30	不整長方形	475	97	17	長方形	176	陶磁器	19世紀前半		
土塙24	2区	24	楕円形	240	(140)	15	皿形	174	陶磁器・木製椀	19世紀前半		
土塙25	2区	29	長楕円形	187	90	55	長方形	182	陶磁器	18世紀後半以降		
土塙26	2区	27	長楕円形	(365)	205	22	皿形	170	陶磁器	18世紀後半以降		
土塙27	2区	28	楕円形	143	125	17	皿形	173		18世紀後半以降		
土塙28	2区	26	圓丸方形	358	260	50	椀形	120	陶磁器	18世紀後半以降		
土塙29	2区	23	不整形	215	140	27	皿形	164	陶磁器・木器	19世紀前半		
土塙30	2区	55	不整形	148	(107)	118	不整形	82	穿生上器	弥生時代後期末葉		
土塙31	T3		楕円形	107	(56)	71	袋状	77	—	弥生時代後期末葉		

満・たわみ

掘出 遺構名 区名	調査 遺構名	旧遺 構名	規模 (cm)			断面形	底面海拔 高 (cm)	出土遺物	時期
			換出長	幅	深さ				
満1A	1・2区	1C	4750	175	60	逆台形	136～175	陶磁器・土師器・瓦・瓦質上器・金屬器・木器・蟹魚骨	18世紀前半以降
満1B	1・2区	1B	6550	108	32	逆台形	185		18世紀後半以降
満1C	1・2区	1A	6550	120	34	逆台形	148～182		19世紀前半以降

掲載 構名	調査区 名	旧道 構名	規模 (cm)			断面形	底面海拔 高 (cm)	出土遺物	時期
			横出長	幅	深さ				
溝2	2区	11	1850	80	36	逆台形	177	陶磁器・土師器	18世紀前半
溝3	1・2区	8-35	3860	84	37	方形	150	陶磁器・瓦	17世紀後半～18世紀前半
溝4	2区	57	230 (39)	10	-	-	215	陶磁器・瓦	18世紀後半以降
溝5	2区	49	1200	32	8	逆台形	161	-	古墳時代
溝6	2区	48	950	27	8	逆台形	181	弥生上層	古墳時代
溝7	2区	38	1360	26	9	不整形	170	-	弥生時代
溝8	2区	39	1000	56	9	不整形	170	弥生中期十器	弥生時代中期
たわみ1	1区	21	720	100	11	不整形	164	-	弥生時代中期
たわみ2	2区	22	1440	177	15	不整形	165	-	弥生時代中期

*海抜高は断面実測部分で計測。

杭列

掲載遺構名	調査区名	旧道構名	規模 (cm)		時期	
			横出長	柱間		
杭列1	1区		58	610	130	江戸時代後半
杭列2	2区		42	1440	70	江戸時代後半
杭列3	2区		41	1840	江戸時代後半	

遺物観察表

土器

番号	固有名	遺構名	種別	器種	計測値 (cm)		色調	表面質	文様等	断面 長: 短 石: 石 木: 木 竹: 竹	状態	形態子供の特徴
					口径	底径						
1	8	井戸1	塗村	小甌	6.3	3.3	1.6	赤褐色(158/80)	滑・漆器感(360度)	精良	井戸塗村	-
2	8	井戸1	塗村	小甌	6.4	3.3	1.4	赤褐色(158/80)	滑・白(077/7)	精良	井戸塗村	-
3	8	井戸1	塗村	甌	9.2	4.2	5.1	赤褐色(158/80)	滑・黒(077/7)	精良	井戸塗村(158/80)	1/2底
4	8	井戸1	施器	甌	-	4.4	(2.2)	赤褐色(158/80)	文様(動物)	精良	井戸施器	1/2底
5	8	井戸1	塗村	甌	11.2	5.6	6.3	赤褐色(158/80)	滑・漆器感(167/7/5)	精良	井戸塗村(158/80)	1/2底
6	8	井戸1	施器	小甌	5.2	2.2	3.3	赤褐色(158/80)	文様(動物)	精良	井戸施器	1/2底
7	8	井戸1	塗村	甌	9.4	3.5	5.3	赤褐色(158/80)	滑・黒(077/7)	精良	井戸塗村(158/80)	1/2底
8	9	井戸1	塗村	甌	9.2	3.6	5.4	赤褐色(158/80)	滑・黒(077/7)	精良	井戸塗村(158/80)	1/2底
9	9	井戸1	塗村	甌	11.4	4.4	6.5	赤褐色(158/80)	滑・黒(077/7)	精良	井戸塗村(158/80)	1/2底
10	9	井戸1	塗村	甌	14.3	9.0	10.3	赤褐色(158/80)	滑・漆器感(360度)	精良	井戸塗村(158/80)	1/3
11	9	井戸1	塗村	甌	9.8	5.2	2.1	赤褐色(158/80)	滑・黒(077/7)	精良	井戸塗村(158/80)	1/2底 (6.8cm) 和(2.7cm) 大 1.8cm
12	9	井戸1	青釉	甌	9.5	-	(9.6)	青・白(158/80)	滑・白(167/7/5)	精良	井戸青釉(2/5)	1/2底
13	9	井戸1	青釉	青甌	10.0	7.0	6.4	青・白(158/80)	滑・白(167/7/5)	精良	井戸青釉(2/5)	1/3
14	9	井戸1	青釉	青甌	11.0	-	(5.1)	青・白(158/80)	滑・白(167/7/5)	精良	井戸青釉(2/5)	1/3
15	9	井戸1	白甌	甌	-	6.3	(6.3)	青・白(158/80)	滑・白(167/7/5)	0.5mm以下	井戸白甌	1/2底
16	9	井戸1	塗村	水漬	-	-	-	赤褐色(158/80)	滑・漆器感(360度)	精良	全体の1/4程度	井戸(158cm) 和(1.85cm) 22(3.4cm)
17	9	井戸1	陶器	甌	9.4	3.3	6.0	赤褐色(158/80)	滑・灰(2.27/2)	0.5mm以下	井戸陶	1/2底
18	9	井戸1	陶器	小甌	6.8	2.4	3.8	赤褐色(158/80)	滑・白(2.56/2)	0.5mm以下	井戸陶	1/2底
19	9	井戸1	陶器	甌	9.0	4.7	6.5	赤褐色(158/80)	滑・白(2.56/2)	0.5mm以下	井戸陶	1/3
20	9	井戸1	陶器	甌	12.8	-	(8.6)	赤褐色(158/80)	滑・白(2.56/2)	0.5mm以下	井戸陶	1/3
21	9	井戸1	陶器	甌	31.2	21.4	17.5	赤褐色(158/80)	滑・白(2.56/2)	1mm以下	井戸陶	1/4
22	9	井戸1	陶器	小甌	5.4	6.3	7.3	赤褐色(158/80)	滑・白(2.56/2)	2mm以下	井戸陶	1/3
23	9	井戸1	陶器	甌	-	8.0	(8.3)	赤褐色(158/80)	滑・白(2.56/2)	0.5mm以下	井戸陶	1/2底
24	9	井戸1	陶器	甌	-	10.4	(12.8)	赤褐色(158/80)	滑・白(2.56/2)	0.5mm以下	井戸陶	1/3
25	9	井戸1	陶器	甌	5.7	8.0	7.4	赤褐色(158/80)	滑・白(2.56/2)	0.5mm以下	井戸陶	1/3
26	9	井戸1	陶器	桔鉢	-	14.0	(7.2)	赤褐色(158/80)	滑・白(2.56/2)	4mm以	井戸桔鉢	1/4
27	9	井戸1	陶器	甌	10.0	11.0	6.75	赤褐色(158/80)	滑・白(2.56/2)	2mm以下	井戸甌	1/3
28	9	井戸1	陶器	甌	22.8	-	(11.3)	赤褐色(158/80)	滑・白(2.56/2)	1mm以下	井戸甌	1/3
29	9	井戸1	陶器	明治型	10.2	-	1.8	赤褐色(158/80)	滑・白(2.56/2)	0.5mm以下	井戸明治型	1/3
30	9	井戸1	陶器	明治型	7.8	-	1.3	赤褐色(158/80)	滑・白(2.56/2)	0.5mm以下	井戸明治型	2/3

科 属 种 名	遺作名	種別	留傳	J-標目 (cm)			色調	葉基部	文獻種	等級		特徵		
				1月	4月	留傳				長	寬			
31	9月-1	上面雷	粗	13.2	8.6	1.9	淡黃褐色	圓形	無	1mm以下	長, 尖	1/4	伴生	
32	9月-1	上面雷	粗	7.7	4.2	1.4	淡黃褐色	圓形	無	1mm以下	長, 尖	2/4	伴生	
33	9月-1	上面雷	粗	8.3	6.6	1.4	淡黃褐色	圓形	無	1mm以下	長, 尖	不是定形	伴生	
34	9月-1	上面雷	細條	35.4	-	(3.5)	黃褐色	圓形	無	3mm以下	短, 長	1/4	伴生	
35	10月-1	上面雷	細條	30.0	-	(6.7)	黃褐色	圓形	無	2mm以下	短, 長	1/4	伴生	
36	10月-1	上面雷	大沫	27.0	20.0	1.7	黃褐色	圓形	無	2mm以下	短, 長	1/2	伴生	
37	11月-1	上面雷	粗	8.6	-	(4.3)	黃褐色	圓形	無	0.5mm以下	短, 長	1/4	伴生	
38	12月-2	土塵2	粗	5.6	(1.2)	0.5	黃褐色	圓形	無	1mm以下	短, 短	1/4	內面紅斑, 雜色 淡黃褐色, 雜色黃色 葉尖及葉緣	
39	1月-2	染村	粗	10.4	5.5	2.55	黃褐色	圓形	無	1mm以下	短, 短	1/4	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
40	1月-2	土塵2	染村	7.0	4.0	5.4	黃褐色	圓形	無	1mm以下	短, 短	1/1	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
41	1月-2	染村	水漬	21.0	13.7	2.8	黃褐色	圓形	無	1mm以下	短, 短	1/4	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
42	1月-2	土塵2	染村	粗	10.1	4.0	7.1	黃褐色	圓形	無	1mm以下	短, 短	1/4	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣
43	1月-2	土塵2	胸腺	19.4	7.4	5.6	黃褐色	圓形	無	1mm以下	短, 短	2/3	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
44	1月-2	土塵2	胸腺	20.0	7.4	5.6	黃褐色	圓形	無	1mm以下	短, 短	1/3	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
45	1月-2	土塵2	胸腺	20.0	7.4	5.6	黃褐色	圓形	無	1mm以下	短, 短	1/4	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
46	1月-2	土塵2	胸腺	20.0	7.4	5.6	黃褐色	圓形	無	1mm以下	短, 短	1/4	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
47	1月-2	土塵2	胸腺	17.9	7.7	6.7	黃褐色	圓形	無	1mm以下	短, 短	2/3	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
48	1月-2	土塵2	胸腺	21.8	(8.5)	6.5	黃褐色	圓形	無	1mm以下	短, 短	1/4	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
49	1月-2	土塵2	胸腺	12.1	(9.1)	3.5	黃褐色	圓形	無	1mm以下	短, 短	1/4	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
50	1月-2	土塵2	胸腺	19.4	15.2	2.2	黃褐色	圓形	無	1mm以下	短, 短	1/3	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
51	1月-2	土塵2	胸腺	17.9	2.6	3.2	黃褐色	圓形	無	1mm以下	短, 短	1/4	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
52	1月-2	土塵2	胸腺	31.2	(6.0)	6.0	黃褐色	圓形	無	1mm以下	短, 短	1/4	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
53	1月-2	土塵2	胸腺	—	—	(2.0)	黃褐色	圓形	無	0.5mm以下	短, 短	0.5mm以下	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
54	1月-2	土塵2	胸腺	8.3	6.3	1.3	黃褐色	圓形	無	0.5mm以下	短, 短	1/2	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
55	1月-5	上面雷	粗	4.9	(1.95)	0.5	黃褐色	圓形	無	0.5mm以下	短, 短	高戶原	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
56	1月-5	上面雷	灯明受皿	11.2	6.9	2.05	留傳	留傳	無	1mm以下	短, 短	高戶原	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
57	1月-6	染村	粗	4.2	(1.3)	0.5	黃褐色	圓形	無	1mm以下	短, 短	高戶原	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
58	1月-7	染村	粗	12.4	(2.4)	0.5	黃褐色	圓形	無	1mm以下	短, 短	1/4	17世母代一 葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
59	1月-7	染村	細條	—	(3.5)	(3.8)	黃褐色	圓形	無	1mm以下	短, 短	1/4	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
60	1月-7	上面雷	粗	5.2	3.0	3.0	黃褐色	圓形	無	0.5mm以下	短, 短	1/2	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
61	1月-7	上面雷	粗	9.9	3.6	5.2	黃褐色	圓形	無	0.5mm以下	短, 短	1/2	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
62	1月-7	上面雷	胸腺	—	(4.6)	0.5	黃褐色	圓形	無	0.5mm以下	短, 短	1/2	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
63	1月-7	上面雷	胸腺	16.35	3.5	3.5	黃褐色	圓形	無	0.5mm以下	短, 短	1/2	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
64	1月-7	上面雷	胸腺	—	3.1	2.1	黃褐色	圓形	無	0.5mm以下	短, 短	1/2	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
65	1月-7	上面雷	粗	—	(14.6)	12.8	黃褐色	圓形	無	0.5mm以下	短, 短	1/2	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
66	1月-7	上面雷	胸腺	14.0	18.7	6.9	黃褐色	圓形	無	0.5mm以下	短, 短	1/5	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
67	1月-7	上面雷	胸腺	—	8.3	(1.85)	黃褐色	圓形	無	0.5mm以下	短, 短	1/4	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
68	1月-7	上面雷	胸腺	—	10.4	(0.9)	黃褐色	圓形	無	0.5mm以下	短, 短	1/4	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
69	1月-7	上面雷	胸腺	23.6	16.6	9.1	黃褐色	圓形	無	0.5mm以下	短, 短	1/4	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
70	1月-7	上面雷	寬	29.7	18.4	34.9	外海褐色	圓形	內海褐色	0.5mm以下	短, 短	全体の1/3弱	厚, 平が化粧化-般化-般 葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
71	1月-7	上面雷	胸腺	—	(4.6)	(4.5)	留傳	留傳	無	0.5mm以下	短, 短	1/4	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
72	1月-7	上面雷	粗	—	3.8	(2.6)	黃褐色	圓形	無	0.5mm以下	短, 短	1/2	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
73	1月-7	上面雷	胸腺	—	—	(6.1)	黃褐色	圓形	無	0.5mm以下	短, 短	1/2	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
74	1月-7	上面雷	胸腺	—	14.0	(6.5)	黃褐色	圓形	無	0.5mm以下	短, 短	1/4	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
75	2月-10	染村	小葉	—	4.0	1.4	留傳	留傳	無	0.5mm以下	短, 短	1/2	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣	
76	2月-10	其	叶丸瓦	—	—	留傳	留傳	無	0.5mm以下	短, 短	瓦屋部1/1	葉尖及葉緣 葉面黃色, 葉緣 葉尖及葉緣		
77	2月-10	其	瓦	—	—	留傳	留傳	無	0.5mm以下	短, 短	1/1	瓦屋部1/1		
78	2月-10	染村	粗	12.3	6.4	7.4	留傳	留傳	無	1mm以下	長, 尖	1/4	瓦瓦原, 番屋瓦下	
79	2月-10	染村	粗	11.6	6.6	6.4	留傳	留傳	無	1mm以下	長, 尖	1/4	留傳	
80	2月-10	染村	粗	—	6.0	(1.9)	留傳	留傳	無	1mm以下	長, 尖	留傳1/1	留傳	
81	2月-10	染村	粗	9.1	5.0	2.8	3.3	留傳	留傳	無	1mm以下	短, 短	1/2	留傳
82	2月-10	土塵2	粗	11.0	4.2	6.2	留傳	留傳	無	0.5mm以下	短, 短	1/3	留傳	
83	2月-10	染村	粗	10.0	4.0	5.4	留傳	留傳	無	0.5mm以下	短, 短	4/5	留傳	
84	2月-10	染村	小葉	—	4.4	(4.1)	留傳	留傳	無	0.5mm以下	短, 短	留傳1/1	留傳	

海拔 高さ m	国 名	地 点	種別	樹種	計測値 (cm)		色調 葉:葉裏 花:花被	当主 長者名 若者名 栽培者名	状態	用語手法の特徴等
					平均	最高				
85	23	土壤1	染付	蘿	9.4	4.8	3.8 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	1/256 葉付無葉
85	23	土壤1	染付	蘿	5.0	2.8	2.9 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	1/2 葉付無葉
87	23	土壤1	染付	小橘	7.4	4.2	6.7 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	1/2/16 葉付無葉
88	23	土壤1	染付	小橘	7.3	3.4	6.2 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	1/2/16 葉付無葉
89	23	土壤1	染付	蘿	8.7	3.3	2.8 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	1/2/16 葉付無葉
90	23	土壤1	染付	蘿	8.6	3.3	3.7 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	2/3 葉付無葉
91	24	土壤1	染付	蘿	8.4	3.5	2.9 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	1/2/16 葉付無葉
92	24	土壤1	染付	蘿	9.2	3.8	3.9 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	3/4 葉付無葉
93	24	土壤1	染付	蘿	-	6.0	(1.5) 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	甚-低甚1/3 葉付無葉
94	24	土壤1	染付	蘿	20.0	10.8	4.4 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	1/3 葉付無葉
95	24	土壤1	染付	蘿	17.0	9.5	7.3 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	4/5 葉付無葉
96	24	土壤1	染付	蘿	15.0	6.0	7.4 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	1/2 葉付無葉
97	24	土壤1	染付	蘿	11.8	8.0	2.3 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	1/4 葉付無葉
98	24	土壤1	染付	蘿	15.3	9.6	4.4 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	1/4 葉付無葉
99	24	土壤1	染付	蘿	11.7	5.8	2.4 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	1/6 葉付無葉
100	24	土壤1	染付	蘿	13.8	7.8	3.7 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	1/2/6 葉付無葉
101	24	土壤1	染付	蘿	3.0	-	1.5 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	空形
102	24	土壤1	染付	蘿	5.4	-	(2.7) 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	4/6 葉付無葉
103	24	土壤1	染付	蘿	15.6	3.4	9.3 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	2/3 私共?
104	24	土壤1	染付	蘿	-	5.0	(9.6) 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	白輪(5/5/3) 私共(5/5/3)
105	24	土壤1	白輪	柿木	17.7	10.7	14.0 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	1/2/16 用語手法: 標記(5/5/3) 記入(5/5/3)
106	24	土壤1	染付	蘿	10.0	3.5	6.5 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	1/4 葉付無葉
107	24	土壤1	染付	蘿	10.8	4.2	7.4 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	1/2 葉付無葉
108	24	土壤1	染付	小橘	8.0	3.0	4.6 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	0.5mm以下短葉, 下白 葉付無葉
109	24	土壤1	染付	小橘	7.2	-	(4.7) 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	0.5mm以下短葉, 下白 葉付無葉
110	24	土壤1	染付	蘿	6.2	4.0	3.2 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	3/4 插入(5/5/3)
111	24	土壤1	染付	蘿	6.9	3.8	3.2 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	0.5mm以下短葉, 下白 葉付無葉
112	24	土壤1	染付	小橘	8.3	3.6	5.3 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	3/4 葉付無葉
113	24	土壤1	染付	小橘	9.2	3.8	5.3 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	1/2 葉付無葉
114	24	土壤1	染付	蘿	7.4	-	(4.5) 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	0.5mm以下短葉, 下白 葉付無葉
115	25	土壤1	染付	蘿	7.2	8.3	14.0 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	0.5mm以下短葉, 下白 葉付無葉
116	25	土壤1	染付	蘿	18.0	-	(3.4) 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	上部少, 短葉, 下白 葉付無葉
117	25	土壤1	染付	蘿	15.0	6.0	8.4 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	1/2/6 叶下少, 短葉, 下白
118	25	土壤1	染付	蘿	15.2	6.5	7.2 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	0.5mm以下短葉, 下白 葉付無葉
119	25	土壤1	染付	明月之松	8.5	5.5	5.2 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	1/2/16 白松の葉の裏文
120	25	土壤1	染付	明月之松	9.2	3.5	1.7 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	0.5mm以下短葉, 下白 葉付無葉
121	25	土壤1	染付	蘿	-	-	(4.5) 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	1/2/16 白松の葉の裏文
122	25	土壤1	染付	明月之松	9.6	3.5	1.5 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	0.5mm以下短葉, 下白 葉付無葉
123	25	土壤1	染付	蘿	8.0	5.6	0.8 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	0.5mm以下短葉, 下白 葉付無葉
124	25	土壤1	染付	蘿	-	-	(1.6) 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	0.5mm以下短葉, 下白 葉付無葉
125	25	土壤1	染付	蘿	-	-	(1.7) 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	0.5mm以下短葉, 下白 葉付無葉
126	25	土壤1	染付	人影鬼	1.8	4.8	12.8 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	0.5mm以下短葉, 下白 葉付無葉
127	25	土壤1	染付	明月之松	7.0	4.9	1.2 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	0.5mm以下短葉, 下白 葉付無葉
128	25	土壤1	染付	蘿	28.5	14.4	10.7 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	稍良	1/2/6 外壁に翠葉
131	25	土壤1	染付	蘿	33.6	21.0	16.8 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	2mm以下短葉, 下白 葉付無葉	1/2 葉付無葉
132	25	土壤1	染付	蘿	30.4	17.6	14.0 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	3mm以下短葉, 下白 葉付無葉	1/2/6 葉付無葉
133	25	土壤1	染付	蘿	34.0	17.4	11.5 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	新芽(5/5/3) 新芽(5/5/3)	1mm以下短葉, 黑葉 葉付無葉	1/2 黒葉石灰
134	25	土壤1	染付	蘿	29.0	29.6	10.2 葉:葉裏(5/5/3)	新芽(5/5/3)	0mm以下短葉, 黑葉 葉付無葉	1/2 黒葉石灰
135	26	土壤1	瓦	村丸瓦	-	-	40cm(5/5/3)	1mm以下短葉, 黑葉 葉付無葉	1/2 瓦の端に翠葉	14.9cm外壁 (13.3cm内壁), 4cm
136	26	土壤1	瓦	丸瓦	-	-	40cm(5/5/3)	1mm以下短葉, 黑葉 葉付無葉	1/2 瓦の端に翠葉	18.75cm外壁 (14.5cm内壁), 4cm
137	26	土壤1	瓦	丸瓦	-	-	40cm(5/5/3)	1mm以下短葉, 黑葉 葉付無葉	1/2 瓦の端に翠葉	22.5cm外壁 (18.3cm内壁), 4cm
138	26	土壤1	瓦	村半瓦	-	-	40cm(5/5/3)	1mm以下短葉, 黑葉 葉付無葉	1/2 瓦の端に翠葉	24.4cm外壁 (19.8cm内壁), 4cm
139	26	土壤1	瓦	瓦	18.5	17.3	16.9 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	1mm以下短葉, 黑葉 葉付無葉	1/2 瓦の端に翠葉	24.4cm外壁 (19.8cm内壁), 4cm
140	26	土壤1	瓦	瓦	7.0	4.7	1.2 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	2mm以下短葉, 黑葉 葉付無葉	2/3 瓦の端に翠葉	24.4cm外壁 (19.8cm内壁), 4cm
141	26	土壤1	瓦	瓦	-	-	外輪瓦(5/5/3) 内輪瓦(5/5/3)	1mm以下短葉, 黑葉 葉付無葉	1/2 瓦の端に翠葉	24.4cm外壁 (19.8cm内壁), 4cm
142	26	土壤1	瓦	瓦	-	-	(10.2) 葉:葉裏(5/5/3) 花:花被(5/5/3)	2mm以下短葉, 黑葉 葉付無葉	1/2 瓦の端に翠葉	24.4cm外壁 (19.8cm内壁), 4cm

地被 種 名	固 有 量	作付名	種別	樹種	計測値(cm)			色調 葉・葉裏 花・果	当主 長男・若子・百代 等・栽培者	状態	用 耕 手 法の特徴など	
					1月 度	4月 度	露 蓋					
143	27	上級12	桑村	桑	10.4	4.2	5.9	赤褐色(5YR10/3) 桑葉(5YR10/3) 木質化(4.5YR8/2)	飼育	1/5	水内内側田植付耕作	
144	27	上級12	桑村	桑	9.9	4.0	4.9	赤褐色(5YR10/3) 桑葉(5YR10/3) 木質化(4.5YR8/2)	飼育	1/2	夏秋耕作	
145	27	上級12	桑村	桑	13.6	8.0	3.0	赤褐色(5YR10/3) 桑葉(5YR10/3) 木質化(4.5YR8/2)	飼育	1/26	夏秋耕作	
146	27	上級12	桑村	桑	19.0	12.0	2.9	赤褐色(5YR10/3) 桑葉(5YR10/3) 木質化(4.5YR8/2)	飼育	1/5	輪作休耕か 量付耕作	
147	27	上級12	桑村	桑	16.0	5.6	5.1	赤褐色(5YR10/3) 桑葉(5YR10/3) 木質化(4.5YR8/2)	0.5cm以下枯死 稲 不少	4/5	豆込耕付水内側田植付耕作	
148	27	上級12	桑村	桑	13.4	5.2	6.4	赤褐色(5YR10/3) 桑葉(5YR10/3) 木質化(4.5YR8/2)	0.5cm以下枯死 稲 不少	2/3	西田浅尾毛广文耕	
149	27	上級12	桑村	桑	-	9.5	(7.5)	赤褐色(5YR10/3) 桑葉(5YR10/3) 木質化(4.5YR8/2)	3mm以下枯死 稲 稲 不少	1/3	水内田植付	
150	27	上級12	桑村	桑	6.7	3.5	5.4	赤褐色(5YR10/3) 桑葉(5YR10/3) 木質化(4.5YR8/2)	0.5cm以下枯死 不白	1/3	西田浅尾毛广文耕	
151	27	上級12	桑村	桑	10.0	6.8	6.0	赤褐色(5YR10/3) 桑葉(5YR10/3) 木質化(4.5YR8/2)	2mm以下枯死 稲 不少	1/4	西田浅尾毛广文耕	
152	27	上級12	桑村	桑	-	8.3	(2.7)	赤褐色(5YR10/3) 桑葉(5YR10/3) 木質化(4.5YR8/2)	0.5cm以下枯死 稲 不白	1/3	稻田深松除草化水内側	
153	27	上級12	桑村	桑	11.4	-	(1.8)	赤褐色(5YR10/3) 桑葉(5YR10/3) 木質化(4.5YR8/2)	0.5cm以下枯死 稲 不白	1/4	日本芝生化水内側	
154	27	上級12	桑村	桑	19.3	10.0	8.5	赤褐色(5YR10/3) 桑葉(5YR10/3) 木質化(4.5YR8/2)	0.5cm以下枯死 稲 不白	1/3	静松田 1回目	
155	28	上級13	桑村	桑	-	(4.5)	(4.5)	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	4/5	桑村休耕	
156	28	上級13	桑村	小桑	5.4	2.8	1.7	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	4/5	桑村休耕	
157	28	上級13	桑村	桑	-	9.7	(2.3)	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	底作1/4	桑村休耕	
158	28	上級13	桑村	桑	-	1.8	(2.1)	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	底作1/2	桑村休耕	
159	28	上級13	桑村	桑	-	(6.2)	(6.2)	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	0.5cm以下枯死 稲 不白	1/3	前田浅尾毛广文耕	
160	28	上級13	桑村	桑	6.7	4.1	1.2	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	1mm以下枯死 稲 不白	1/4	浅松除草化水内側	
161	28	上級13	桑村	桑	6.7	4.5	1.1	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	1mm以下枯死 稲 不白	3/4	浅松除草化水内側	
162	28	上級13	桑村	桑	22.0	11.0	7.7	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	1~7mm枯死 稲 稲 不少	1/3	手刈田んぼ	
163	28	上級13	桑村	桑	1.1	-	(5.7)	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	1/3	人手刈り手刈りアカホロ 布袋布袋除草	
164	28	上級13	桑村	桑	26.2	-	(14.6)	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	2mm以下枯死 稲 不白	1/3	前田浅尾毛广文耕	
165	30	上級15~16	桑村	桑	-	3.65	(3.5)	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	底作1/2耕作	前田浅尾毛广文耕	
166	30	上級15~16	桑村	桑	8.6	-	(5.6)	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	1/2耕作+底作1/2	前田浅尾毛广文耕	
167	30	上級15~16	桑村	桑	13.2	7.4	3.1	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	全体の1/4	桑村浸透見 2回播	
168	30	上級15~16	桑村	桑	9.1	3.8	5.55	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	全体の2/3	信和 田植付耕作	
169	31	上級16	桑村	桑	-	3.4	(2.25)	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	見込み多分	新田 10月耕 4回	
170	31	上級17	桑村	桑	14.6	-	(12.45)	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	1/4耕作+底作1/4	信和10月耕作	
171	32	上級18	桑村	桑	8.9	3.4	5.1	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	1/2耕作+底作1/2	信和 10月耕作	
172	32	上級19	桑村	桑	7.7	4.6	5.75	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	全体の1/2耕作	信和 10月耕作	
173	32	上級19	桑村	桑	8.1	(2.4)	(2.4)	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	見込み多分1/4	当信 10月耕作 内側	
174	32	上級19	桑村	桑	13.1	9.7	3.85	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	1/3耕作	信和10月耕作	
175	32	上級19	桑村	桑	15.25	6.0	8.5	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	1/4耕作+底作1/4	信和10月耕作	
176	32	上級19	桑村	桑	8.0	-	(5.0)	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	1/4耕作+底作1/2	信和10月耕作	
177	32	上級19	桑村	桑	7.8	(11.9)	7.8	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	1/3耕作+底作1/2	信和10月耕作	
178	32	上級19	桑村	桑	8.7	6.9	1.1	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	1mm以下枯死 稲 不少	SC3	既往へつり、既往	
179	32	上級20	桑村	桑	4.5	2.7	3.0	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	SC3	SC3	既往へつり既往耕	
180	33	上級20	桑村	桑	8.8	3.15	5.45	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	1/4耕作+底作1/2 水内側	SC3	既往耕既耕既手口耕既	
181	33	上級20	桑村	桑	10.65	4.4	2.0	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	1/4耕作+底作1/2	SC3	既往耕既耕既手口耕既	
182	34	上級22	桑村	桑	19.0	-	(4.0)	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	全体の1/2耕作	SC3	既往耕既耕既手口耕既	
183	34	上級22	桑村	桑	14.1	8.4	1.65	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	1mm以下枯死 稲 不少	1/2耕作+底作1/2 水内側	全体の1/2耕作	
184	34	上級22	桑村	桑	29.8	10.5	12.3	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	1mm以下枯死 稲 不少	1/2耕作+底作1/2	10月耕既耕既手口耕既	
185	35	土壌22	桑村	桑	-	4.1	(1.3)	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	信和10月耕1/4	付合会 10月耕 12月	
186	35	土壌22	桑村	小桑	-	1.1	1.0	5.2	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	口耕1/4既耕既手口耕既	既往耕既耕既手口耕既	
187	36	土壌23	桑村	桑	-	5.5	5.55	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	1mm以下枯死 稲 不少	1/2耕作	既往耕既耕既手口耕既	
188	36	土壌23	桑村	桑	6.1	3.5	5.55	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	1mm以下枯死 稲 不少	1/2耕作	既往耕既耕既手口耕既	
189	37	土壌24	桑村	角椎	-	(2.5)	(2.5)	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	1/2耕作	既往耕既耕既	
190	37	土壌24	桑村	角椎	-	1.1	1.1	5.55	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	1mm以下枯死 稲 不少	1/2耕作	既往耕既耕既手口耕既
191	37	土壌24	桑村	角椎	-	(6.4)	(4.4)	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	1mm以下枯死 中 稲 不少	1/2耕作	既往耕既耕既	
192	38	土壌25	桑村	桑	7.9	4.3	5.6	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	新田/10月耕 1/2耕作	既往耕既耕既手口耕既	
193	38	土壌25	桑村	桑	-	4.6	(6.6)	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	1mm以下枯死 稲 不少	1/2耕作	既往耕既耕既手口耕既	
194	38	土壌25	桑村	大桑	30.2	4.0	9.1	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	1/2耕作	既往耕既耕既手口耕既	
195	38	土壌25	桑村	桑	31.7	14.95	5.85	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	全体の3/4耕	全体の3/4耕	
196	39	土壌26	桑村	小桑	7.3	3.8	5.15	赤褐色(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3) 文枝桑(5YR10/3)	飼育	1/2耕作/10月耕既耕既	既往耕既耕既手口耕既	

品種 番号	固有名	選作名	種別	特徴	計測値(cm)		色調 葉表面 文様	当主 長者 若者・百姓 等の栽培歴	状態	用法手筋の特徴など
					1/16	収穫				
197	39	上山26	種子	種	10.8	4.35	6.1 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8) 文様(5/8)	精良	標準1/3~本端 1/2	油炒め 油炒め 油炒め 油炒め
198	41	I.Mits	種子	種	9.0	3.55	4.6 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8) 文様(5/8)	精良	1/3	油炒め
199	41	上山28	種子	種	8.75	3.2	2.55 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8) 文様(5/8)	精良	つまみ(2/2) 1/2	油炒め 油炒め
200	41	I.Mits	種子	種	8.75	3.05	1.6 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	2/3以上	油炒め 油炒め 油炒め
201	42	上山29	白葉	葉	1.65	4.8	12.45 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	油炒め/5枚 油炒め	油炒め
202	42	上山29	備前丸	葉種	9.1	(2.4)	外輪葉(2/5) 中輪葉(2/5) 内輪葉(2/5) 中輪葉(2/5)	精良	白葉部/油炒め	油炒め
203	42	上山29	備前丸	葉種	11.8	(5.1)	LAX-香料用(5/8) /油炒め(5/8)	「」形の葉(2/2) 少々 黄	白葉部/1~3枚 1/2	油炒め
204	47	清1	備前	葉	11.7	4.3	3.7 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8)	精良	1/2葉(5/1)/3枚のみ 1/2葉	西出町・油炒め
205	47	清1	安村	葉	9.15	3.35	2.9 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	全体の1/3弱	油炒め 油炒め 油炒め
206	47	清1	安村	葉	6.6	2.3	2.3 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	全体の3/4弱	小山田(1/2) 6.6cm 2.3×2.3cmの葉
207	47	清1	安村	葉	14.6	9.2	2.5 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	半株の1/4弱	葉の色(2/2) 程度 葉の表面(2/2) 程度
208	47	清1	安村	葉	12.4	6.9	2.6 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	全体の1/2弱 葉の表面(2/2) 程度	葉の色(2/2) 程度 葉の表面(2/2) 程度
209	47	清1	安村	葉	11.9	8.0	2.6 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	全体の1/2以上 葉の表面(2/2)	葉の表面(2/2)
210	47	清1	安村	葉	7.7	(6.8)	葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	見込み~熟成	清1-17番山に接合
211	47	清1	西脇	葉	8.75	4.25	5.5 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	半株の3/4弱	油出町上原
212	47	清1	西脇	葉	9.4	(4.9)	葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	半株の1/4弱	天王寺町
213	47	清1	西脇	葉	9.2	3.4	5.5 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	半株の1/2弱	油出町上原
214	47	清1	西脇	葉	9.9	3.2	5.4 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	半株の1/2以上	北山田花屋上原新規
215	47	清1	西脇	葉	5.45	1.65	葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	半株の1/5弱以上	北山田花屋上原新規
216	47	清1	備前丸	葉	1.7	8.25	4.6 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	「」形の葉(2/2)	白葉部/3枚	油出町上原
217	47	清1	備前丸	葉	1.7	(3.05)	外輪葉(2/2) 中輪葉(2/2)	「」形の葉(2/2)	白葉部の少枝葉 長	ニチュウ 油炒め
218	47	清1	西脇	葉	7.9	7.4	12.25 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	白葉部の少枝葉 中輪葉(2/2)	油出町花屋(5/8) 油炒め
219	47	清1	西脇	葉	14.2	(6.2)	葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	白葉部(1/2) 4枚	北山田花屋上原新規
220	47	清1	西脇	葉	6.8	6.65	5.8 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	葉の表面(2/2)	油出町花屋上原新規
221	47	清1	西脇	葉	8.8	4.1	1.1 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	全体の1/2弱	油出町花屋上原新規
222	47	清1	西脇	葉	9.7	6.8	1.6 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	1mm2枚物中長、右 白葉部(2/2) 2枚	油出町花屋上原新規
223	51	清1	西脇	葉	—	(2.35)	葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	1mm2下葉物少、左 白葉部(2/2)	北山田花屋
224	51	清1	西脇	葉	—	4.05	1.6 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	大葉 2.6cm	北山田花屋
225	55	包含葉	西脇	葉	5.2	(5.7)	葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	白葉部(1/2) 1枚 葉の表面(2/2) 1枚	北山田花屋上原新規
226	55	包含葉	備前丸	葉	—	—	—	—	1/2葉(1cm) 1枚 葉の表面(2/2) 1枚	北山田花屋上原新規
227	55	包含葉	西脇	葉	—	—	—	—	新大葉 3.5cm 3.0cm 大葉 0.2cm 葉の表面(2/2) 1枚	北山田花屋上原新規
228	55	包含葉	西脇	葉	8.45	3.7	4.8~ 5.0 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	1mm2下葉物少、右 葉の表面	北山田花屋
229	55	包含葉	西脇	葉	16.35	15.1	17.3 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	全葉の1/2弱 1/3後後半中長、G	北山田花屋上原新規
230	57	月P-3	上山苗	葉	27.9	2.75	2.75 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	1mm2後後半中長、G	コヨリ1/4~葉 3/4	外山耀和
231	57	月P-3	上山苗	葉	—	(24.55)	—	1mm2後後半中長、G	全体の1/2弱	外山耀和化物販
232	57	月P-3	上山苗	葉	7.9	6.3	5.3 葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	1mm以下葉物多、左、右 葉の表面(2/2) 1枚	1mm以下葉物多、左、右 葉の表面(2/2) 1枚	外山耀和化物販
233	58	土壌00	安生土苗	葉	—	(2.0)	葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	1mm以下葉物多、左、右 葉の表面(2/2) 1枚	1mm以下葉物多、左、右 葉の表面(2/2) 1枚	外山耀和化物販
234	60	清8	安生土苗	葉	—	(1.9)	葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	1mm以下葉物多、左、右 葉の表面(2/2) 1枚	1mm以下葉物多、左、右 葉の表面(2/2) 1枚	外山耀和化物販
235	60	たのみ 1	秀生土苗	葉	14.4	—	(4.4)	葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	2mm2下葉物多、左、右 葉の表面(2/2) 1枚	北山田花屋上原新規
236	61	包含葉	西脇	葉	26.6	(2.7)	葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	1~3mm1後後半多、左、右 葉の表面(2/2) 1枚	1mm2下葉物多、左、右 葉の表面(2/2) 1枚	北山田花屋上原新規
237	61	包含葉	西脇	葉	—	(3.0)	葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	1mm2後後半多、左、右 葉の表面(2/2) 1枚	1mm2後後半多、左、右 葉の表面(2/2) 1枚	北山田花屋上原新規
238	61	包含葉	西脇	葉	—	(4.4)	葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	1mm2後後半多、左、右 葉の表面(2/2) 1枚	1mm2後後半多、左、右 葉の表面(2/2) 1枚	北山田花屋上原新規
239	61	包含葉	西脇	葉	—	(3.9)	葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	1mm2後後半多、左、右 葉の表面(2/2) 1枚	1mm2後後半多、左、右 葉の表面(2/2) 1枚	北山田花屋上原新規
240	61	包含葉	西脇	葉	(8.0)	(1.35)	葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	1mm2後後半多、左、右 葉の表面(2/2) 1枚	1mm2後後半多、左、右 葉の表面(2/2) 1枚	北山田花屋上原新規
241	61	包含葉	西脇	葉	—	(1.5)	葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	1mm2後後半多、左、右 葉の表面(2/2) 1枚	1mm2後後半多、左、右 葉の表面(2/2) 1枚	北山田花屋上原新規
242	61	包含葉	西脇	葉	—	6.0	葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	葉の色(5/8) 2.5 葉の表面(2/2)	精良	北山田花屋上原新規
243	61	包含葉	西脇	葉	—	4.2	(2.7)	葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	精良	北山田花屋上原新規
244	61	包含葉	西脇	葉	(48.6)	(11.6)	葉の色(5/8) 葉の表面(5/8) 葉の文様(5/8) 文様(5/8)	1mm以下葉物少 少	1mm以下葉物少 少	北山田花屋上原新規

土製品

相模 番号	岡番号	遺物名	形状	寸法(単位:mm)			重量 (g)	色調	船上 其: 焼け石、瓦、瓦片、漆包物、 鉛、金等	備考	
				最大長	最大幅	最大厚					
C1	10	人形	73.1	41.8	26.7	55.37	内外灰(5.5)6(1)	0.5~2mmの砂利多量、白、黒、田舎紋	一體 人形大		
C2	17	土壌6	鉢型 (44.0) (108.0) (50.0) (195.45)	内青灰(7.5YR6/1) 外透(7.5YR7/6)				2mm以下の砂利多量、白、黒	一體 盆の盛合		
C3	19	土壌7	人形 (59.2) (29.0) 21.0 (25.6)	物語モザイク(5.5YR4/1) 馬鹿 (2.0YR3/3) 黒灰(10YR8/1)				馬鹿	黒頭瓦 背面に新・陳合板		
C4	26	土壌11	人形 (26.0) (72.0) (4.0) (42.14)	物語モザイク(5.5YR7/1) 青灰(6.0) (7.5YR6/1)				2mm以下の砂利多量	黒頭瓦 伊賀 五年瓦に墨跡		
C5	30	土壌15	人形 (69.2) (141.8) 23.3 (56.01)	青白(2.5YR7/1)				馬鹿	一體 花器に墨跡		
C6	30	土壌15	人形 (82.3) 49.3 (31.0) (54.07)	青白(2.5YR7/1) 青白(10YR7/4)				1mm以下の砂利多量、白、金古	一體 馬		
C7	30	土壌15-16	ミーチュア	内青灰(7.5YR6/6) 鉢型モザイク(10YR7.5/10)				馬鹿	馬鹿 1個 4.5cm 幅径: 4.6cm 高さ: 1cm		
C8	31	土壌18	人形 22.7 12.6 417.0 2.55	青白(2.5YR6/3) 鉢型モザイク(10YR7.5/10) な				馬鹿	二輪 馬		
C9	31	土壌18	人形 (24.7) (22.5) (26.2) (9.23)	青白(2.5YR6/3) 鉢型モザイク(7.5YR7/6)				馬鹿	馬鹿 人物モザイク (人用)		
C10	31	土壌18	人形 32.9 21.8 15.8 7.63	青白(2.5YR6/3) 鉢型モザイク (10YR8/2)				1mm以下の砂利多量、金古	馬鹿 人物 (唐松) 五年瓦		
C11	31	土壌18	人形 (56.7) 32.8 21.1 (26.9)	青白(4.0) (10YR8/2)				馬鹿	二社人形 勝利		
C12	31	土壌18	人形 (59.9) (64.1) (50.3) (60.15)	内青灰(7.5YR7/6) 鉢型モザイク(7.5YR7/6)				1mm以下の砂利多量、金古	一輪 大輪馬		
C13	31	土壌18	車輿	スノーケル付 (30.5)				馬鹿	白馬 1頭 2.1cm 幅径: 0.6cm 高さ: 1.1cm		
C14	34	土壌21	船底豆皿	59.0 42.0 16.0 26.6	青白(2.5YR6/6) ペーリング灰(10YR1/2) 青白(4.0) (12.2X8/1)			2mm以下の砂利多量、白	馬鹿 文化盤のこら 五年・漆羽		
C15	47	清1	人形 (118.5) (68.9) 4.0 (41.14)	内青灰(2.5YR6/3) (7.5YR6/3)				1mm以下の砂利多量、白、金古	財 大法天		
C16	47	清1	人形 (58.0) (27.0) 20.3 (22.8)	内青灰(2.5YR6/3) 青白(7.5YR7/4)				馬鹿	一輪 駒馬		
C17	47	清1	人形 (64.0) 32.0 22.0 (21.57)	青白(2.5YR6/3) 青白(7.5YR7/4) 青白(4.0) (31.5)				2mm以下の砂利多量	馬鹿 人物		
C18	47	清1	人形 (54.6) (44.8) (28.0) (25.07)	青白(2.5YR6/3) 青白(7.5YR7/4) 青白(4.0) (31.5)				馬鹿	馬鹿 人物をもつ馬		
C19	47	清1	人形 (70.1) (38.7) (29.7) (41.22)	青白(2.5YR6/3) 青白(7.5YR7/2)				2mm以下の砂利多量、金古	財 駒馬・ソラマツ		
C20	47	清1	陶物形	(72.8) (29.0) 14.3 (22.43)	青白(2.5YR6/3) 青白(7.5YR7/2)				金古、青白	二輪 駒馬に金古	
C21	47	清1	面鏡	55.1 34.5 8.5 19.6	内青灰(2.5YR6/3) 青白(7.5YR6/4) 青白(4.0) (21.5)			馬鹿	二輪 駒馬		
C22	47	清1	鏡		鏡通明 (こな) 小掛 (5YR5/6) 黒灰 (10YR7/5)			馬鹿	鏡 田代: 3.8cm 幅径: 2.0cm 高さ: 3.1cm		
C23	47	清1	紅葉		スノーケル付 (30.5)			馬鹿	鏡 田代: 2.1cm 幅径: 0.7cm 高さ: 1.1cm		
C24	47	清1	枝物 (43.1) (55.2) (19.3) (14.86)	内青灰(2.5YR6/3) (7.5YR7/2)				1mm以下の砂利多量、長・古	財 木の枝物		
C25	47	清1	鍔型	(61.0) (124.0) (72.0) (319.98)	青白(2.5YR6/3) 青白(7.5YR6/3)			3~6cmの砂利 2mm以上の砂利	一輪 駒馬		
C26	47	清1	黄袋	39.5 7.0 16.5 64.39	黄袋 (5YR7/2)			1mm以下の砂利多量、白、金古	馬鹿 五年瓦の鏡通明		
C27	51	清3	馬具	(32.0) (25.0) 10.0 4.65	青白(4.0) (15.7) (2.5) 青白 (2.5YR6/2.5) 青白 (4.0) (15.7)			2mm以下の砂利多量	馬糞 盆		
C28	55	清合1	面鏡	(46.8) (42.6) 14.5 (17.08)	青白(2.5YR6/3) 青白(5YR5/3) 青白(2.5YR6/3)			3mm以下の砂利多量、青	馬糞 人物の鏡		
C29	55	清合1	人形	55.8 27.2 (264.0) 23.71	青白(2.5YR6/3) 青白(5YR6/3)			1mm以下の砂利多量	二輪 馬		

金属製品

相模番号	岡番号	遺物名	型種	計測値 (mm)			重量 (g)	材質	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
M1	10	升戸1	銭			23.3	2.70	銅	寛永通寶
M2	12	土壌1	煙管	68.0	16.1	高29.0	9.32	真鍮	羅首
M3	15	土壌4	煙管	(38.1)	8.5		(2.39)	真鍮	羅首
M4	26	土壌11	煙管	112.6	8.3		9.63	真鍮	吸口
M5	31	土壌18	銭	(101.7)	8.4	高29.1	(14.57)	鉄	片方が折れ曲がる
M6	31	土壌18	鏡		58.3	5.2	26.76	銅	八角鏡
M7	31	土壌18	煙管	25.7	12.3		3.78	真鍮	羅首
M8	32	土壌19	刀子	170.8	18.8		18.44	鉄	柄行
M9	33	土壌20	刀丁	(141.9)	22.8	2.6	(22.15)	鉄	2ヵ所折れ曲がる
M10	34	土壌21	煙管	48.4	10.0		4.91	真鍮	吸口
M11	48	満1	小柄	195.7	14.5	3.5	33.48	鉄	「備前」長崎銘
M12	48	満1	剃刀	176.0	15.0	2.0	20.62	鉄	
M13	48	満1	包丁	(157.2)	50.8	3.0	(65.04)	鉄	先端・基部欠損
M14	48	満1	小柄	69.0	13.0	4.0	10.78	銅のみ	
M15	48	満1	銀	(131.4)	(96.6)	3.0	(109.85)	鉄	先端・基部欠損
M16	48	満1	鍔	146.9	43.2	39.0	770.87	鉄	穴の中に目釘2
M17	48	満1	碇	160.0	107.3	12.3	168.78	鉄	鉤4つ 游具?
M18	48	満1B	煙管	26.5	10.0		7.31	真鍮	
M19	48	満1B	煙管	36.9	13.4	高17.1	4.02	真鍮	羅首
M20	48	満1	刃	左 87.6 右 86.2	左 5.1 右 3.8	右 3.8	18.64	鉄	針金で釘2木繩継
M21	48	満1	笄	132.5	4.1	3.6	7.09	真鍮	
M22	48	満1	簪	(134.6)	4.96	2.0	(6.11)	真鍮	扇き部分欠損か
M23	48	満1	簪	129.5	6.0	4.3	5.14	真鍮	耳かき付 花の意匠
M24	48	満1	簪	149.0	8.0	5.0	7.05	真鍮	びらびら脚 コウモリの意匠

測定番号	図番号	遺構名	器種	計測値 (mm)			重量 (g)	材質	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
M25	48	溝1	櫛	102.2	46.5	0.4	8.78	真鍮	製による打刻、赤色のビーズ付き
M26	55	溝1上包 含層	蓋		径67.0	高17.0	27.75	真鍮	花弁つまみ16弁、基部24弁
M27	55	包含層	錐	158.8	7.2		13.9	鉄	

木製品

測定番号	図番号	遺構名	器種	計測値 (cm)			備考
				最大長 (口径)	最大幅 (底径)	最大厚 (器高)	
W1	10	井戸1	杓子の底	7.13	(5.55)	0.25	
W2	10	井戸1	穀築	4.15	4.15	5.7	叩き独楽
W3	14	土壙2	櫛	9.6	5.0	3.25	朱塗り 丸に三つ柏
W4	19	土壙7	杓子	8.35	(7.6)	(4.05)	全体黒漆塗り
W5	19	土壙7	杓子	(26.7)	(9.55)	(5.65)	柄と杓の接合は復元
W6	21	土壙9	下駄	19.6	6.8	2.1	壺と本体の接合は復元
W7	22	土壙10	櫛	(3.12)	(4.35)	(0.7)	
W8	26	土壙11		(10.1)	(5.7)	0.65	表赤漆・裏黒漆塗り
W9	27	土壙12		(8.8)	(4.95)	1.2	
W10	30	土壙15	壺	12.6	3.95	3.1	内外面赤漆塗り
W11	32	土壙19	牛車		5.2	0.9	
W12	33	I-2020	舟物	(12.0)	(6.8)	0.5	底部分のみ
W13	37	土壙24	瓶			(3.7)	外側黒漆塗り、丸に変わり散り模 内側赤漆塗り
W14	42	土壙29	包丁柄	11.12	2.45	1.85	
W15	49	溝1	櫛	6.6	3.9	3.1	内外面赤漆塗り
W16	49	溝1	将棋駒	2.05	1.5	0.3	内外面に墨書き
W17	49	溝1	匙	(11.7)	(5.55)	0.6	内外面赤漆塗り
W18	49	溝1	下駄	21.5	7.9	2.9	壺を欠く
W19	49	溝1	提灯?	14.2	13.4	0.6	上下部分か、側面に穿孔
W20	55	包含層	下駄	14.3	5.5	2.0	削り下駄
W21	55	包含層	壺	23.15	6.9	2.4	刃柄付き
W22	57	井戸3	加工木	39.6	4.6	5.1	
W24		溝1	たわし				餘脱たわし、乍らのみ掛枝
W25		溝1	櫛				写真のみ掲載

石製品

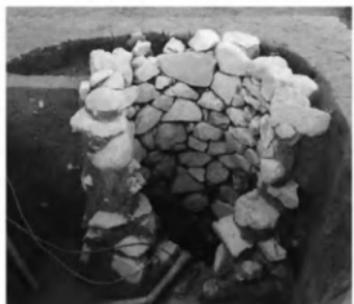
測定番号	図番号	遺構名	器種	計測値 (mm)			重量 (g)	石材	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
S1	26	I-縦11	砾石		22.0	3.0	(2.37)		裏面削摩
S2	48	溝1	硯	(53.0)	91.0	(14.0)	(48.16)		海の上側のみ
S3	55	包含層	鋸型	34.0	(50.0)	15.0	44.79		網用の鋸抜型か
S4	55	包含層	硯	91.0	29.0	11.0	53.05		裏面鋸削あり、文字か
S5	61	包含層	石錐	18.0	(14.5)	3.0	(0.78)	サヌカイト	
S6	61	包含層	石錐	20.5	(16.0)	3.5	(0.98)	サヌカイト	
S7	61	包含層	石錐	21.5	(17.0)	4.0	(1.60)	サヌカイト	
S8	61	包含層	石錐	(22.5)	(13.5)	3.0	(0.80)	サヌカイト	
S9	61	包含層	石錐	(25.0)	17.0	3.0	(1.03)	サヌカイト	
S10	61	包含層	石錐	(29.5)	16.0	3.0	(1.76)	サヌカイト	
S11	61	包含層	石錐	27.0	18.0	3.0	1.26	サヌカイト	
S12	61	包含層	石錐	33.5	13.0	6.0	1.13	サヌカイト	
S13	61	溝1上包含層	石劍	(41.0)	30.0	11.5	(22.12)	サヌカイト	側縁に敲打痕、転用か

貝製品

測定番号	図番号	遺構名	器種	計測値 (mm)			重量 (g)	貝の種類	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
B1	48	溝1	貝杓子	109.65	88.21	1.81	29.87	イタヤガイ	穿孔2つ
B2	48	溝1	貝杓子	73.93	88.47	1.41	19.25	イタヤガイ	穿孔2つ

ガラス製品

測定番号	図番号	遺構名	器種	計測値 (mm)			重量 (g)	備考	
				最大長	最大幅	最大厚			
G1	48	溝1	簪	(80.55)	5.68	2.86	(3.80)	透明	
G2	48	溝1C	笄	(98.47)	10.57	3.93	(11.31)	中に薄い茶色入る	
G3	55	(包含層)	日葵ビン	60.03	30.17	17.86	23.51	「奉天堂樂房 人目葉」	
G4	55	包含層	おはじき		28.82	7.07	6.73	ジェードグリーン (10G3.5/5)、天神様の押印	



1 井戸 1 平面（北から）・断面（南から）



2 土壌 4・5・6・杭列 1 (東から)



3 土壌 7～12・溝 3 (北から)

図版 2



1 土壌 19・20・22・23（北から）



2 土壌 19・22（東から）

図版 3



1 土壌 25 ~ 28・溝 3 (北から)



2 溝 1 北側 (北から)

図版 4



溝 1 (北から)

図版 5



1 溝 1 南側（北から）



2 溝 1 北隅部分（南東から）



3 溝 1 北側断面（北から）



4 杭列 2（西から）



5 井戸 3（北から）

図版 6



井戸 1・土壤 1・2・4・6・7・9・11 出土遺物



土壤 11・15・18 出土遺物

図版 8

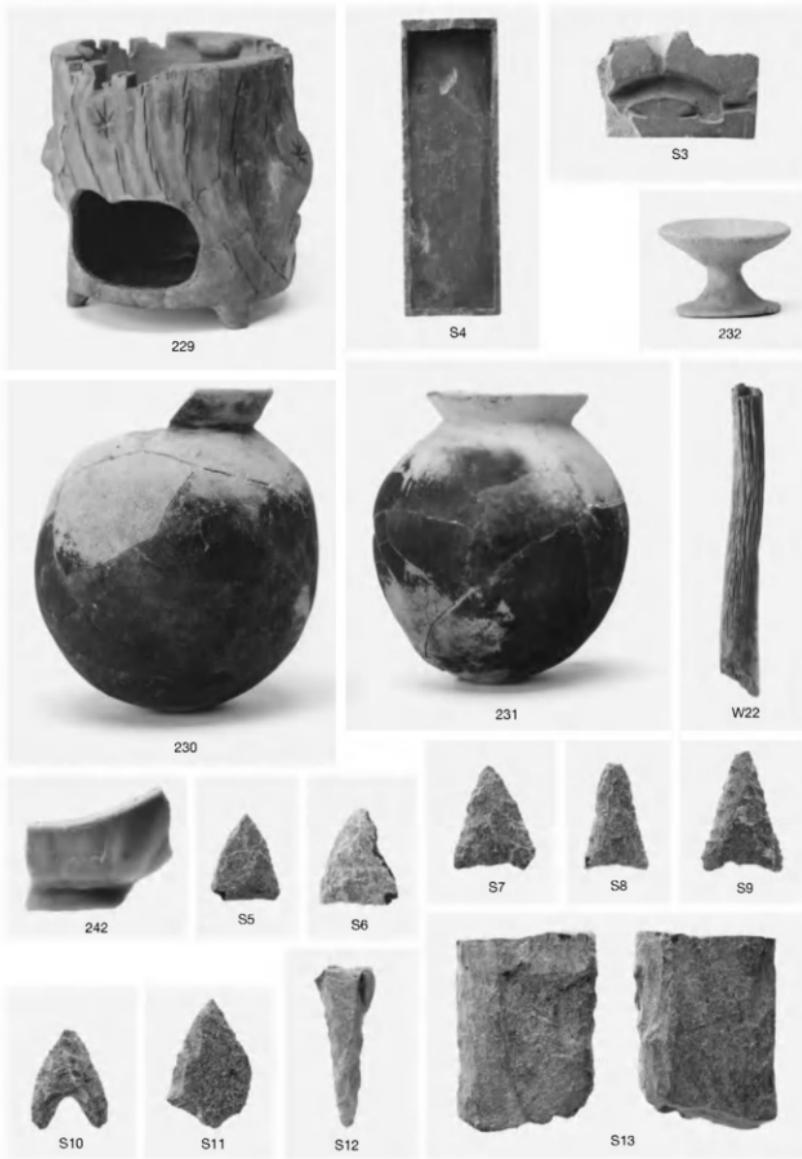


土壤 19・20・21・22・24・29・溝 1 出土遺物



溝 1・江戸時代以降包含層出土遺物

図版 10



井戸 3・包含層出土遺物

報告書抄録

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 234

南 方 遺 跡

岡山法務総合庁令新營に伴う発掘調査

平成24年2月17日 印刷

平成24年2月29日 発行

編集 岡山県古代古備文化財センター
岡山市北区西花尻1325-3

発行 岡山県教育委員会
岡山市北区内山下2-4-6

印刷 サンコー印刷株式会社
総社市真壁871-2